

静岡県埋蔵文化財センター調査報告 第32集

東野遺跡 I

第二東名No.143地点・CR35地点

縄文時代以降編・CR35地点編

第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

長泉町-12

2013

中日本高速道路株式会社東京支社
静岡県埋蔵文化財センター

序

東野遺跡は愛鷹山東南麓に位置しています。愛鷹山麓は、日本国内でも有数の埋蔵文化財包蔵地として知られており、中でも、東南麓には旧石器時代から縄文時代を中心として、大規模な遺跡が多く確認されています。

東野遺跡の発掘調査報告書の第1冊目である本書では、縄文時代以降の遺構・遺物を中心とした報告を行います。縄文時代の遺構は住居跡・土坑・集石・焼土跡・石器集中が確認されました。検出された住居跡は、縄文時代中期の勝坂式土器を伴うもので、住居の床面と炉跡の検出状況から見て、改築を行ったことが窺える興味深い資料です。また、調査区南部では、列状に並んだ土坑群も確認されました。この土坑群は、狩猟用に意図的に配置された可能性のある陥穴と考えられます。

出土遺物は、多量の土器や石器が確認されました。早期前半から晩期までの土器が出土しており、複数時期に渡って断続的に利用されていたことが窺えます。

本遺跡の資料は静岡県だけでなく、旧石器時代・縄文時代を研究する上で、非常に重要な意味を持つと考えられます。本書が、研究者のみならず、県民の皆様に広く活用され、地域の歴史を理解する一助となることを願います。

最後になりましたが、現地調査及び資料整理、並びに本書の作成にあたり、中日本高速道路株式会社東京支社ほか、各関係機関の御援助、御理解をいただきました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

2013年3月

静岡県埋蔵文化財センター所長

勝田 順也

例 言

- 1 本書は静岡県駿東郡長泉町東野字八分平269-2他に所在する東野遺跡（第二東名No.143地点・C R 35地点）の発掘調査報告書である。報告書は、平成24年度に縄文時代以降編・C R 35地点編を刊行し、次年度以降、旧石器時代～縄文時代草創期編を編集し刊行する予定である。本報告書は東野遺跡報告書の第1冊目であるため、「東野遺跡Ⅰ」とした。
- 2 調査は第二東名高速道路建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査として、中日本高速道路株式会社（旧日本道路公団静岡建設局）の委託を受け、静岡県教育委員会文化財保護課（旧静岡県教育委員会文化課）の指導のもと、長泉町教育委員会の協力を得て、財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所が実施し、平成23年度以降は、静岡県埋蔵文化財センターが同研究所の業務を引き継いで実施した。
- 3 東野遺跡の確認調査・本調査および資料整理の期間は以下のとおりである。

(No.143地点・C R 35地点)

確認調査その1	平成12年9月～平成13年3月	実掘面積1,116㎡
---------	-----------------	------------

(No.143地点)

本調査Ⅰ期	平成13年12月～平成14年3月	実掘面積3,308㎡
-------	------------------	------------

確認調査その2	平成14年8～9月	実掘面積186㎡
---------	-----------	----------

本調査Ⅱ期	平成14年9月～平成15年3月	実掘面積6,759㎡
-------	-----------------	------------

本調査Ⅲ期	平成15年4月～平成16年3月	実掘面積13,475㎡
-------	-----------------	-------------

本調査Ⅳ期	平成16年4月～平成18年3月	実掘面積15,792㎡
-------	-----------------	-------------

本調査Ⅴ期	平成19年9～11月	実掘面積851㎡
-------	------------	----------

資料整理・本報告書作成	平成22年4月～平成25年3月	
-------------	-----------------	--

- 4 調査体制は、以下のとおりである。

財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所

平成12年度（確認調査その1）

所長：齋藤 忠 副所長：山下 晃 総務部長兼常務理事：伊藤友雄 総務課長：杉木敏雄
経理専門員：稲葉保幸 総務係長：田中雅代 会計係長：大橋 薫 調査研究部長：佐藤達雄
調査研究部次長兼調査研究一課長：及川 司 調査研究二課長 篠原修二
資料課長：大石 泉 主任調査研究員：前嶋秀張 調査研究員：岩名建太郎

平成13年度（本調査Ⅰ期）

所長兼副理事長：齋藤 忠 副所長兼理事：山下 晃 総務部長兼常務理事：桑田徳幸
総務課長：本杉昭一 経理専門員：稲葉保幸 総務係長：山本広子 会計係長：大橋 薫
調査研究部長：佐藤達雄 調査研究部次長兼資料課長：栗野克己 保存処理室長：西尾太加二
調査研究部次長兼調査研究一課長：及川 司 調査研究二課長：篠原修二
調査研究三課長：飯塚晴夫 主任調査研究員：前嶋秀張 調査研究員：鈴木秀樹 後藤正人

平成14年度（確認調査その2・本調査Ⅱ期）

所長兼副理事長：齋藤 忠 副所長兼理事：飯田英夫 総務部長兼常務理事：桑田徳幸
総務課長：本杉昭一 経理専門員：稲葉保幸 総務係長：山本広子 会計係長：大橋 薫
調査研究部長：山本昇平 調査研究部次長兼資料課長：栗野克己 保存処理室長：西尾太加二
調査研究部次長兼調査研究一課長：中嶋郁夫 調査研究部次長兼調査研究二課長：佐野五十三

調査研究三課長：篠原修二 調査研究四課長：足立順司
主任調査研究員：前嶋秀張 調査研究員：村松利彦 岩崎しのぶ 高野徳多果

平成15年度（本調査Ⅲ期）

所長兼副理事長：斉藤 忠 副所長兼理事：飯田英夫 総務部長兼常務理事：桑田徳幸
総務部次長兼総務課長：鎌田英巳 経理専門員：稲葉保幸 総務係長：山本広子
会計係長：野島尚紀 調査研究部長：山本昇平 調査研究部次長兼資料課長：栗野克己
保存処理室長：西尾太加二 調査研究部次長兼調査研究一課長：中嶋郁夫
調査研究部次長兼調査研究二課長：佐野五十三 調査研究三課長：足立順司
主任調査研究員：前嶋秀張 調査研究員：大石 泉 高野徳多果 原田利志美 越智 徹

平成16年度（本調査Ⅳ期）

所長兼副理事長：斉藤 忠 副所長兼理事：飯田英夫 総務部長兼常務理事：平松公夫
総務部次長兼総務課長：鎌田英巳 経理専門員：稲葉保幸 総務係長：佐藤美奈子
会計係長：野島尚紀 調査研究部長：山本昇平 調査研究部次長兼資料課長：栗野克己
保存処理室長：西尾太加二 調査研究部次長兼調査研究一課長：中嶋郁夫
調査研究部次長兼研究二課長：佐野五十三 調査研究三課長：足立順司
主任調査研究員：前嶋秀張 調査研究員：大石 泉 片桐英生 田中弘幸

平成17年度（本調査Ⅳ期）

所長兼副理事長：斉藤 忠 総務部長兼常務理事：平松公夫 総務部次長兼総務課長 鈴木大二郎
主幹兼経理専門員：稲葉保幸 総務係長：佐藤美奈子 事業係長：野島尚紀
調査研究部長：石川素久 調査研究部次長兼資料課長：栗野克己 保存処理室長：西尾太加二
調査研究部次長兼調査研究一課長：中嶋郁夫 調査研究部次長兼調査研究二課長：佐野五十三
主任調査研究員：前嶋秀張 調査研究員：高野徳多果 大石 泉 田中弘幸 日吉高幸

平成19年度（本調査Ⅴ期）

所長兼副理事長：斉藤 忠 事務局次長兼常務理事：清水 哲
事務局次長兼総務課長：大場正夫 総務係長：芦川美奈子 会計係長：杉山和枝
事務局次長：佐野五十三 事務局次長：稲葉保幸 事務局次長兼調査課長：及川 司
保存処理室長：西尾太加二 東部調査一係長：中鉢賢治 東部調査二係長：笹原千賀子
中部調査係長：河合 修 西部調査係長：富樫孝志 調査研究員：岩名建太郎 松川理治

平成22年度（資料整理）

所長兼常務理事：石田 彰 次長兼総務課長：松村 享 専門監兼事業係長：稲葉保幸
総務係長：瀧みやこ 調査課長：中鉢賢治 調査第一係長：勝又直人 調査第二係長：岩本 貴
調査第三係長：溝口彰啓 調査第四係長：富樫孝志 常動嘱託員：中村雄紀

（ここまで財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所）

静岡県埋蔵文化財センター

平成23年度（資料整理）

所長：勝田順也 次長兼総務課長：八木利真 主幹兼事業係長：村松弘文 総務係長：瀧みやこ
調査課長：中鉢賢治 調査第一係長：富樫孝志 調査第二係長：溝口彰啓 常動嘱託員：柴田亮平

平成24年度（資料整理）

所長：勝田順也 次長兼総務課長：八木利真 調査課長：中鉢賢治 主幹兼事業係長：前田雅人
総務係長：瀧みやこ 調査第一係長：富樫孝志 調査第二係長：溝口彰啓 常動嘱託員：田中萌子

5 本書の執筆は柴田亮平が行い、田中萌子が一部加筆修正した。

- 6 本書の編集は静岡県埋蔵文化財センターが行った。
- 7 出土黒曜石の原産地分析は、独立行政法人沼津工業高等専門学校名誉教授望月明彦氏に委託した。遺跡内で確認された焼土の分析調査をバリノ・サーヴェイ株式会社へ委託した。炭化物の年代測定と樹種同定を株式会社パレオ・ラボに委託した。これらの分析結果は「東野遺跡Ⅱ」の附編に掲載する。調査で実施した委託事項および委託先は、下記のとおりである。

掘削業務

確認調査その1	丸勇建設株式会社
確認調査その2	丸勇建設株式会社
本調査Ⅰ期	拓和産業株式会社
本調査Ⅱ期	丸勇建設株式会社
本調査Ⅲ期	株式会社小俣組
本調査Ⅳ期	株式会社集組（平成16年度） 株式会社河西建設（平成17年度）
本調査Ⅴ期	三星建設工業株式会社

測量・遺構実測業務

確認調査その1	株式会社シン技術コンサル
確認調査その2	株式会社シン技術コンサル
本調査Ⅰ期	株式会社シン技術コンサル
本調査Ⅱ期	株式会社シン技術コンサル
本調査Ⅲ期	株式会社シン技術コンサル
本調査Ⅳ期	株式会社シン技術コンサル
本調査Ⅴ期	株式会社東京航業研究所

空中写真撮影は株式会社シン技術コンサルに委託した。

遺物の洗浄・注記作業の一部について株式会社関道建設に委託した。

作業の迅速化を図るため、株式会社ラングに石器実測業務の一部を委託した。

平成23年度より、株式会社パソナに整理作業を委託した。

- 8 発掘調査及び整理作業では、以下の方々に御指導、御助言を賜った。厚く御礼申し上げる。
池谷信之・稲田孝司・海部陽介・小崎 晋・小林謙一・笹原千賀子・笹原芳郎・鈴木敏中・高尾好之
高橋 豊・堤 隆・西井幸雄・廣瀬高文・前嶋秀張・壬生亮輔（五十音順・敬称略）
- 9 発掘調査の資料は、すべて静岡県埋蔵文化財センターが保管している。

凡 例

本書の記載については、以下の基準に従い統一を図った。

- 1 本書で用いた遺構・遺物などの位置を表す座標は、すべて平面直角座標第Ⅷ系を用いた国土座標、日本測地系（改正前）を基準とした。
- 2 調査区の方眼設定は、上記の国土座標を基準に設定した。（ $X = -92730.000$, $Y = 34850.000$ ）を原点（A, 0）とし、南から北方向へA-AN、西から東方向へ0-40までの10m方眼を設定し、グリッドと称して用いた。
- 3 出土遺物は、出土位置を記録した上で取り上げ、この通し番号を遺物番号とした。また、表探・掘乱など出土位置不明の遺物は、30,000番台の遺物番号を任意の順で付与した。
- 4 遺構図、遺物実測図の縮尺は、遺構1/40、土器1/3、小型石器4/5、大型石器1/2、礫石器1/3を原則とし、それぞれにスケールを付した。
- 5 色彩に関する用語・記号は、新版「標準土色帳」（農林水産省技術会議事務局監修1992）を使用した。
- 6 土層名・略号は、第2章第3節の土層模式図（第8図）に表示した名称を用いる。
- 7 第2章第2節の周辺の主要遺跡地図（第7図）は、国土地理院発行1:25,000地形図「沼津・三島・裾野・愛鷹山」を複写し、加工・加筆した。
- 8 石器一覧表中の石材と黒曜石産地の略号は以下のとおりである。

石材一覧

和名	英名	標準資料略号	和名	英名	標準資料略号
玄武岩	basalt	Ba	ホルンフェルス	hornfels	Hor
多孔質玄武岩	vesicular basalt	VBa	凝灰岩	tuff	Tu
ガラス質黒色安山岩	glassy black andesite	GAn	硬質細粒凝灰岩	hard fine-grained tuff	HFT
細粒安山岩	fine-grained andesite	FAn	緑色凝灰岩	green tuff	GT
輝石安山岩	pyroxene andesite	An (Py)	シルト岩	siltstone	SiS
多孔質安山岩	vesicular andesite	VAn	珪質シルト岩	siliceous siltstone	SSi
デイサイト	dacite	Da	頁岩	shale	Sh
流紋岩	rhyolite	Rhy	珪質頁岩	siliceous shale	SSh
黒曜石	obsidian	Ob	硬質頁岩	hard shale	HS
ひん岩	porphyrite	Po	粘板岩	slate	Sl
カンラン岩	peridotite	Pe	珪質粘板岩	siliceous slate	SSl
斑レイ岩	gabbro	Ga	細粒砂岩	fine-grained sandstone	FSS
メノウ	agate	Ag	中粒砂岩	medium-grained sandstone	MSS
黄玉石（碧玉）	yellow jasper	YJa	粗粒砂岩	course-grained sandstone	CSS
赤玉石（碧玉）	red jasper	RJa	チャート	chert	Ch
緑色片岩	green schist	GS			

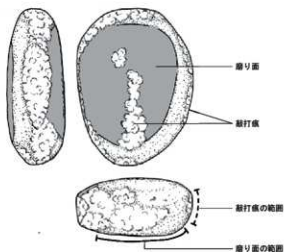
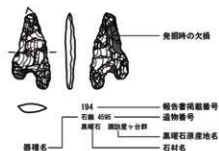
黒曜石産地一覧

産地	略号	産地	略号
和田鷹山群	WDTY	箱根燧石群	HNHJ
和田小塚沢群	WOKS	箱根黒岩橋群	HNKI
諏訪星ヶ台群	SHHD	天城柏峠群	AGKT
蓼科冷山群	TSTY	神津島忍馳島群	KZOB

なお、風化や大きさ等の関係で判別ができなかった資料は「不可等」とする。

9 挿图中的に記載記号・事項の凡例は以下のとおりである。また、石器一覧表中の計測は、実測図の置き方に準じ、以下の方法で行った。

<遺物実測図凡例>



<石器の計測方法>



目 次

序／例言／凡例

第1章 調査に至る経緯

第1節 第二東名建設に伴う埋蔵文化財の取り扱いの経緯	1
第2節 調査の方法と経過	1
1 発掘調査の方法	1
2 確認調査	1
3 本調査	2
4 資料整理・報告書作成	3

第2章 遺跡の概要

第1節 地理的環境	8
第2節 歴史的環境	10
1 旧石器時代	10
2 縄文時代	11
3 弥生～古墳時代	11
第3節 基本層序	14

第3章 縄文時代

第1節 遺構と遺構出土の遺物	21
1 住居跡	21
2 土坑	30
3 集石	53
4 焼土跡	57
5 石器集中	61
第2節 遺物	74
1 土器	74
2 石器	108

第4章 弥生時代以降

第1節 遺構と遺物	139
1 遺構	139
2 遺物	142

第5章 C R35地点

第1節 旧石器時代	144
1 遺物	144
第2節 縄文時代	144
1 遺構	144
2 遺物	147

第6章 まとめ

第1節 縄文時代	155
1 遺構	155
2 遺物	156
第2節 弥生時代以降	156
1 遺構	156
2 遺物	157
第3節 C R35地点	157
1 旧石器時代	157
2 縄文時代	157

写真図版

報告書抄録

挿 図 目 次

第1図 グリッド設定	4	第13図 縄文時代 1号住居跡遺物出土状況	25
第2図 No.143地点 調査区分と地形区分 および確認調査範囲	5	第14図 縄文時代 1号住居跡新炉・旧炉	26
第3図 No.143地点 テストピット配置と 調査期別本調査範囲(1)	6	第15図 縄文時代 1号住居跡出土土器(1)	28
第4図 No.143地点 調査期別本調査範囲(2)	7	第16図 縄文時代 1号住居跡出土土器(2)	29
第5図 東野遺跡の位置と周辺地図	9	第17図 縄文時代 土坑配置(集中部)	31
第6図 東野遺跡と近隣遺跡の分布	10	第18図 縄文時代 土坑(1)	32
第7図 周辺の主要遺跡	12	第19図 縄文時代 土坑(2)	33
第8図 土層模式図	15	第20図 縄文時代 土坑(3)	34
第9図 土層柱状図	16	第21図 縄文時代 土坑(4)	35
第10図 縄文時代 遺物分布	22	第22図 縄文時代 土坑(5)	36
第11図 縄文時代 遺構配置	23	第23図 縄文時代 土坑(6)	37
第12図 縄文時代 1号住居跡	24	第24図 縄文時代 土坑(7)	38
		第25図 縄文時代 土坑(8)	39

第26図	縄文時代 土坑 (9) ……………	40	第64図	縄文時代 出土土器 (10) ……………	102
第27図	縄文時代 土坑 (10) ……………	42	第65図	縄文時代 出土土器 (11) ……………	103
第28図	縄文時代 土坑 (11) ……………	43	第66図	縄文時代 剥片石器器種別分布 (1) ……………	110
第29図	縄文時代 土坑 (12) ……………	44	第67図	縄文時代 剥片石器器種別分布 (2) ……………	111
第30図	縄文時代 土坑 (13) ……………	45	第68図	縄文時代 剥片石器黒曜石産地別 分布 (1) ……………	112
第31図	縄文時代 土坑 (14) ……………	46	第69図	縄文時代 剥片石器黒曜石産地別 分布 (2) ……………	113
第32図	縄文時代 土坑 (15) ……………	47	第70図	縄文時代 剥片石器黒曜石以外石材別 分布 ……………	114
第33図	縄文時代 土坑 (16) ……………	48	第71図	縄文時代 出土石器 (1) ……………	115
第34図	縄文時代 土坑 (17) ……………	49	第72図	縄文時代 出土石器 (2) ……………	116
第35図	縄文時代 土坑 (18) ……………	50	第73図	縄文時代 出土石器 (3) ……………	117
第36図	縄文時代 土坑 (19) ……………	51	第74図	縄文時代 出土石器 (4) ……………	118
第37図	縄文時代 土坑 (20) ……………	52	第75図	縄文時代 出土石器 (5) ……………	119
第38図	縄文時代 集石配置 (南尾根・南西谷部) ……………	53	第76図	縄文時代 出土石器 (6) ……………	120
第39図	縄文時代 集石 (1) ……………	54	第77図	縄文時代 出土石器 (7) ……………	121
第40図	縄文時代 集石 (2) ……………	55	第78図	縄文時代 出土石器 (8) ……………	122
第41図	縄文時代 集石 (3) ……………	56	第79図	縄文時代 礫石器器種別分布 (1) …	126
第42図	縄文時代 焼土跡 (1) ……………	57	第80図	縄文時代 礫石器器種別分布 (2) …	127
第43図	縄文時代 焼土跡配置 ……………	58	第81図	縄文時代 礫石器石材別分布 ……	128
第44図	縄文時代 焼土跡 (2) ……………	59	第82図	縄文時代 出土石器 (9) ……………	129
第45図	縄文時代 焼土跡 (3) ……………	60	第83図	縄文時代 出土石器 (10) ……………	130
第46図	縄文時代 石器集中配置 ……………	62	第84図	縄文時代 出土石器 (11) ……………	131
第47図	縄文時代 1・2号石器集中 ……	64・65	第85図	縄文時代 出土石器 (12) ……………	132
第48図	縄文時代 1・2号石器集中器種別分布 ……………	66・67	第86図	縄文時代 出土石器 (13) ……………	133
第49図	縄文時代 1・2号石器集中石材別分布 ……………	68・69	第87図	縄文時代 出土石器 (14) ……………	134
第50図	縄文時代 土器分布 (1) ……………	80	第88図	縄文時代 出土石器 (15) ……………	135
第51図	縄文時代 土器分布 (2) ……………	81	第89図	縄文時代 出土石器 (16) ……………	136
第52図	縄文時代 土器分布 (3) ……………	86	第90図	弥生時代以降 遺構配置 ……………	140
第53図	縄文時代 土器分布 (4) ……………	87	第91図	弥生時代以降 土坑・小穴 ……………	141
第54図	縄文時代 土器分布 (5) ……………	91	第92図	弥生時代 出土土器・石器 ……………	142
第55図	縄文時代 出土土器 (1) ……………	93	第93図	トレンチ・テストピット配置および 土層堆積状況 ……………	143
第56図	縄文時代 出土土器 (2) ……………	94	第94図	旧石器時代 出土石器 ……………	144
第57図	縄文時代 出土土器 (3) ……………	95	第95図	縄文時代 26~28号集石 ……………	144
第58図	縄文時代 出土土器 (4) ……………	96	第96図	遺物分布および遺構配置 ……………	145
第59図	縄文時代 出土土器 (5) ……………	97	第97図	縄文時代 土器分布 ……………	146
第60図	縄文時代 出土土器 (6) ……………	98	第98図	縄文時代 出土土器 ……………	149
第61図	縄文時代 出土土器 (7) ……………	99			
第62図	縄文時代 出土土器 (8) ……………	100			
第63図	縄文時代 出土土器 (9) ……………	101			

第99図 縄文時代 出土石器 …………… 151
 第100図 縄文時代 石器器種別分布 …………… 152

第101図 縄文時代 石器石材別分布 …………… 153

挿表 目次

第1表 周辺の主要遺跡 …………… 13
 第2表 縄文時代 1・2号石器集中
 石器組成表 …………… 62
 第3表 縄文時代 土坑計測表 …………… 70・71
 第4表 縄文時代 集石計測表 …………… 71
 第5表 縄文時代 焼土跡計測表 …………… 72
 第6表 縄文時代 石器集中計測表 …………… 72
 第7表 縄文時代 遺構出土石器観察表 … 72・73
 第8表 縄文時代 遺構出土石器一覧表 …… 73
 第9表 縄文時代 出土土器分類一覧 …… 74
 第10表 縄文時代 包含層出土石器観察表
 …………… 103～107

第11表 縄文時代 石器組成表 …………… 109
 第12表 縄文時代 包含層出土石器一覧表
 …………… 137・138
 第13表 弥生時代以降 土坑計測表 …………… 139
 第14表 弥生時代 土器観察表 …………… 142
 第15表 弥生時代 石器一覧表 …………… 142
 第16表 縄文時代 出土土器分類一覧 …… 147
 第17表 縄文時代 石器組成表 …………… 150
 第18表 旧石器時代 石器一覧表 …………… 154
 第19表 縄文時代 遺構計測表 …………… 154
 第20表 縄文時代 土器観察表 …………… 154
 第21表 縄文時代 石器一覧表 …………… 154

写真図版目次

図版 1 1号住居跡出土土器
 図版 2 遺跡遠景（模式図）
 図版 3 遺跡遠景
 図版 4 1号住居跡
 1号住居跡内炉跡土層堆積状況
 1号住居跡内炉跡（新炉）完掘状況
 1号住居跡内炉跡と37号土坑土層堆積
 状況
 37号土坑完掘状況
 図版 5 1号土坑完掘状況
 2号土坑完掘状況
 6～21号土坑配置状況
 17号土坑完掘状況
 18号土坑完掘状況
 図版 6 22・23号土坑完掘状況
 28号土坑完掘状況
 29号土坑完掘状況
 33号土坑完掘状況
 43号土坑完掘状況
 49号土坑完掘状況
 66号土坑完掘状況

72号土坑完掘状況
 図版 7 76号土坑検出状況（東より）
 76号土坑土層堆積状況
 76号土坑完掘状況
 77・78号土坑土層堆積状況
 2号集石（南東より）
 3号集石（東より）
 4号集石（西より）
 5号集石・55号土坑（東より）
 図版 8 6号集石（西より）
 12号集石（南東より）
 南西谷部18～25号集石配置状況
 （南より）
 18号集石（東より）
 図版 9 縄文時代南西谷部～南尾根
 遺物出土状況（南東より）
 1・2号石器集中検出状況（南東より）
 2号石器集中検出状況（西より）
 弥生時代以降89・90号土坑配置状況
 C R 35地点テストピット土層堆積状況
 C R 35地点27号集石

- 図版10 1号住居跡出土土器
- 図版11 土坑出土土器
- 図版12 土坑出土石器
集石出土遺物
焼土跡出土遺物
石器集中出土遺物
- 図版13 I群a・b・c類土器
II群a・b類土器
- 図版14 II群b類土器
- 図版15 II群b・c類土器
- 図版16 II群d類土器
II群e・f類土器
- 図版17 II群g・h類土器
- 図版18 II群i類土器
II群j・k類土器
- 図版19 III群1種土器
- 図版20 III群2・3種土器
IV群b類土器
IV群b・d類土器
- 図版21 IV群e類土器1
IV群e類土器2
V群a・b・c・d類土器
V群d類土器
- 図版22 VI群a・b・c類・VII群土器・土製品
- 図版23 石鎌1
石鎌2
- 図版24 ドリル・サイド・スクレイパー
楔形石器
石匙・石核
- 図版25 打製石斧・磨製石斧
礫器
- 図版26 磨石・敲石
磨敲石
凹石
石皿
弥生土器
弥生時代有孔磨製石鎌
- 図版27 C R35地点出土土器
- 図版28 C R35地点出土石鎌
C R35地点出土磨敲石

第1章 調査に至る経緯

第1節 第二東名建設に伴う埋蔵文化財の取り扱いの経緯

第二東名に係わる埋蔵文化財の調査は、関係者協議の結果、基本的に本線及びサービスエリア、パーキングエリア、排土処理場については財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所（平成23年4月からは静岡県埋蔵文化財センター）が調査を実施、その他の調査対象地については、当該市町教育委員会が対応することとなったが、調査の進展に伴う調査量の増大に（財）静岡県埋蔵文化財調査研究所の体制が追いつかず、本線部分の一部についても、当該市町教育委員会に対応してもらうとともに、民間の発掘調査支援機関の導入を図った。

このような経緯の中、第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査として、本線部分№143地点と工用道路C R35地点の調査が行われた。その後、C R35地点は遺跡の性格等から2分割し、東野遺跡と梅ノ木沢遺跡（（財）静岡県埋蔵文化財調査研究所2008e, 2009c, 2010d）として登録し、報告することとした。

第2節 調査の方法と経過

1 発掘調査の方法

遺跡全体の把握と作業の効率化を図るため、日本測地系（平面直角座標Ⅷ系）による国家座標（ $X = -92730.000$, $Y = 34850.000$ ）を原点（A, 0）とし、遺跡全体に10×10mのグリッドを設定した。X軸に対して西から東へアラビア数字、Y軸に対して南から北へアルファベットによって記号をつけた。

確認調査ではトレンチとテストピットを併用して掘削を行い、本調査においては面的な掘削を行った。

写真撮影は必要に応じて随時行った。遺構図・土層断面図などの図面は1/20を基本として、手実測、機械実測を併用して作成した。また遺物の取り上げは、光波測距儀とコンピューターを用いた。

写真撮影は、35mmカラーネガ、モノクロネガ、リバーサルを主体として、適宜6×7cm判モノクロネガ、リバーサルを使用した。また、高所撮影にはローリングタワーを使用し、全景写真については、ラジコンヘリコプターにより空中写真撮影を行った。

2 確認調査

確認調査は、平成12年9月～平成14年9月まで2回にわたり行った。確認調査その1では、C R35地点の調査も併せて行われた。

（1）確認調査その1（第2図・第93図）

平成12年9月～平成13年3月まで行った。143地点の1～8区に10ヶ所のトレンチと21ヶ所のテストピットを設定した。調査は第Ⅲスコリア帯上面まで行われた。遺物は縄文土器、石器、礫などが出土した。石器は休場層より下層からも出土したため、これによって縄文時代、旧石器時代の遺物包含層が存在することが確認された。

また、C R35地点に10ヶ所のテストピットを設定した。調査区北部はテストピットを拡張、南部はト

レンチを設定し、富士黒土層まで調査を行った。テストピットは旧石器面まで調査した。その結果、集石や縄文土器、石器などを確認した。

これにより、CR35地点の調査を終了した。

(2) 確認調査その2 (第2図)

平成14年8月～同年9月まで行った。1区-3の東側に4ヶ所のトレンチと3ヶ所のテストピットを設定し、休場層上位まで調査を行った。その結果、古代以降の円形土坑が検出された。遺物は縄文土器、細石刃、尖頭器、有舌尖頭器などが出土したが、調査地点は上部層が著しく攪乱されている箇所があり、遺構の検出が困難であることが判明した。これにより、本調査の必要性がないことが確認された。

3 本調査

本調査は平成13年12月～平成19年11月まで5期にわたり、調査範囲を9区に分けて行った。

(1) 本調査Ⅰ期 (第3図)

平成13年12月～平成14年3月まで行った。調査区北側の町道をはさんで、南側を1区-1、北側を1区-2と設定した。調査は休場層上位まで行われた。その結果、円形土坑、土坑、集石、焼土跡、礫群、石器ブロックなどの遺構が検出された。

(2) 本調査Ⅱ期 (第3図)

平成14年9月～平成15年3月まで行った。本調査Ⅰ期の続きとして、1区-1の東側と西側に1区-3、新たに調査区北端に2区を設定した。調査は休場層下位まで行い、一部は休場層直下黒色帯まで発掘した。その後テストピットを設定し、中部ロームまで確認した。その結果、円形土坑や堅穴住居、土坑、集石、石器ブロック、礫群などの遺構が検出された。

(3) 本調査Ⅲ期 (第4図)

平成15年4月～平成16年3月まで行った。1区の南側に3～6区を設定した。3区はニセローム層まで、4区の一部と6区北側は第Ⅲスコリア帯上面まで調査を行い、その後4区はテストピットを設定して中部ロームまで確認した。5区と6区南側については、遺物出土量が多かったことから、漸移層までの調査に留まった。その結果、土坑や集石、礫群、石器ブロックが確認された。5区および6区の南側からは縄文層で、4区および6区北側からは第Ⅲ黒色帯で、列状の土坑群がそれぞれ確認された。

(4) 本調査Ⅳ期 (第4図)

平成16年4月～平成18年3月まで2年度にわたり行った。

本調査Ⅳ期-1

平成16年4月～平成17年3月まで行った。5・6区については本調査Ⅲ期を引き継いで、下層の調査が行われた。5区は休場層および休場層直下黒色帯まで、6区は第Ⅲスコリア帯上面まで調査を行った。また、3・4区の東側に新たに7・8区を設定し、第Ⅲスコリア帯上面まで調査を行った。その結果、土坑や集石、礫群、石器ブロックが確認された。8区では、本調査Ⅲ期と繋がる形で、第Ⅲ黒色帯の列状の土坑群が確認された。

本調査Ⅳ期-2

平成17年4月～平成18年3月まで行った。前年度を引き継ぎ、5区の第Ⅰスコリア層から第Ⅲスコリ

ア帯上面までの調査が行われた。その結果、礫群、石器ブロックが確認された。また、第Ⅲ黒色帯の土坑群が、5区でも谷際に沿って配置されていたことが判明した。

(5) 本調査Ⅴ期(第4図)

平成19年9月～同年11月まで行った。1区に挟まれた、旧町道駿河平南一色線の下を9区とし、調査を行った。旧道を造成した際の攪乱・削平が想定以上に大きく、縄文面での遺構の検出および遺物の出土は確認できなかった。その結果、休場層直下黒色帯まで確認できた一部調査区を除き、調査は主としてテストピットを中心に行った。中央部では、第Ⅱ黒色帯で石器ブロックを検出したため、拡張して第Ⅲ黒色帯まで調査した。その後、テストピットは中部ロームまで確認した。

これによりNo.143地点の全ての調査が終了した。

4 資料整理・報告書作成

資料整理・報告書作成は、平成22年4月～平成25年3月にかけて行った。平成22年4月～平成23年3月までは(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所が作業を行っていたが、平成23年3月末日をもって同組織が解散したため、以後の業務は静岡県埋蔵文化財センターが引き継いだ。

報告書の構成は、143地点の縄文時代早期以降の成果とC R35地点の成果をまとめた「東野遺跡Ⅰ」、143地点の旧石器時代～縄文時代草創期の成果をまとめた「東野遺跡Ⅱ」の、大きく2部構成とすることにした。

出土品の洗浄、注記、現地の写真整理、図面整理などの基礎整理作業の一部は、現地調査と並行して行われた。また、洗浄、注記業務の一部について、株式会社関道建設に業務を委託した。

石器、土器、礫は洗浄の後、順次遺物番号の注記作業を行った。石器、礫については、石材分類を行い、あわせて接合作業も行った。

ホルンフェルス製の遺物については、薬品処理(PARALOID B-72)によって劣化遅延措置を施した。

黒曜石製石器については、独立行政法人沼津工業高等専門学校名誉教授望月明彦氏に依頼して、産地分析を行った。分析は、旧石器時代の遺物は碎片を除く全点、縄文時代以降は製品類のみを対象とした。

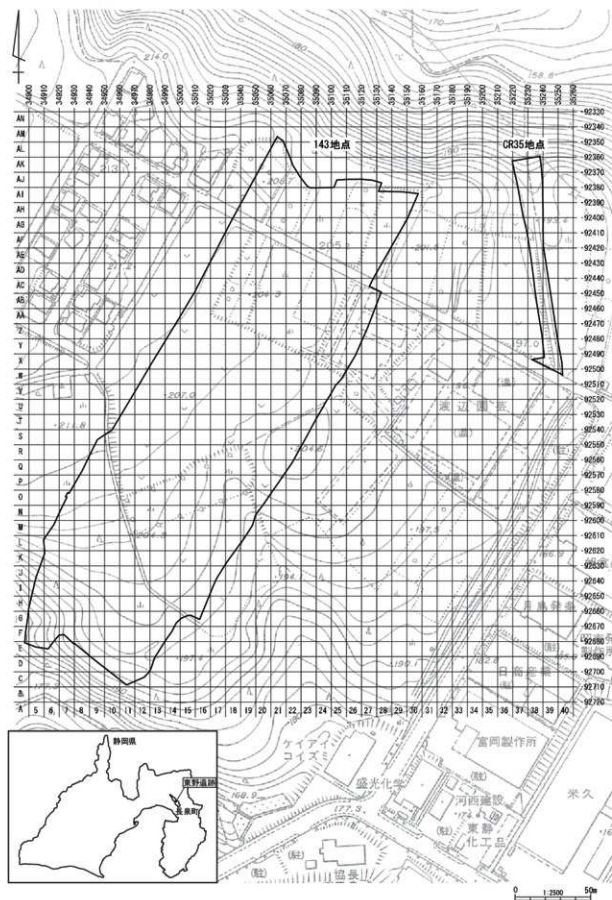
炭化物は、焼土跡出土の炭化材の年代測定と樹種同定を、パリノ・サーヴェイ株式会社に委託した。また、旧石器時代の遺構出土の炭化材の年代測定と樹種同定、および縄文土器に付着した炭化物の年代測定を、株式会社パレオ・ラボに委託して行った。

黒曜石産地分析および炭化材の年代測定・樹種同定の成果については、旧石器時代～縄文時代草創期編「東野遺跡Ⅱ」の附編に掲載する予定である。

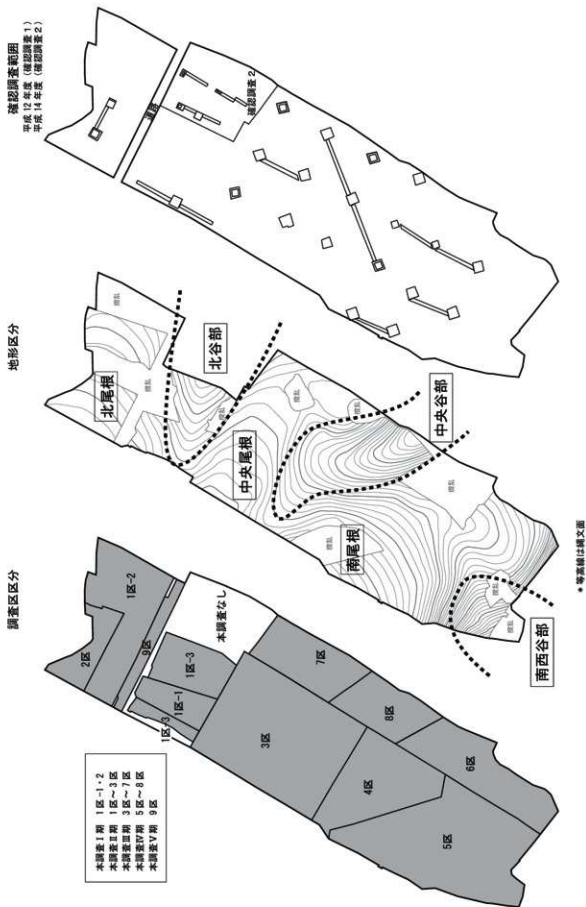
報告書刊行に向け、平成22年度より本格的な資料整理に入った。石器は文化層の設定を行った後、調整加工の施されているもの、接合状態に特徴があるものなどを中心に実測図を作成した。遺物の実測・トレース作業については、業務の一部を株式会社ラングへ委託した。土器は、型式分類を行った後、文様構成が明確なものを中心に、拓本及び断面実測を行った。残存状態が良好な個体に関しては復原を試みた。

全体図や遺構図・遺物分布図等の図版類は、発掘調査段階において、株式会社シン技術コンサル製「遺跡管理システム」に入力された座標情報をもとに、平面分布・垂直分布・接合状態・土層堆積状況等を検討し作成した。また、「遺跡管理システム」に入力されたデータベースをもとに、各種表を作成した。

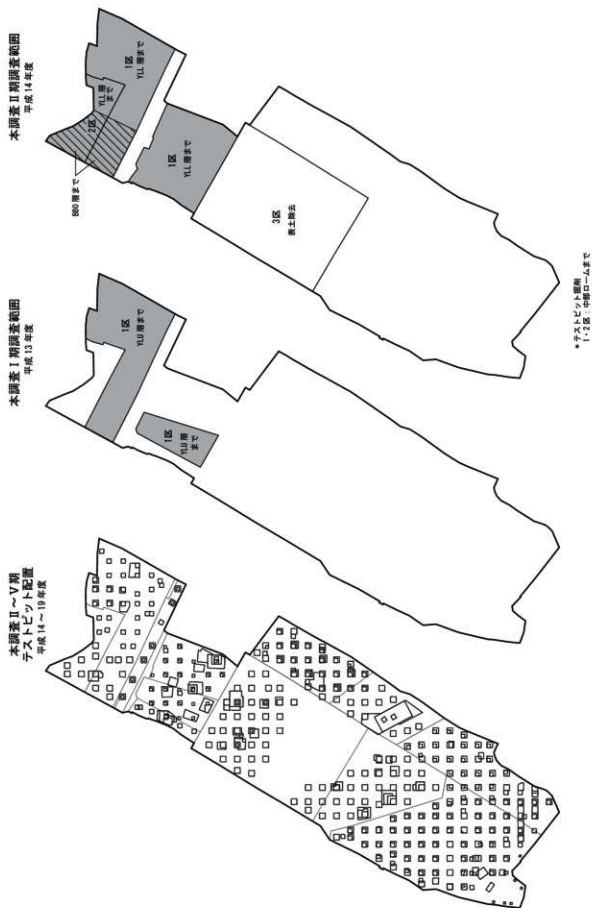
その他に、遺物実測図の図版作成、遺物写真撮影と写真図版の作成を行い、これらの整理成果を踏まえて本文を執筆した。



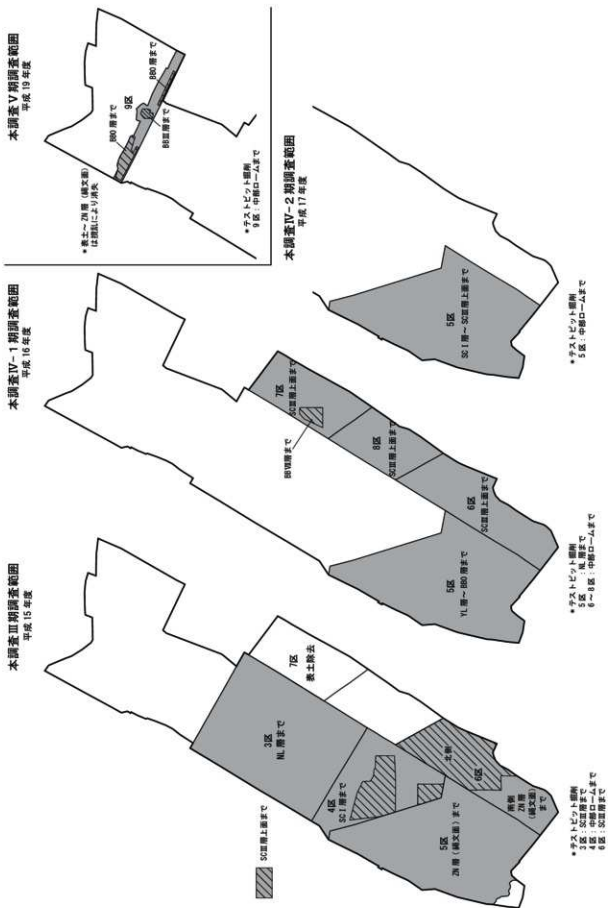
第1図 グリッド設定



第2図 No. 143地点 調査区分と地形区分および確認調査範囲



第3図 No.143地点 テストピット配置と調査期別本調査範囲(1)



第4図 No.143地点 調査期別本調査範囲(2)

第2章 遺跡の概要

第1節 地理的環境

東野遺跡は、静岡県駿東郡長泉町八分平地内に位置する。

遺跡が所在する長泉町は、北側を裾野市、西側を沼津市、南側を清水町、東側を三島市に接している。北西方向には愛鷹山、富士山を望み、町のほぼ中央には黄瀬川が流れている。

本遺跡は愛鷹山の東南麓、樹枝状に延びる尾根上に位置し、標高は約200mを測る。2本の浅い開析谷を挟み、北西から南東方向に走る3本の尾根筋を範囲としている。

愛鷹山東南麓の土壌は、箱根・富士山噴出物を主体とする厚いテフラで構成され、愛鷹ローム層と呼称される。愛鷹ローム層は下部・中部・上部ローム層に細分され、現在のところ明確な人類の痕跡が確認されているのは、関東の立川ローム層に対比される上部ローム層の下面までである。

愛鷹山東南麓では、この上部ローム層より旧石器時代の遺跡が多数確認されている。

この上部ローム層は約3万5千年前頃から堆積し、古富士火山の活動休止期に繁茂した植物の腐植質土壌とされる黒色帯と、激しい噴火で短時間に堆積したスコリア層が交互に重なっている。

また、約2万5千年前以降には、古富士火山の活動によって、古富士泥流と呼ばれる泥流が多発したと考えられている。この泥流の分布は現在の富士宮市～小山町付近にあり、この地域に旧石器時代の遺跡があまり確認されない理由とされている。なお、愛鷹山東南麓にはこの泥流による直接の被害はなかったようである。

約1万7千年前以降には、古富士火山の大規模な噴火が数回にわたって発生し、大規模な溶岩流が周辺へ被害を与えたと考えられている。こうした溶岩流は、愛鷹山に阻まれて、西は富士宮市（旧芝川町）から富士市吉原へ注ぎ、東は御殿場・裾野から黄瀬川を南下して三島・沼津に流れ込んだが、本遺跡の位置する愛鷹山東南麓は、愛鷹山の陰となって被害を受けなかった。

完新世に入り、しばらく経つと古富士火山の活動も中断期に入り、比較的温暖な気候に変化していった。その時期に形成されたのが、富士黒土層と呼ばれる腐食質の火山灰土である。この富士黒土層からは、縄文時代早期から前期にかけての遺構・遺物が多く確認されている。

その後、縄文時代晩期、約2千9百年前に富士山の山体崩落によって発生した御殿場泥流が、愛鷹山と箱根火山の間を南下して、三島・沼津へ注ぎ込んだ。現在の平野部は前述の溶岩流を覆い包む形で、この泥流が堆積している。

沼津市から長泉町にかけて広がる愛鷹山東南麓の丘陵地は、前述の溶岩流や泥流の被覆をほとんど受けていないため、表土下に愛鷹ローム層が厚く堆積し、旧石器時代から弥生時代の遺跡が集中する地域となっている。



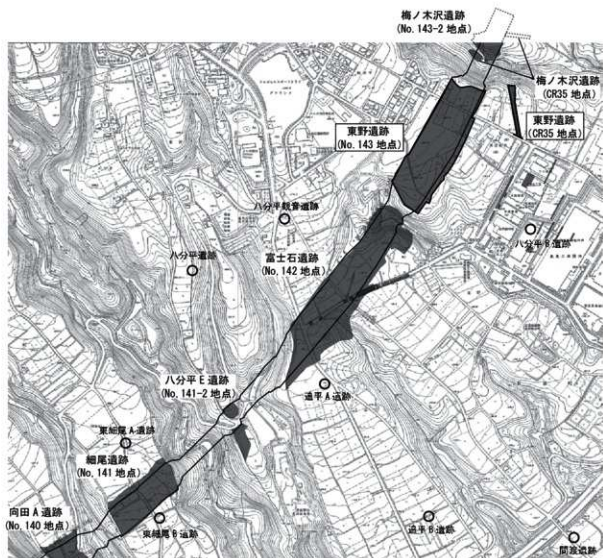
第5図 東野道跡の位置と周辺地図

第2節 歴史的環境

1 旧石器時代

沼津市～長泉町にかけての愛鷹山南～東南麓は、前述のとおり厚いテフラが堆積し、多くの旧石器～縄文時代の遺跡が確認されている。静岡県内では、旧石器時代の遺跡は愛鷹・箱根山麓と西部の磐田原台地を除いてほとんど確認されていない。

東野遺跡周辺は、愛鷹山麓の中でも旧石器時代の大規模遺跡が密集している一帯であり、第二東名建設事業に伴って発掘された遺跡だけでも、多くの遺跡が確認できる。長泉町内では、東野遺跡の南西側に、向田A遺跡 (No.140地点)、細尾遺跡 (No.141地点)、八分平E遺跡 (No.141-2地点)、富士石遺跡 (No.142地点)、北東側には梅ノ木沢遺跡 (No.143-2地点)、裾野市では、塚松遺跡 (No.144地点) などが確認されている。これらの遺跡は旧石器時代の資料が重層的に出土した遺跡であり、愛鷹山麓で確認されている最も古い時期の遺物が出土している例も少なくない。旧石器時代の全時期を通じて、この一帯が積極的に活用されていたと考えられる。



第6図 東野遺跡と近隣遺跡の分布

2 縄文時代

草創期の資料は、愛鷹山南麓の沼津市葛原沢第IV遺跡から隆起線文土器、押圧縄文土器、尖頭器などを伴った住居跡が検出されている。長泉町内では桜畑上遺跡から多縄文系の土器と有舌尖頭器が、西山遺跡からは絡条体丘痕文の土器と有舌尖頭器が、それぞれ確認されている。その他に、沼津市丸尾北遺跡では表裏縄文土器が出土している。また、丸尾北遺跡から出土した黒曜石製尖頭器の産地分析を行ったところ、1点の推定産地が青森県深浦産であるということが判明した。当該期の行動パターンについて考察する好材料として注目される。本遺跡に隣接する富士石遺跡、梅ノ木沢遺跡でも多くの有舌尖頭器、尖頭器が出土している。

早期に入ると愛鷹山周辺では遺跡数が増加し、資料も飛躍的に増加する。本遺跡では条痕文土器、沈線文土器に代表される早期後半の資料が多く確認されている。隣接する富士石遺跡では、早期後半を中心に10軒以上の住居跡が確認されている。また、早期末～前期初頭の資料として、桜畑上遺跡から下吉井式土器に伴う住居跡が、沼津市清水柳北遺跡、沼津市吹上遺跡からは早期末の木鳥式土器に伴う住居跡が、それぞれ検出されている。

前期の資料は、中葉から後葉にかけて、多くの遺跡で確認されている。特に諸磯式土器は確認例が多いが、集落の具体例は乏しい。そのような中、富士石遺跡、梅ノ木沢遺跡からは諸磯b式土器に伴う住居跡が検出されている。

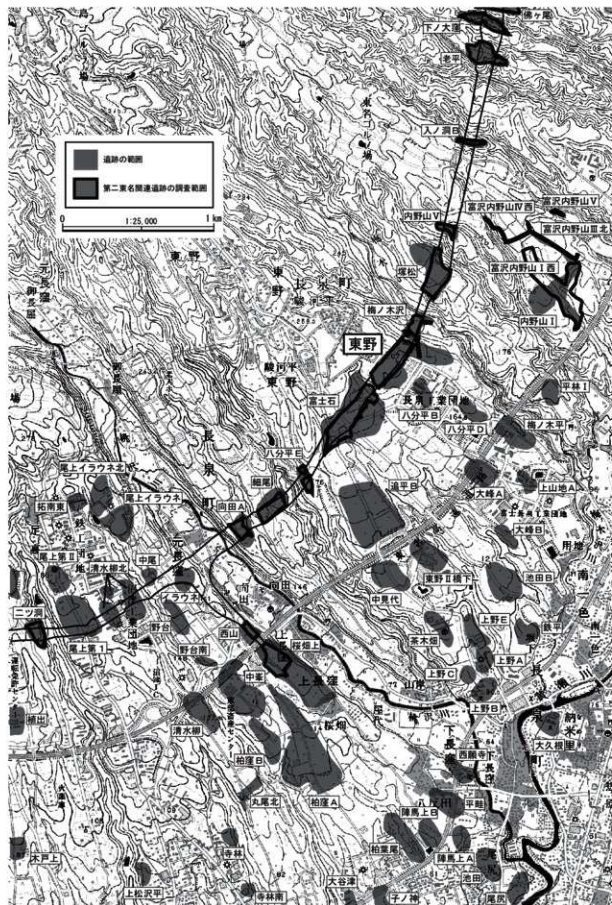
中期の資料は、長泉町柏窪遺跡の五ヶヶ台式期の集落が著名である。また、桜畑上遺跡、長泉町八反田後遺跡で勝坂式期の集落が確認されている。後半期の集落では、長泉町上山地遺跡、長泉町中峯遺跡から曾利式期の住居が検出されている。その他に、丸尾北遺跡からは中期末葉と考えられる柄鏡形の敷石住居が検出されている。

後・晩期は愛鷹山麓全体で遺跡数の極端な減少が見られるが、少量ながら断片的な資料が確認されている。隣接する富士石遺跡では、堀之内式期に伴う住居跡が確認されている。また、長泉町追平B遺跡、桜畑上遺跡からは清水天王山式土器が出土している。

3 弥生～古墳時代

愛鷹山東南麓では弥生時代の集落遺跡の検出例は少なく、上野遺跡、大平遺跡などに限られている。古墳時代の集落遺跡も同様であり、桜畑上遺跡など限られた遺跡のみである。

黄瀬川流域では、長泉町近辺に、かつては「土狩五百塚」と呼ばれる横穴式石室墓が数多く存在していた。しかし、現在では開発行為等によってそのほとんどが姿を消してしまっている。また、原分古墳からは金銅製の馬具や象嵌が施された太刀などの副葬品、家型石棺などが確認されている。



第7図 周辺の主要遺跡

第1表 周辺の主要遺跡

遺跡名	所在地	旧石器	縄文	備考
東野遺跡	駿東郡長泉町東野	○	○	本書
佛ヶ尾遺跡	裾野市大畑佛ヶ尾	○	○	県埋文2007a
下ノ大塚遺跡	裾野市大畑下ノ大塚	○	○	県埋文2008b
老平遺跡	裾野市大畑老平	○	○	県埋文2008c
入ノ洞遺跡	裾野市桃園入ノ洞	○	○	県埋文2008d
富沢内野山Ⅰ西遺跡	裾野市富沢内野山	○	○	県センター2013
富沢内野山Ⅱ北遺跡	裾野市富沢内野山	○	○	県センター2013
富沢内野山Ⅳ西遺跡	裾野市富沢内野山	○	○	県センター2013
富沢内野山Ⅴ遺跡	裾野市富沢桃園	○	○	県センター2013
内野山Ⅰ遺跡	裾野市富沢内野山	○	○	県センター2013
内野山Ⅴ遺跡	裾野市富沢内野山	○	○	県埋文2008d
塚松遺跡	裾野市北野塚松	○	○	県埋文2008d
梅ノ木沢遺跡	駿東郡長泉町東野八分平	○	○	県埋文2008e・2009c・2010d
八分平白遺跡	駿東郡長泉町東野八分平	○	○	長泉町教委1981
富士石遺跡	駿東郡長泉町東野八分平	○	○	長泉町教委1989、県埋文2010c、県センター2012a・b
八分平E遺跡	駿東郡長泉町東野八分平	○	○	県埋文2011a
上山地A遺跡	駿東郡長泉町南一色大峰	○	○	長泉町教委1990
池田B遺跡	駿東郡長泉町下長窪鉄平	○	○	県埋文2000
鉄平遺跡	駿東郡長泉町下長窪鉄平	○	○	県埋文2003a
遠平B遺跡	駿東郡長泉町東野八分平	○	○	長泉町教委2006
東野Ⅱ橋下遺跡	駿東郡長泉町下長窪八分平	○	○	長泉町教委2001
中見代遺跡	駿東郡長泉町下長窪八分平	○	○	長泉町教委2001
茶木畑遺跡	駿東郡長泉町下長窪茶木畑	○	○	県埋文1985
上野E遺跡	駿東郡長泉町下長窪上野	○	○	長泉町教委1965
上野A遺跡	駿東郡長泉町下長窪上野	○	○	長泉町教委1965
上野B遺跡	駿東郡長泉町下長窪上野	○	○	長泉町1992
大久權遺跡	駿東郡長泉町納米里大久權	○	○	長泉町1992
細尾遺跡	駿東郡長泉町下長窪細尾	○	○	県埋文2010a
向田A遺跡	駿東郡長泉町下長窪西細尾	○	○	県埋文2007b
尾上イラウネ北遺跡	沼津市足高尾上	○	○	沼津市教委1992・2002
尾上イラウネ遺跡	沼津市足高尾上	○	○	沼津市教委1981
拓南東遺跡	沼津市足高尾上	○	○	沼津市教委1998
イラウネ遺跡	駿東郡長泉町元長窪イラウネ	○	○	長泉町教委1986
中尾遺跡	駿東郡長泉町元長窪中尾	○	○	長泉町教委1986
野台遺跡	駿東郡長泉町元長窪野台	○	○	長泉町教委1986
野台南遺跡	駿東郡長泉町元長窪野台	○	○	県埋文2009b
西山遺跡	駿東郡長泉町元長窪内出	○	○	県埋文2006
桜畑上遺跡	駿東郡長泉町上長窪	○	○	県埋文2003b・2009d・2010b・2011b
中峯遺跡	駿東郡長泉町元長窪西ノ窪	○	○	県埋文2003b
柏窪B遺跡	駿東郡長泉町上長窪中峯	○	○	県埋文2003b
西瀬寺遺跡	駿東郡長泉町下長窪西瀬寺	○	○	長泉町教委1978
平畦遺跡	駿東郡長泉町下長窪平畦	○	○	長泉町教委1976
陣馬上B遺跡	駿東郡長泉町下長窪陣場	○	○	長泉町教委1994
陣馬上A遺跡	駿東郡長泉町下長窪陣場	○	○	長泉町教委1976
尾尻遺跡	駿東郡長泉町下長窪尾尻	○	○	長泉町1992
柏葉尾遺跡	沼津市大岡北小林柏葉尾	○	○	沼津市教委1996
子ノ神遺跡	沼津市大岡北小林子ノ神	○	○	沼津市教委1982
大谷津遺跡	沼津市岡一色大谷津	○	○	沼津市教委1982・1994
清水柳北東尾根遺跡	沼津市足高尾上	○	○	沼津市教委1989
清水柳中央尾根遺跡	沼津市足高尾上	○	○	沼津市教委1989
清水柳遺跡	沼津市足高尾上	○	○	佐津他1976
丸尾北遺跡	沼津市足高尾上	○	○	県埋文2009e
寺林遺跡	沼津市足高尾上	○	○	県埋文2003c
寺林南遺跡	沼津市岡宮寺林	○	○	沼津市教委1985
上松沢平遺跡	沼津市岡宮上松沢	○	○	県埋文2004
二ツ洞遺跡	沼津市足高尾上	○	○	沼津市教委1991・1993
樋出遺跡	沼津市足高尾上	○	○	県埋文1997
木戸上遺跡	沼津市東沢田東大平	○	○	沼津市教委1985

県埋文：(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所 県センター：静岡県埋蔵文化財センター 教委：教育委員会

第3節 基本層序

調査範囲内は基本的に良好な土層堆積状況であり、愛鷹・箱根基本土層と大幅な相違は認められなかった。しかし、調査区が3ヶ所の尾根と谷部に分かれることから、全て均一な堆積状況が見られたわけではない。特に谷部では、予想されていた土層が確認できない例も認められた。

また、愛鷹東南麓で認められる傾向であるが、第Ⅲスコリア帯以下の黒色帯（中部ロームまで）が、あまり発達していなかった。土層の様相などにより分層は可能であったものの、不明瞭な状況であった。また、上部層では場所によって攪乱が顕著であり、休場層付近にまで及んでいる例も確認された。

東野遺跡の基本土層は第8図に示したとおりであるが、以下にその特徴について上層から順に記載する。

第1層 表土

第2層 新期スコリア層包含層（NSC包含層） 黒色土 粘性ややあり しまりやや弱い

カワゴ平パミス（白色パミス）を含む。

径1～3mmの橙色スコリアを含む。

径1～2mmの大溜スコリア（発泡性の赤褐色スコリア）を少量含む。

径1～2mmの仙石スコリアを少量含む。

径2～5mmの褐色スコリアをごく少量含む。

第3層 カワゴ平パミス包含層（KGP包含層） 黒色土 粘性あり しまりややあり

カワゴ平パミス（白色パミス）を含む。

径5mm位の仙石スコリアをごく少量含む。

径2mm位の大溜スコリア（発泡性の赤褐色スコリア）をごく少量含む。

径2～5mmの褐色スコリアをごく少量含む。

径2～5mmの橙色スコリアをごく少量含む。

第4層 黒色土層（UK） 黒褐色土 粘性あり しまりややあり

第5層 暗褐色土層（AN） 黒褐色土 粘性あり しまりあり

カワゴ平パミス（白色パミス）をごく少量含む。

径1mm位の赤褐色スコリアをごく少量含む。

径1mm以下の黒褐色土粒をごく少量含む。

第6層 栗色土層（KU） 褐色土 粘性あり しまりあり

径1mm位の橙色スコリアを少量含む。

第7層 富士黒土層（FB） 黒褐色土 粘性あり しまりあり

径1mm以下の暗褐色スコリアを含む。

径2～3mmの橙色スコリアを少量含む。

谷部は二層に分かれる。

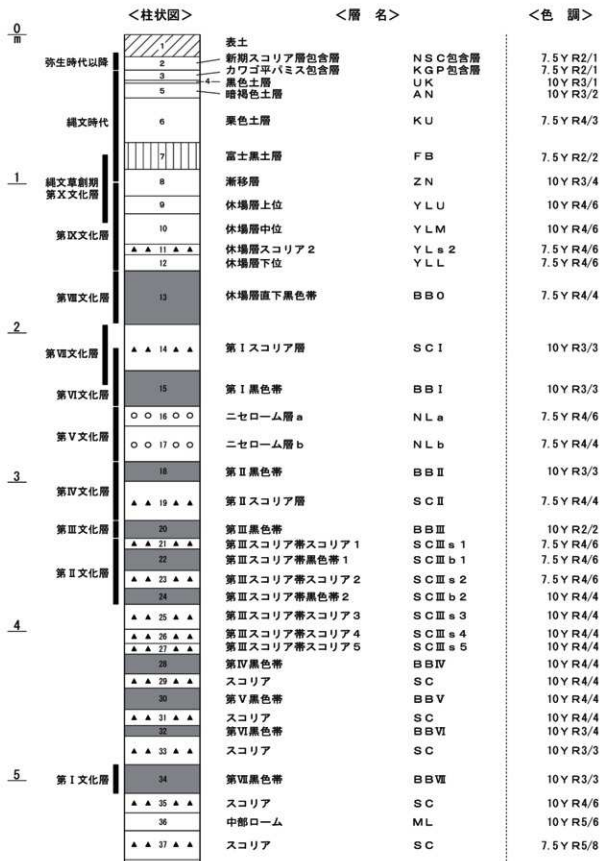
上位部は褐色土（KU）がパッチ状に入り、下位は黒褐色味が強くなる。

第8層 漸移層（ZN） 暗褐色土 粘性あり しまりやや弱い

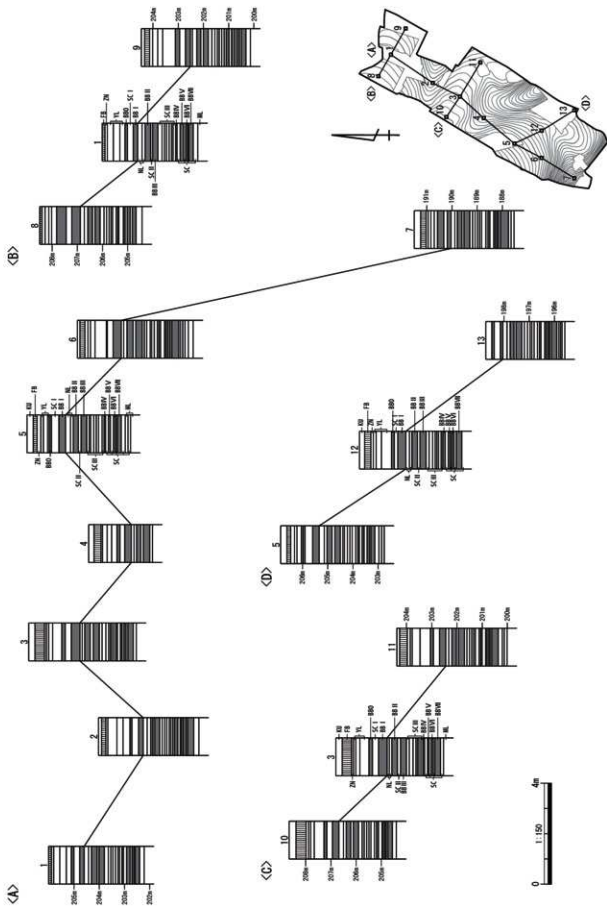
径1mm以下の黒褐色スコリアを含む。

径1～3mmの発泡性の橙色スコリアを少量含む。

径1mm以下の暗褐色スコリアを少量含む。



第8図 土層模式図



第9図 土層柱状図

- 褐色土 (Y L) ブロックを含む。
- 第9層 休場層上位 (Y L U) 褐色土 粘性あり しまり弱い
 径1～2mmの赤褐色スコリアをごく少量含む。
 径1～2mmの黒褐色スコリアをごく少量含む。
 径2～3mmの発泡性の赤褐色スコリアをごく少量含む。
- 第10層 休場層中位 (Y L M) 褐色土 粘性あり しまり弱い
 径2～5mmの発泡性の赤褐色スコリアを少量含む。
 径1～5mmの赤褐色スコリアをごく少量含む。
 径1～2mmの黒褐色スコリアをごく少量含む。
- 第11層 休場層スコリア2 (Y L s 2) 褐色土 粘性あり しまりあり
 下記のスコリアからなるブロックを含む。
 径1～5mmの発泡性の赤褐色スコリア
 径2～5mmの発泡性の暗赤褐色スコリア
 径1～5mmの発泡性の黒褐色スコリア
- 第12層 休場層下位 (Y L L) 褐色土 粘性あり しまりあり
 径1～5mmの発泡性の暗赤褐色スコリアを多量に含む。
 径2～5mmの発泡性の黒褐色スコリアを含む。
 径1～2mmの発泡性の赤褐色スコリアを少量含む。
 下位はスコリアの量が若干多くなる。
- 第13層 休場層直下黒色帯 (B B 0) 褐色土 粘性弱い しまりあり
 径2mm位の橙色スコリアを多量に含む。
 径2～5mmの赤褐色スコリアを少量含む。
 径2～5mmの黒褐色土粒を含む。
- 第14層 第Iスコリア層 (S C I) 暗褐色土 粘性弱い しまりあり
 下記のスコリアからなるブロックを多量に含む。
 径2mm位の赤褐色スコリア
 径2～5mmの暗褐色スコリア
 径2～3mmの黒褐色スコリア
 径2～5mmの赤褐色スコリアを多量に含む。
 径1～8mmの暗褐色スコリアを含む。
 径2～5mmの暗赤褐色スコリアを含む。
- 第15層 第I黒色帯 (B B I) 暗褐色土 粘性あり しまりあり
 径1～5mmの発泡性の暗赤褐色スコリアを多量に含む。
 径1～5mmの黒褐色スコリアを多量に含む。
 径10mm以下の発泡性の暗赤褐色スコリアを少量含む。
- 第16層 ニセローム層 a (N L a) 褐色土 粘性なし しまりあり
 始良丹沢バミス (A T) の粒子・ブロックを含む。
 径2～5mmの発泡性の赤褐色スコリアを多量に含む。
 径2～5mmの暗褐色スコリアを多量に含む。
 径2～5mmの発泡性の暗赤褐色スコリアを含む。
 径1～2mmの黒褐色スコリアを少量含む。

- 第17層 ニセローム層b (NLb) 褐色土 粘性なし しまりあり
始良丹沢バミス(AT)の粒子・ブロックを含む。
径2～5mmの発泡性の赤褐色スコリアを多量に含む。
径2～5mmの暗褐色スコリアを含む。
径1～2mmの黒褐色スコリアを少量含む。
径2～5mmの発泡性の暗赤褐色スコリアを少量含む。
- 第18層 第II黒色帯(BBII) 暗褐色土 粘性あり しまりあり
径1～4mmの発泡性の赤褐色スコリアを多量に含む。
径2～10mmの発泡性の暗赤褐色スコリアを少量含む。
径1～2mmの黒褐色スコリアを少量含む。
- 第19層 第IIスコリア層(SCII) 褐色土 粘性あり しまりあり
径1～8mmの発泡性の赤褐色スコリアを含む。
径2～3mmの発泡性の暗赤褐色スコリアを含む。
径1～5mmの暗褐色スコリアを少量含む。
径1～2mmの黒褐色スコリアを少量含む。
- 第20層 第III黒色帯(BBIII) 黒褐色土 粘性あり しまりあり
径2～8mmの発泡性の赤褐色スコリアを含む。
径2～4mmの発泡性の暗赤褐色スコリアを含む。
径5～10mmの暗褐色スコリアを少量含む。
径1mm以下の黒褐色スコリアを少量含む。
- 第21層 第IIIスコリア帯スコリア1(SCIII s 1) 褐色土 粘性あり しまりあり
径1～8mmの発泡性の赤褐色スコリアを多量に含む。
径1mm未満の橙色スコリアを含む。
径3～5mmの暗褐色スコリアを含む。
径1～2mmの黒褐色スコリアを少量含む。
- 第22層 第IIIスコリア帯黒色帯1(SCIII b 1) 褐色土 粘性あり しまりあり
径1～3mmの発泡性の赤褐色スコリアを多量に含む。
径1mm未満の橙色スコリアを含む。
径1～2mmの黒褐色スコリアを含む。
径1～3mmの発泡性の暗赤褐色スコリアを含む。
径2～4mmの暗褐色スコリアを少量含む。
- 第23層 第IIIスコリア帯スコリア2(SCIII s 2) 褐色土 粘性あり しまりあり
径1～3mmの発泡性の赤褐色スコリアを多量に含む。
径1mm未満の橙色スコリアを多量に含む。
径1～10mmの発泡性の暗赤褐色スコリアを含む。
径2～8mmの暗褐色スコリアを含む。
径1～2mmの黒褐色スコリアを含む。
- 第24層 第IIIスコリア帯黒色帯2(SCIII b 2) 褐色土 粘性あり しまりあり
径1～3mmの発泡性の赤褐色スコリアを多量に含む。
径1mm位の黒褐色スコリアを多量に含む。
径1mm未満の橙色スコリアを含む。

- 径3～10mmの暗褐色スコリアを含む。
 径3～5mmの暗赤褐色スコリアを少量含む。
- 第25層 第Ⅲスコリア帯スコリア3 (S CⅢ s 3) 褐色土 粘性あり しまりあり
 径1～3mmの発泡性の赤褐色スコリアを多量に含む。
 径3～10mmの暗褐色スコリアを含む。
 径1mm位の黒褐色スコリアを含む。
 径1mm未満の橙色スコリアを少量含む。
 径3～5mmの暗赤褐色スコリアを少量含む。
 S CⅢ b 2 に比べて赤褐色スコリアの量は若干少ない。
- 第26層 第Ⅲスコリア帯スコリア4 (S CⅢ s 4) 褐色土 粘性あり しまりあり
 径1～3mmの発泡性の赤褐色スコリアを多量に含む。
 径1～3mmの発泡性の暗赤褐色スコリアを多量に含む。
 径3～10mmの暗褐色スコリアを多量に含む。
 径1mm位の黒褐色スコリアを多量に含む。
 下記のスコリアからなるブロックを多量に含む。
 径1～5mmの発泡性の赤褐色スコリア
 径1～3mmの発泡性の暗赤褐色スコリア
 径1mm未満の黄色スコリア
 径1～3mmの暗褐色スコリア
 S CⅢ s 3 に比べて赤褐色スコリアの量は多く、赤みが強い。
 下位に暗赤褐色スコリアが多くなる。
- 第27層 第Ⅲスコリア帯スコリア5 (S CⅢ s 5) 褐色土 粘性あり しまりあり
 径1～2mmの発泡性の赤褐色スコリアを多量に含む。
 径2～10mmの暗褐色スコリアを多量に含む。
 径1mm位の黒褐色スコリアを含む。
 径1～3mmの発泡性の暗赤褐色スコリアを含む。
- 第28層 第Ⅳ黒色帯 (B BⅣ) 褐色土 粘性あり しまりあり
 径1～2mmの発泡性の赤褐色スコリアを多量に含む。
 径1～2mmの発泡性の暗赤褐色スコリアを含む。
 径2～10mmの暗褐色スコリアを含む。
 径1～2mmの黒褐色スコリアを含む。
- 第29層 スコリア (S C) 褐色土 粘性あり しまりあり
 径2～5mmの発泡性の赤褐色スコリアを多量に含む。
 径3～10mmの暗褐色スコリアを多量に含む。
 径1～10mmの黒褐色スコリアを含む。
 下記のスコリアからなるブロックを含む。
 径2～5mmの発泡性の赤褐色スコリア
 径2～5mmの発泡性の暗赤褐色スコリア
 径1～2mm未満の発泡性の黄色スコリア
 径2～10mmの暗褐色スコリア
 上層 (B BⅣ, S CⅢ s 5) に比べて若干褐色が強い。

- 第30層 第V黒色帯 (BBV) 褐色土 粘性あり しまりあり
径2～5mmの発泡性の赤褐色スコリアを多量に含む。
径1～5mmの暗褐色スコリアを含む。
径1～2mmの黒褐色スコリアを含む。
- 第31層 スコリア (SC) 褐色土 粘性あり しまりあり
径2～5mmの発泡性の赤褐色スコリアを含む。
径1～5mmの暗褐色スコリアを少量含む。
径1～2mmの黒褐色スコリアを少量含む。
上層 (BBV) より全体的にスコリアの含有率は減る。
- 第32層 第VI黒色帯 (BBVI) 暗褐色土 粘性あり しまりあり
径2～5mmの発泡性の赤褐色スコリアを含む。
径2～5mmの暗褐色スコリアを少量含む。
径1～2mmの黒褐色スコリアを少量含む。
径2～3mmの暗赤褐色スコリアを少量含む。
上層に比べ、暗褐色スコリアの量は多く、黒褐色スコリアは少ない。
- 第33層 スコリア (SC) 暗褐色土 粘性あり しまりあり
径2～5mmの発泡性の赤褐色スコリアを多量に含む。
径1～3mmの暗褐色スコリアを含む。
径1mm位の黒褐色スコリアを少量含む。
- 第34層 第VII黒色帯 (BBVII) 暗褐色土 粘性あり しまりあり
径2～5mmの発泡性の赤褐色スコリアを含む。
径1～2mmの黒褐色スコリアを含む。
径2～5mmの暗褐色スコリアを少量含む。
径1～2mmの発泡性の暗赤褐色スコリアを少量含む。
- 第35層 スコリア (SC) 褐色土 粘性あり しまりあり
径1～10mmの発泡性の赤褐色スコリアを多量に含む。
径1～2mmの黒褐色スコリアを含む。
径3～5mmの暗褐色スコリアを少量含む。
- 第36層 中部ローム (ML) 黄褐色土 粘性あり しまりあり
径2～5mmの発泡性の赤褐色スコリアを含む。
径1～3mmの黒褐色スコリアを少量含む。
- 第37層 スコリア (SC) 明褐色土 粘性あり しまりあり
径1～5mmの発泡性の暗赤褐色スコリアを多量に含む。
径1～3mmの黒褐色スコリアを含む。

第3章 縄文時代

漸移層より上層で検出された遺構・遺物の中で、縄文時代に属すると判断された資料について、本章で報告を行う。

遺構は、住居跡が1軒、土坑が80基、集石が25基、焼土跡が22基、石器集中が2ヶ所確認された（第11図）。住居跡からは、縄文時代中期の勝坂式土器がまとめて出土している。土坑は、調査区の北部および南部の谷部斜面で、意図的に配置された可能性のある、まとまった一群が確認されている。遺構は、複数時期にまたがっていることが推測されるが、住居跡以外は帰属時期の特定は困難であった。そのため遺構ごとにまとめて報告する。

遺物は、土器が2,967点、石器が3,390点、礫が5,120点出土した（第10図）。土器は、早期から晩期までの資料が確認され、前述のとおり、複数時期に渡って断続して利用されていたことが窺える。中でも早期後半の資料は出土量も多く、土器全体の7割強を占めており、南尾根から南西谷部にかけて、集中して出土している。

第1節では遺構と遺構出土の遺物について、第2節では包含層出土の遺物について報告する。土器については時期別・型式別に分類し、型式ごとにドットマップを作成した。石器については時期の特定が困難なため、器種別・石材別に分類して、ドットマップとともに記載する。

第1節 遺構と遺構出土の遺物

1 住居跡

(1) 1号住居跡（第12～14図）

方形の住居跡である。調査区北端近く、グリッドAJ・AK-22で検出した。南東側、南西側は、捜索によって失われており、残存部の長軸は3.4m、短軸は3.0mである。掘り込み面は不明である。中央には炉跡が確認され、四隅には柱穴と思われるピットが検出された。なお、柱穴からは焼土は確認されていない。

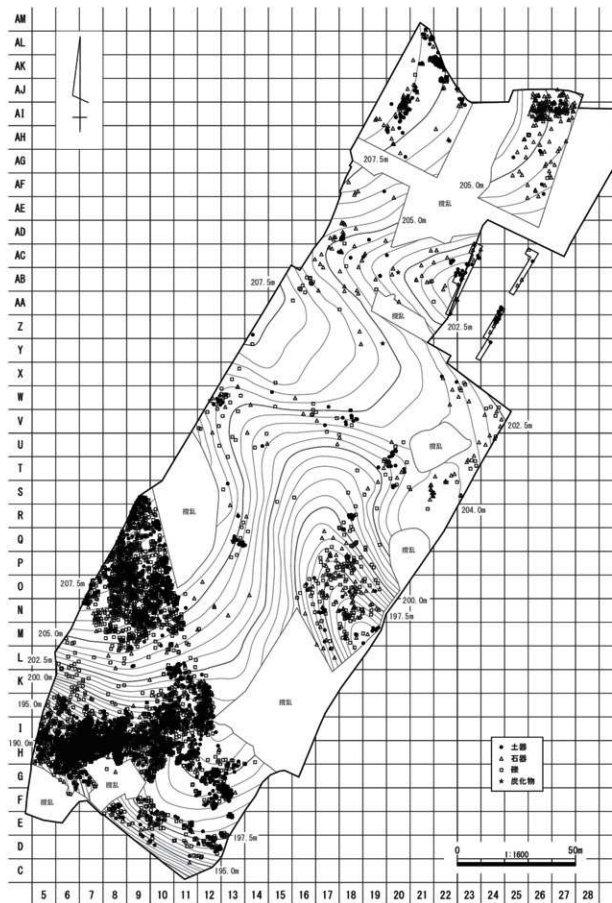
調査の結果、住居は2期にわたって床面と炉が作り変えられた事が判明した。以後、旧住居に伴う炉を旧炉、新住居に伴う炉を新炉と記す。

新炉の底面には、焼成による硬化面が観察されている（第12・14図）。新炉からは少量の遺物しか出土しなかったが、その直下には、多量の土器や礫を含んだ旧炉が、新炉を包み込むように広がっている。さらにその下からは、バケツ状の土坑（37号土坑）が検出された。新・旧炉は、土坑の真上に、皿状に広がっている（第13・14図）。

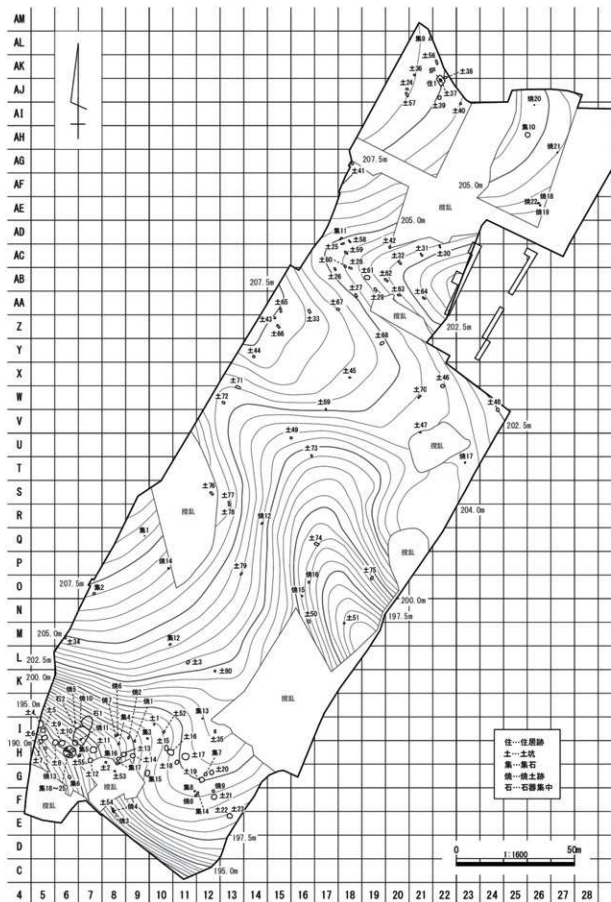
さらに、住居および炉跡の立面図（第12・13図）を見ると、新炉が覆土住1を切っている事から、新炉は、住1上面、あるいはもっと上にあったであろう面を床面とする住居の炉跡、旧炉は、住2上面を床面とする旧住居の炉跡であると推測される。

一方、37号土坑は、掘り込み面が旧炉に断ち切られていることから、住居に伴う遺構とは考えにくい。おそらくは、以前の時期の土坑が、完全に埋没せずに窪みとして残存しており、住居の構築時に、そこを炉（旧炉）として利用したと考えられる。

旧炉に含まれる土器群は、第V群b類（勝坂式土器）の中でも、藤内式期に属する資料が大半であり、一括性を持っていると判断される。出土した土器群は、装飾豊かな資料も多く、第15・16図1～4のよ

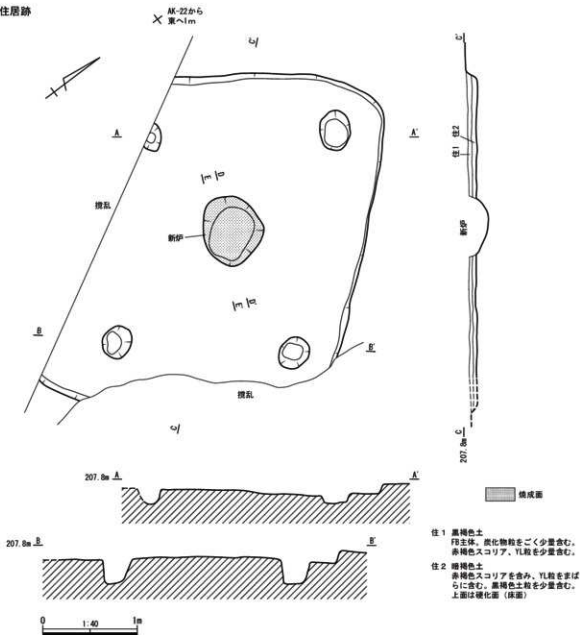


第10図 縄文時代 遺物分布



第11図 縄文時代 遺構配置

1号住居跡



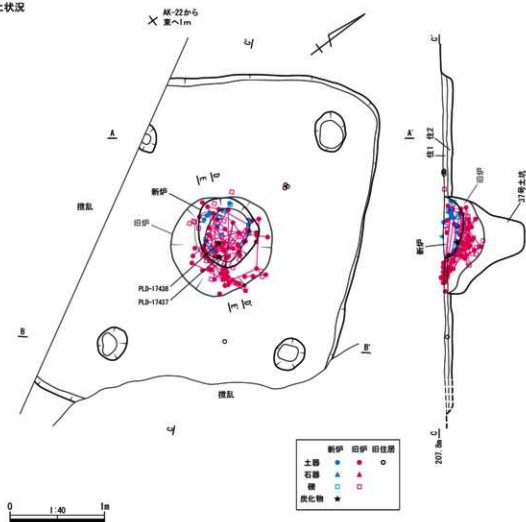
第12図 縄文時代 1号住居跡

うな、同一個体と考えられる口縁～底部までの資料が確認されているが、完形、もしくはそれに近い資料は確認できなかった。なお、1の把手部は、旧住居の床面から出土している。4は、底面が上になって出土しており、埋喪の可能性も考えられたが、口縁部はそれよりも高い位置で出土している。

このような出土状況から、土器は意図的に集められて廃棄された、と考えられる。また、出土した土器が被熱していないことから、旧炉の使用停止後に、土器をまとめて廃棄したものと考えられる。その後、住居の改築に伴い、改めて床面を貼り替え、旧炉の窪みを利用して新炉として使用したものと推測される。

以上の事から、①土坑の構築→②住居の構築（旧炉）→③土器の廃棄→④住居の改築（新炉）→⑤住居の廃棄という一連の流れが想定される。この内、①・②の間は、大きな時間幅が存在したと考えられるが、②～④の間は短期間、おそらく同一住民により改築された可能性が高い。

遺物出土状況



第13図 縄文時代 1号住居跡遺物出土状況

(2) 1号住居跡出土遺物(第15・16図1~8)

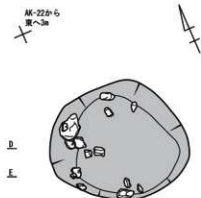
先述したように、遺物の大半は旧炉から出土している。新炉の出土遺物は、土器7点、石器4点、礫7点なのに対して、旧炉からは、土器81点、石器1点、礫34点が出土している。新住居の遺物は確認されず、旧住居からの出土は、土器4点のみ(内3点が1a)である。もっとも、新炉から出土した土器の内3点は、旧炉出土の土器と接合しており、他の4点も同一個体と推定されるため、旧炉の遺物が、何らかの事情で新炉に入り込んだものと考えられる。

出土土器の大半は第V群b類(勝坂式)の中でも、藤内式期(藤内式1段階)に属する資料である。図示した資料は、新道式期的な要素を残しているものから井戸尻式期的なものも含まれているが、基本的に当該期に属すると推定される。なお、出土石器はすべて剥片であった。

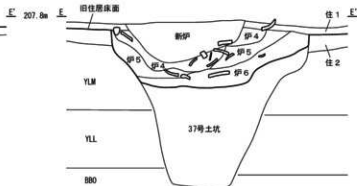
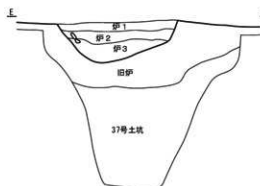
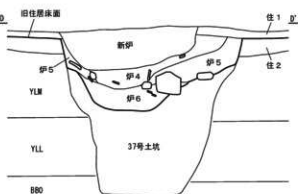
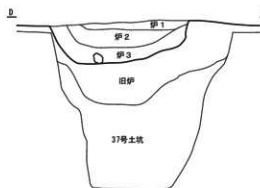
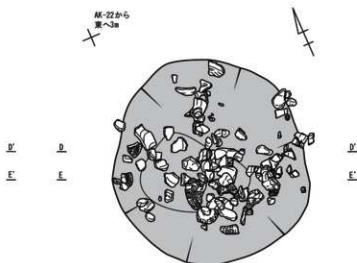
新炉から採取した炭化物のうち2点について、放射性炭素年代測定(AMS法)を行った。その結果、 $4,460 \pm 25\text{yrBP}$ (PLD-17437)、 $4,470 \pm 25\text{yrBP}$ (PLD-17438)の ^{14}C 年代値が確認された(詳細は「東野遺跡II」附編を参照)。この値は藤内式期の資料として整合性を有している。

1aは耳状把手である。口縁部の正面に位置していたと推測される。この把手のみ、旧住居の覆土から出土している。

新伊覆土



旧伊覆土



- 伊1 暗褐色土 FB主体。焼土粒を非常に多く含む。
炭化植物、赤褐色スコリアを少量含む。
- 伊2 暗褐色土 FB主体。焼土粒を多量に含む。
径2~3cm以上の焼土ブロックを多量に含む。
赤褐色スコリアを少量含む。
伊の積成層。
- 伊3 暗褐色土 FB主体。焼土粒を多く含む。
炭化植物、赤褐色スコリアを少量含む。
シャリシャリとした固さの硬化層。

- 伊4 暗褐色土 FB主体。焼土粒を多量に含む。炭化植物を少量含む。
赤褐色スコリア、褐色スコリアをごく少量含む。
- 伊5 黒褐色土 FB主体。焼土粒を含む。炭化植物を少量含む。
赤褐色スコリア、褐色スコリアをごく少量含む。
- 伊6 暗褐色土 FB主体。焼土粒を含む。炭化植物を少量含む。
炭化植物、赤褐色スコリアをごく少量含む。
YL粒子を少量含む。ボロボロとした層。



第14図 縄文時代 1号住居跡新伊・旧伊

1bは深鉢の口縁～胴部である。胎土などから1aと同一個体であると考えられる。口縁部は無文帯とし、胴部には角押文や三角押文、隆帯による三角形や四角形のモチーフを組み合わせた抽象文が表現されている。三角形の区画の中には、三叉文が充填されている。欠損部分が存在しているため詳細は不明だが、いわゆるサンショウウオ文が、胴部をぐるりと一周していると推測される。口径16cm程度の、比較的小型の資料である。また、個体は異なるが、6も同様の施文を有する資料と推定される。

2a・bは深鉢の口縁～底部である。2aも、口縁部は無文帯で、胴部には隆帯で半円状・三角形のモチーフを区画している。区画の中は、隆帯に沿って三角押文や爪形文が施され、半円状の区画のみ、中央部もへら状工具による縦位の刺突によって充填されている。また、三角形のモチーフの両端には、耳状の小把手が貼付されている。把手には、へら状工具による刺突と、一部には穿孔が確認される。文様帯の範囲は狭く、隆帯を境として、下部は再び無文帯となっている。口径19cm程度の比較的小型の資料である。2bは底部片である。胴部が垂直に近い形で立ち上がっている。やや焼成が強く、砂質である。胎土や器厚から、2aと同一個体と考えられる。1、2は、新道式期の要素を残しているが、出土時の伴関係から、藤内式期の古手に属すると判断した。

3a～cは、同一個体と考えられる深鉢の口縁～底部である。3aも、2a同様、口縁部は無文帯で、胴部文様帯との境に横位の連続爪形文と波状沈線文を施している。破片右側、欠損部付近の口唇部は、やや膨らみを持っており、把手が配置されていたと推測される。3bは胴部片で、瘤状の隆帯や短隆帯を貼付している。その周囲には角押文が施されている。また、瘤状の隆帯には棒状工具による押し込みが斜位に施されており、短隆帯には棒状工具による刻みが施されている。3cは底部である。胴部がやや広がって立ち上がっている。a・bと胎土や器厚が似ており、同一個体であると考えられる。

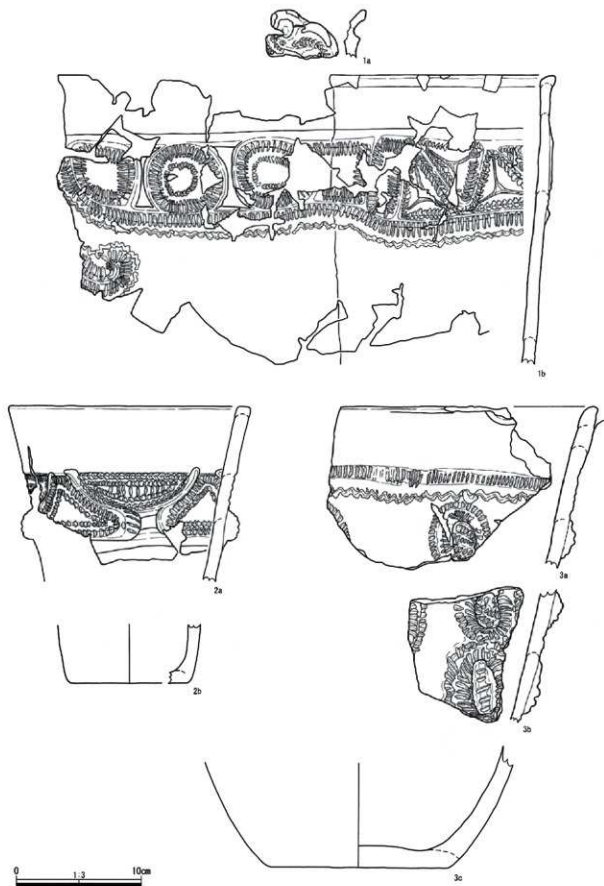
4a～cは、同一個体と考えられる深鉢の口縁～底部である。4aは4単位の突起状口縁である。突起部頂上には眼鏡状把手が確認できるが、眼鏡部が貫通しているものと、していないものがある。把手には爪形の刻みが施されている。把手からは2本の隆帯が垂下しており、その上にも爪形の刻みが確認できる。4bには、4aから続く隆帯の下部に、斜めに捻じれたように取り付けられた把手が確認できる。下部が失われているため判然としないが、残存部分から、中空の把手であったと推測される。また把手上部両側には円形の装飾が施されている。4aにはこの装飾が確認できなかったことから、正面にのみ施されていたと推測される。胴部上半は縦位の区画文が施されており、その中には、いわゆる“温泉マーク”と呼ばれる藤内式期の典型的な施文が確認できる。胴部中央には横位の区画文が施されている。器形は、口縁部と胴部に2ヶ所のキャリパー形の膨らみを有している。4cは底部である。底径は10cm前後であり、比較的小型の資料である。突起部に把手が確認できるなど、愛鷹周辺の藤内式期にはあまり確認されていない特徴が見られる。例えば長野県岡谷地方などの、遠隔地の影響を受けて製作された土器と推測される。

5は胴部片である。横位の連続爪形文に平行して、角押文が波状に施されている。この資料は住居外の出土（南東約7m）であるが、同一個体と考えられる破片数点が炉跡から出土している。

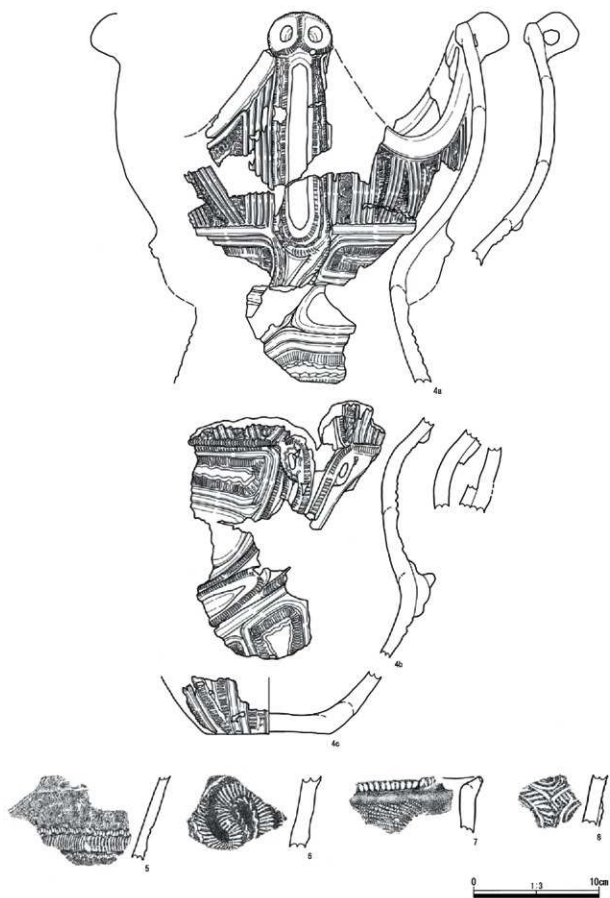
6も胴部片である。個体は異なるが、1bと似た施文を有すると推定される資料である。

7は口縁部片である。口唇部直下に隆帯を貼付して、その上にへら状工具による刻みを連続して施している。胴部には原体RLの縄文を横位に施している。口唇部は平坦に調整されている。また、内面も丁寧に調整されている。

8は胴部片である。隆帯を三叉に貼り付け、その上にへら状工具による刻みを施している。おそらくはパネル文の外縁だと推測されるが、断片的な資料のため判然としない。



第15図 縄文時代 1号住居跡出土土器（1）



第16図 縄文時代 1号住居跡出土土器(2)

2 土坑 (第17~37図)

(1) 土坑の形態別分類

80基の土坑が検出された。逆茂木の有無や、平面および断面形状により、下記の5形態に分類した。

- 1類：1本の逆茂木を有し、平面形状が円形、断面形状がバケツ状のもの
- 2類：複数の逆茂木を有し、平面形状が円形、断面形状がラッパ状のもの
- 3類：複数の逆茂木を有し、平面形状が長方形のもの
- 4類：逆茂木が確認できず、平面形状が円形、断面形状がバケツ状のもの
- 5類：逆茂木が確認できず、平面形状が長方形のもの

いくつかの土坑は、複数基での列状の配置が明確であり、それらも合わせて記載を行った。また、覆土から土器や石器、礫、炭化物などの遺物が出土している例があるが、大半が流れ込みであり、遺構の時期が特定できる資料は確認できなかった。土坑出土物については一括して記載を行った。

1類：1本の逆茂木を有し、平面形状が円形、断面形状がバケツ状のもの（1~3号土坑）

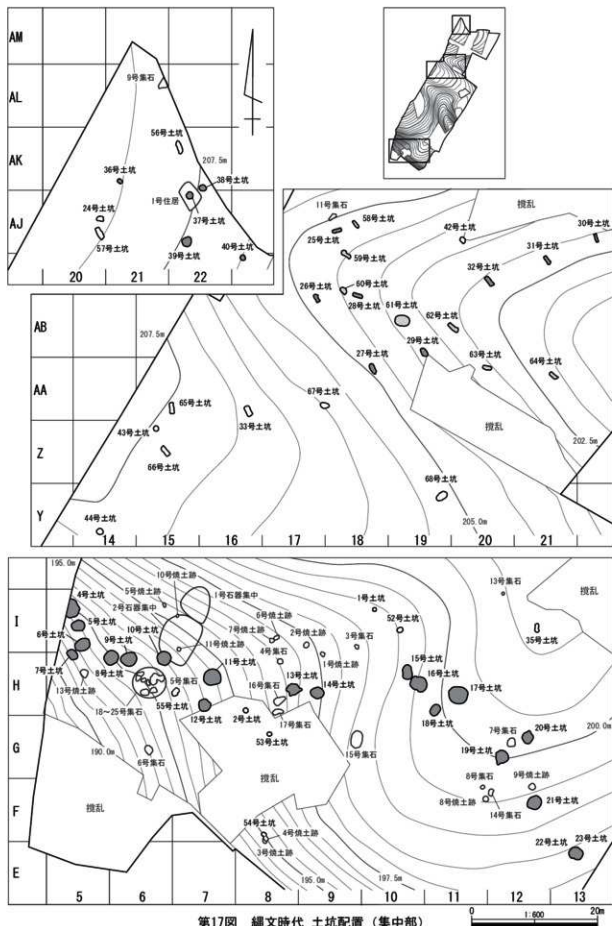
中央付近に1本の逆茂木を有し、平面形状が円形の土坑を3基分類した。断面形状はバケツ状に近く、開口部が広くならない。なお、3号は逆茂木も複数あり、崩落によって開口部も広がっているが、機能的には同類と考えた。底面は1号土坑を除いて休場層より下に位置しているが、掘り込み面が判然としないため、深さは不明である。逆茂木を有していることから、狩猟用の陥穴であることが推定される。

2類：複数の逆茂木を有し、平面形状が円形、断面形状がラッパ状のもの（4~23号土坑）

逆茂木を複数有して、平面形状が円形の土坑を20基分類した。断面形状が、大きくラッパ状に開いているものが多いが、上部は大半が崩落によるものであり、4号土坑のように開口部が異様に開いていたわけではない。逆茂木の数は10本を超える例が大半であり、非常に多くなっている。4・8号土坑の断面からは、掘り込み面はカワゴ平バミス包含層付近であり、中期以降の比較的新しい時期の土坑であることが推測される。しかし、周辺の遺物の堆積状況を見ると、栗色土層あたりから上層では、土坑とは無関係に包含層が形成されている状況が観察できることから、実際の掘り込み面は富士黒土層あたりである可能性も考えられる。底面は浅いものでも休場層より下に位置しており、深いものではATよりも下位に確認できるため、正確な掘り込み面は判然としないものの、深さは2.0m以上だったと考えられる。調査区の南、南西谷部から南尾根の南東部まで、やや蛇行しながら列状に並んでいる（第17図下段）。同時期に、意図的に配置された、狩猟用の陥穴と推測される。

3類：複数の逆茂木を有し、平面形状が長方形のもの（24~35号土坑）

逆茂木を複数有して、平面形状が長方形の土坑を12基分類した。壁面は、ほぼ垂直に落ちている。逆茂木の数は2~10本前後と幅があるが、底面全体に配置されているわけではなく、少し偏る傾向が確認できる。34・35号土坑はその傾向から外れるが、後述するとおり分布が外れており、同一の一群ではない可能性が考えられる。26・27・31・32号土坑の断面から、掘り込み面は栗色土層よりも上層であり、中期以降の比較的新しい時期の土坑であることが推測される。底面は浅いものでも休場層上位付近、深いものではAT付近にまで達しているため、正確な掘り込み面は判然としないものの、深さは最も深いもので2.0m強だったと考えられる。24・34・35号土坑以外は、北尾根と中央尾根に挟まれた北谷部付近に、等高線に沿うような形で集中して配置されており、一括性を持った同時期の遺構群と考えられる（第17図中段）。また、周辺には形状、大きさ、深さなどに共通性を持つ、逆茂木のない土坑（5類：58~64号土坑）も確認されており、同一の遺構群に分類される可能性も考えられる。

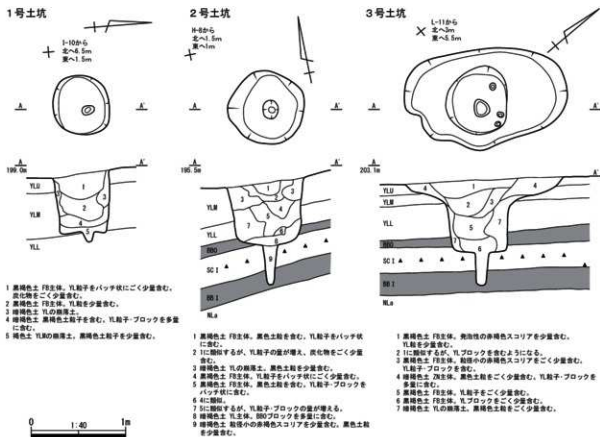


4類：逆茂木が確認できず、平面形状が円形、断面形状がバケツ状のもの（36～55号土坑）

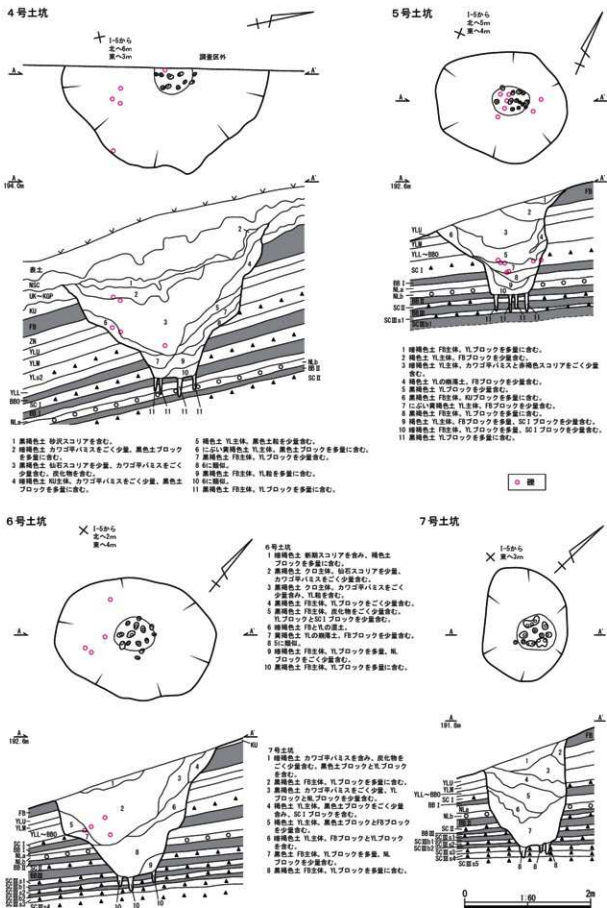
逆茂木が確認できず、平面形状が円形の土坑を20基分類した。断面形状はバケツ状に近く、開口部が極端に広くならない。底面が休場層より深いもの（36～44・46・48・50・53号土坑）と浅いもの（45・47・49・51・52・54・55号土坑）に分類される。44・52号土坑の断面を見ると、掘り込み面は富士黒土層よりも上層であり、深さは2.0m前後であると推測される。北尾根では等高線に沿うようにして（第17図上段、36～41号土坑）、中央尾根では等高線に直交して配置されている（第11図、43～48号土坑）。これらについては一群の遺構と考えられる。54・55号土坑は、他の遺構と重複して検出されている。54号土坑は4号焼土よりも、また、55号土坑は5号集石よりも以前に遺構が構築されたことが確認された。

5類：逆茂木が確認できず、平面形状が長方形のもの（56～80号土坑）

逆茂木が確認できず、平面形状が長方形の土坑を25基分類した。底面が休場層下位より深いもの（56～58・61～63・65・66・68・76号土坑）と、浅いもの（59・60・64・67・69～75・77～80号土坑）に細分可能である。平面形状や深さに差異があり、配置も北尾根から南西谷部にかけて広範囲にわたっていることから、一括した遺構群ではなく、構築時期や目的が異なっていた可能性が指摘される。その中でも、北尾根と中央尾根の間の北谷部から検出された58～64号土坑は、先述したように、逆茂木が無いことを除けば3類と共通点が多く、合わせて一連の遺構群であった可能性も考えられる（第17図中段）。正確な掘り込み面は判然としませんが、61・62号土坑の断面を見ると、掘り込み面は栗色土層よりも上層であり、3類同様、最も深いもので2.0m強だったと考えられる。中期以降の比較的新しい時期の土坑であることが推測される。

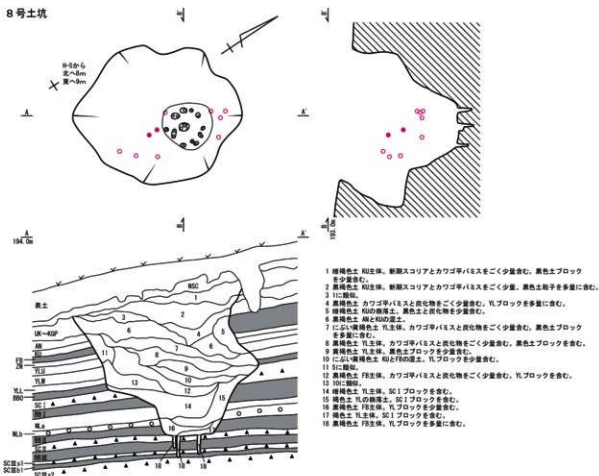


第18図 縄文時代 土坑（1）

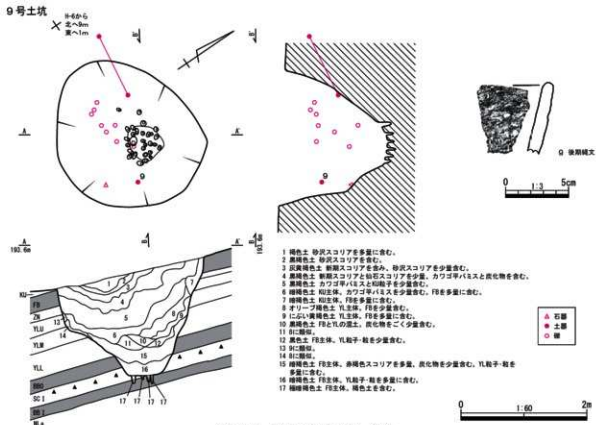


第19図 縄文時代 土坑(2)

8号土坑



9号土坑

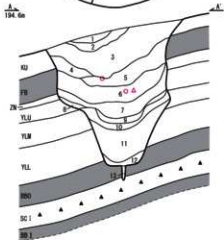


第20図 縄文時代 土坑(3)

10号土坑



134.6m



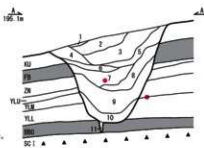
10号土坑

- 1 褐色土 砂質スコリアを多量に含む。
- 2 黒褐色土 砂質スコリアとカワゴ甲ハリスをごく少量含む。
- 3 黒褐色土 粘土スコリアとカワゴ甲ハリス、炭化物をごく少量含む。
- 4 黒褐色土 カワゴ甲ハリスを少量含む。
- 5 黒褐色土 丸石をごく少量含む。
- 6 黒褐色土 丸ブロックを少量含む。
- 7 黒褐色土 丸ブロックを多量に含む。
- 8 黒褐色土 丸ブロックを少量含む。
- 9 黒褐色土 丸ブロックをごく少量含む。
- 10 褐色土 丸主体。炭化物と黒色土ブロックを少量含む。
- 11 黒褐色土 炭化物を少量、丸ブロックを多量に含む。
- 12 黒褐色土 丸ブロックをごく少量含む。
- 13 黒褐色土 赤褐色スコリアを少量含む。

12号土坑



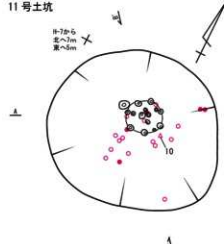
130.1m



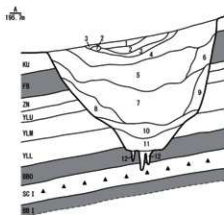
12号土坑

- 1 黒褐色土 粘土スコリアを多量、カワゴ甲ハリスをごく少量含む。
- 2 黒褐色土 砂質スコリアとカワゴ甲ハリスを少量含む。
- 3 黒褐色土 粘土スコリアとカワゴ甲ハリスを少量含む。
- 4 褐色土 炭化物をごく少量含む。
- 5 黒褐色土 カワゴ甲ハリスと褐色土ブロックを少量含む。
- 6 黒褐色土 カワゴ甲ハリスを少量含む。
- 7 黒褐色土 丸石を少量含む。
- 8 黒褐色土 丸と円形の遺物。
- 9 黒褐色土 丸ブロックを少量含む。
- 10 黒褐色土 丸ブロックをごく少量含む。
- 11 黒褐色土 赤褐色スコリアを少量含む。

11号土坑

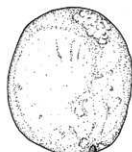


132.3m



11号土坑

- 1 褐色土 砂質スコリアを多量に含む。
- 2 黒褐色土 砂質スコリアを少量含む。
- 3 黒褐色土 粘土スコリアとカワゴ甲ハリスをごく少量含む。
- 4 黒褐色土 砂質スコリアとカワゴ甲ハリスを少量、炭化物をごく少量含む。
- 5 黒褐色土 粘土スコリアとカワゴ甲ハリスを少量、炭化物をごく少量含む。
- 6 黒褐色土 カワゴ甲ハリスをごく少量、丸ブロックを多量に含む。
- 7 黒褐色土 丸と円形の遺物と丸ブロックをごく少量含む。
- 8 黒褐色土 丸ブロックを少量含む。
- 9 粘土層。
- 10 粘土質黒褐色土 丸ブロックを多量に含む。
- 11 黒褐色土 丸ブロックを少量含む。
- 12 黒褐色土 赤褐色スコリアを少量含む。



10

図号 6619
多丸貫穿山跡

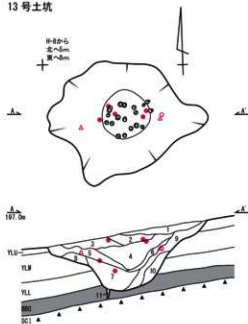
0 1:3 5cm

0 1:80 2m



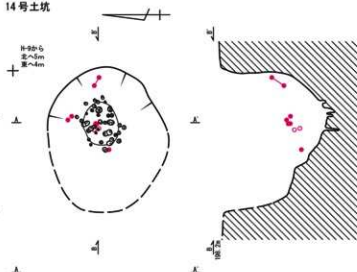
第21図 縄文時代 土坑 (4)

13号土坑



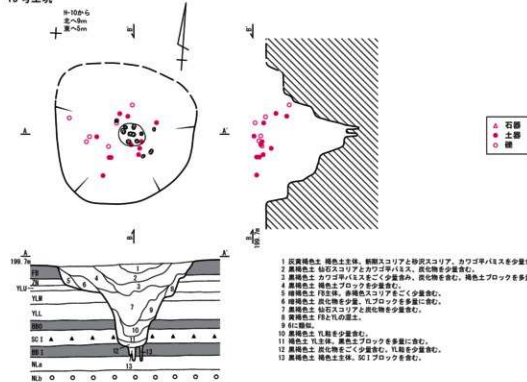
- 1 褐色土 新期スコリア主体、褐色土ブロックを少量含む。
- 2 黒褐色土 カワゴ甲ハリスをごく少量、丸粒を少量含む。
- 3 黒褐色土 丸ブロックを少量含む。
- 4 黄褐色土 Fと丸の混生土。
- 5 黒褐色土 丸ブロックを少量含む。
- 6 暗褐色土 丸主体、Fを少量含む。
- 7 黒褐色土 Fと主体、丸を少量含む。
- 8 暗褐色土 丸の粘層土、Fを少量含む。
- 9 黒褐色土 丸ブロックを少量含む。
- 10 土に多い黄褐色土、丸主体、Fを少量含む。
- 11 暗褐色土 褐色土ブロックを含む。

14号土坑



- 1 褐色土 砂沢スコリアを多量に含む。
- 2 黒褐色土 砂沢スコリアを含む。
- 3 黒褐色土 砂沢スコリアとカワゴ甲ハリスをごく少量含む。
- 4 黒褐色土 丸ブロックを少量含む。
- 5 土に多い黄褐色土 丸の粘層土。
- 6 黒褐色土 炭化物をごく少量、丸ブロックを少量含む。
- 7 褐色土 丸の粘層土。
- 8 暗褐色土 丸ブロックを多量に含む。
- 9 黄褐色土 丸の粘層土、褐色土を少量含む。
- 10 黒褐色土 炭化物を少量、丸ブロックを多量に含む。
- 11 暗褐色土 丸ブロックを含む。

15号土坑

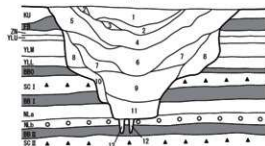
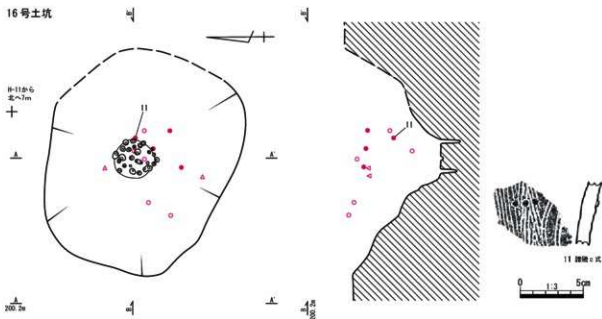


- 1 灰黄褐色土 褐色土主体、新期スコリアと砂沢スコリア、カワゴ甲ハリスを少量含む。
- 2 黒褐色土 砂沢スコリアとカワゴ甲ハリス、炭化物を少量含む。
- 3 黒褐色土 カワゴ甲ハリスをごく少量含む、炭化物を含む、褐色土ブロックを多量に含む。
- 4 黒褐色土 褐色土ブロックを少量含む。
- 5 暗褐色土 Fと主体、赤褐色スコリアをごく少量含む。
- 6 暗褐色土 炭化物を少量、丸ブロックを多量に含む。
- 7 黒褐色土 砂沢スコリアと炭化物を少量含む。
- 8 黒褐色土 Fと丸の混生土。
- 9 砂沢土。
- 10 黒褐色土 丸粒を少量含む。
- 11 褐色土 丸主体、褐色土ブロックを多量に含む。
- 12 黒褐色土 炭化物をごく少量含む、丸粒を少量含む。
- 13 黒褐色土 褐色土主体、SGIブロックを含む。



第22図 縄文時代 土坑(5)

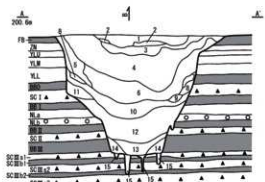
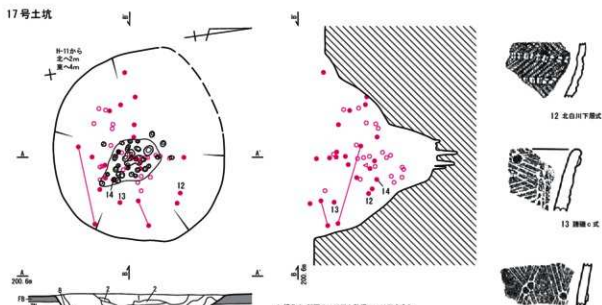
16号土坑



- 1 褐色土 新期スコリア、砂沢スコリアを含む。
- 2 黒褐色土 砂沢スコリアを含む。
- 3 土に硬結。
- 4 黒褐色土 砂沢スコリアを含み、カワゴ甲ハリスをごく少量含む。
- 5 黒褐色土 砂沢スコリアを少量含む。
- 6 黒褐色土 灰化物をごく少量、黒褐色土ブロックを少量含む。
- 7 黒褐色土 砂沢土、瓦ブロックを少量含む。
- 8 褐色土 瓦の砂層土、砂ブロックを少量含む。
- 9 黒褐色土 瓦ブロックを少量含む。
- 10 灰褐色土 砂層土、灰化物をごく少量、瓦ブロックを少量含む。
- 11 黒褐色土 瓦層を少量含む。
- 12 黒褐色土 砂層土、瓦ブロックを少量含む。



17号土坑



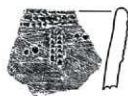
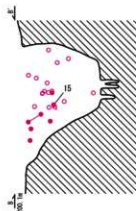
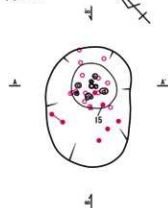
- 1 褐色土 新期スコリアと砂沢スコリアを含む。
- 2 黒褐色土 砂沢スコリアを含む。
- 3 灰褐色土 新期スコリアを少量、砂沢スコリアをごく少量とカワゴ甲ハリスを含む。
- 4 黒褐色土 砂沢スコリアを含み、カワゴ甲ハリスをごく少量含む。
- 5 褐色土 灰化物をごく少量、砂と瓦ブロックを少量含む。
- 6 黒褐色土 砂層土、灰化物をごく少量、砂ブロックを少量含む。
- 7 灰褐色土 砂層土、瓦ブロックを少量含む。
- 8 褐色土 瓦の砂層土。
- 9 褐色土 瓦の砂層土、8よりも瓦ブロックの層が増える。
- 10 黒褐色土 砂層土、瓦ブロックを少量含む。
- 11 黒褐色土 灰化物をごく少量、砂ブロックを少量含む。
- 12 黒褐色土 砂層土、黒褐色土スコリアを少量含む。
- 13 黒褐色土 砂層土、黒褐色土スコリアを少量含む。
- 14 黒褐色土 砂層土、黒褐色土スコリアと灰化物を少量含む。
- 15 黒褐色土 砂層土、砂沢スコリアをごく少量含む。



第23図 縄文時代土坑(6)

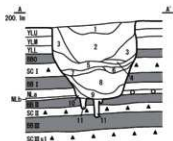
18号土坑

B-11から
北へ3m
東へ2m



15 土層の状況

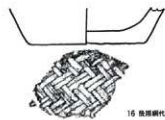
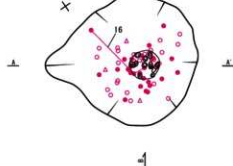
0 1.3 5cm



- 1 黄褐色土 砂状体、新期スコリアを含み、カワゴ甲ハリスを少量、炭化物をごく少量含む。
- 2 黄褐色土 粘石スコリアと赤褐色スコリア、カワゴ甲ハリスを少量含む。
- 3 に近い黄褐色土 砂状体、炭化物を少量、珪石を少量含む。
- 4 黄褐色土 珪石ブロックを少量含む。
- 5 に近い黄褐色土 珪石体、赤褐色スコリアをごく少量、珪石ブロックを少量含む。
- 6 黄褐色土 珪石ブロックを少量含む。
- 7 黄褐色土 珪石ブロックを少量含む。
- 8 珪石に剥離するが、しまりが疎くなる。
- 9 灰褐色土 珪石ブロックを含む。
- 10 黄褐色土 赤褐色スコリアを少量含む。

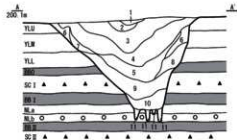
19号土坑

B-12から
北へ3m
東へ1m



16 土層の状況

0 1.3 5cm



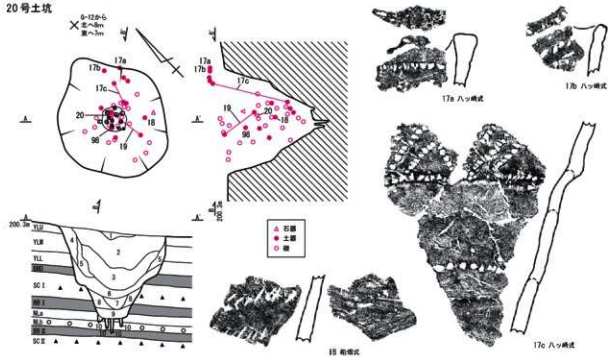
- 1 黄褐色土 新期スコリアを含み、カワゴ甲ハリスをごく少量含む。
- 2 黄褐色土 粘石スコリアとカワゴ甲ハリスを少量含む。
- 3 黄褐色土 粘石スコリアとカワゴ甲ハリスを少量、炭化物をごく少量含む。
- 4 黄褐色土 カワゴ甲ハリスを少量、赤褐色スコリアをごく少量含む。
- 5 黄褐色土 珪石ブロックを少量含む。
- 6 に近い黄褐色土 珪石の剥離土。
- 7 黄褐色土 珪石を少量含む。
- 8 黄褐色土 赤褐色スコリアと珪石子を少量含む。
- 9 黄褐色土 炭化物をごく少量、珪石ブロックを少量含む。
- 10 黄褐色土 赤褐色スコリアと珪石ブロックを少量含む。
- 11 黄褐色土 黒色土ブロックを含む。



0 1.80 2m

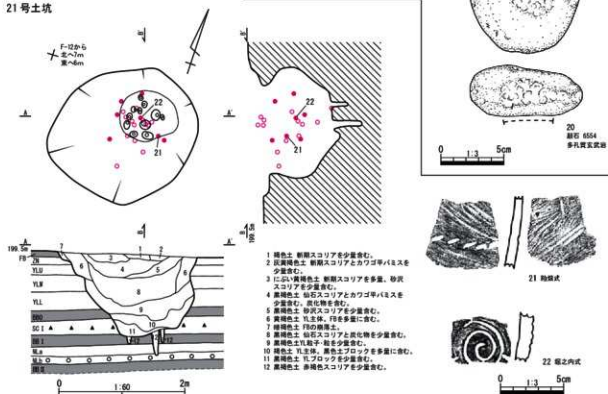
第24図 縄文時代 土坑(7)

20号土坑



- 1 近い黄褐色土 新痕スコリアを多量。カワゴギハリスを少量含む。
- 2 黄褐色土 新痕スコリアを少量。カワゴギハリスを含む。
- 3 黄褐色土 カワゴギハリスをごく少量。赤褐色スコリアと丸ブロックを少量含む。
- 4 褐色土 YLの脱落土。
- 5 暗褐色土 珪石スコリアをごく少量。丸ブロックを少量含む。
- 6 黄褐色土 丸ブロックを少量含む。
- 7 黄褐色土 暗褐色スコリアをごく少量。丸ブロックを少量含む。
- 8 黄褐色土 暗褐色スコリアを少量含む。
- 9 近い腐り土。腐敗現象が明かになる。
- 10 黄褐色土 赤褐色スコリアを少量含む。

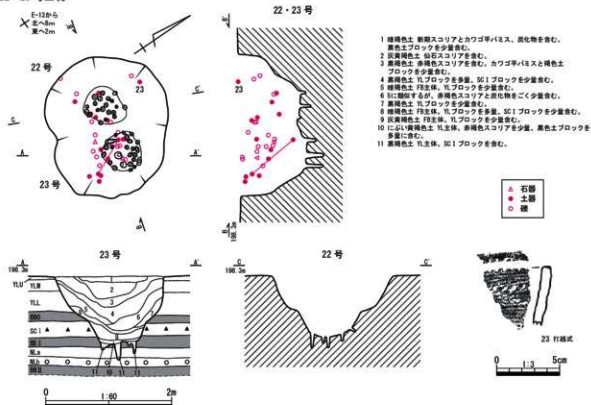
21号土坑



- 1 褐色土 新痕スコリアを少量含む。
- 2 灰黄褐色土 新痕スコリアとカワゴギハリスを少量含む。
- 3 近い黄褐色土 新痕スコリアを多量。砂状スコリアを少量含む。
- 4 黄褐色土 珪石スコリアとカワゴギハリスを少量含む。炭化物を含む。
- 5 黄褐色土 砂状スコリアを少量含む。
- 6 黄褐色土 YL土多量。珪石多量に含む。
- 7 暗褐色土 YLの脱落土。
- 8 黄褐色土 珪石スコリアと炭化物を少量含む。
- 9 黄褐色土 YL土多量。珪石を少量含む。
- 10 褐色土 YL土多量。黒色土ブロックを多量に含む。
- 11 黄褐色土 丸ブロックを少量含む。
- 12 黄褐色土 赤褐色スコリアを少量含む。

第25図 縄文時代土坑(8)

22・23号土坑



第26図 縄文時代 土坑(9)

(2) 土坑出土遺物(第20~37図9~27)

9は、9号土坑から出土した口縁部片である。第VI群c類(後期の型式不明)に分類される。胴部に縄文と思しき何らかの施文を行っているが、磨滅しており判然としない。内面が丁寧に調整されていること、胎土や焼成などから、後期の土器と判断した。

10は、11号土坑から出土した敲石である。やや厚みを持った亜円礫の端部に、敲打痕が確認できる。石材は多孔質安山岩である。

11は、16号土坑から出土した胴部片である。第IV群c類(諸磯c式)に分類される。縦位の集合沈線を交差するように施文し、その交点付近に円形貼付文を配置している。

12は、17号土坑から出土した胴部片である。第IV群a類(北白川下層式)に分類される。縄文を羽状に施して、その継ぎ目に、先割状工具による横位の刺突列を施している。器厚が薄く、黄褐色を呈しており、西日本系の土器である。この土器に分類される資料は、包含層からは確認できなかった。

13は、17号土坑から出土した口縁部片である。第IV群c類(諸磯c式)に分類される。口縁部直下に、半截竹管による連続爪形文を1条巡らせ、その下には集合沈線を交差するように施文し、縦位の連続爪形文や円形貼付文を施している。

14も、17号土坑から出土した胴部片である。第IV群c類(諸磯c式)に分類される。集合沈線をX字状に交差させて施文し、その交点に円形貼付文を配置している。同一個体と考えられる破片が16号土坑からも出土している。

15は、18号土坑から出土した口縁部片である。第IV群c類（諸磯c式）に分類される。細い集合沈線を斜行して施文し、口縁部直下には横位に2条の結節浮線文を貼付している。さらにその下部には、縦位2条の結節浮線文や円形貼付文を貼付している。同一個体と考えられる破片が53号土坑からも数点出土している。周辺には当該期の土器が多数分布している。

16は、19号土坑から出土した底部である。胴部は無文であり、灰色粒子を多量に含んだ、やや厚めの土器である。網代痕が確認できることから、後期以降の粗製土器であると推測される。

17a～cは、20号土坑から出土した、同一個体と考えられる口縁～胴部片である。第II群g類（八ッ崎式）に分類される。波状口縁に沿って、棒状工具による米粒状の刺突を施し、その下には刺突により鋸歯状文を施している。屈曲部にも刺突列が施され、ここで口縁部文線帯が区画されているが、さらに胴部の下方にも1条の刺突列が横位に施されている（17c）。波頂部には酒杯状突起が確認でき、ナデによって平坦に調整されている（17a）。口唇部には刻みを施している（17b）。17cの1破片のみが土坑内部から出土し、その他は土坑検出面直上から出土している。

18は、20号土坑から出土した胴部片である。第II群h類（粕畑式）に分類される。内外面を擦痕調整の後、ヘラ状工具による刺突を列状に施している。なお、同土坑からは、同じ粕畑式土器に属する、包含層掲載の98の破片が1点出土している。

19は、20号土坑から出土した口縁部片である。薄手の無文土器であり、第VI群c類（後期の型式不明）に属すると考えられる。胎土に大量の灰色粒子、白色粒子を含んでいる。

20は、20号土坑から出土した敲石である。平坦な円縁の中央部と周縁に敲打痕が確認できる。中央部の敲打痕は表裏両面に確認できる。石材は多孔質玄武岩である。

21は、21号土坑から出土した胴部片である。第II群h類（粕畑式）に分類される。内外面に条痕調整を施し、その後からヘラ状工具による刺突を横位列状に施している。なお、同土坑からは、同じ粕畑式土器に属する包含層掲載の103の同一個体の破片が1点出土している。

22は、21号土坑から出土した胴部片である。第VI群b類（堀之内式）に分類される。沈線による渦巻文が施されており、その外側にも沈線が確認できる。

23は、22号土坑から出土した口縁部片である。第II群k類（打越式）に分類される。条痕を地文とし、貝殻腹縁による刺突を横位・斜位に施している。口縁端部にも刺突が確認できる。断片的な資料のため全体形状は判然としない。

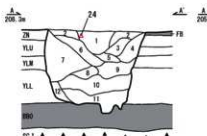
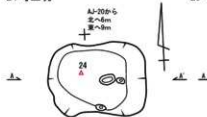
24は、24号土坑から出土した小型の石鏃である。脚部は短く、基部はへの字状に近い。石材は黒曜石神津島恩馳島群である。

25は、52号土坑から出土した定角式の磨製石斧である。全体的に非常に精緻に作られており、全面が研磨されている。磨きは基本的に縦方向で行われ、擦痕が確認できる。側面も、稜が明確に形成されている。使用、再生を繰り返したらしく、刃部には衝撃痕が確認され、その後縁は研磨されている。石材はカンラン岩である。

26は、71号土坑から出土した敲石である。平坦な円縁の側縁に、敲打痕が確認できる。石材は多孔質玄武岩である。

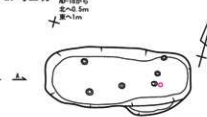
27は78号土坑から出土した小型の石鏃である。脚部が長く、大きく開いている。それに反して胴部は非常に短い。石材は黒曜石神津島恩馳島群である。

24号土坑

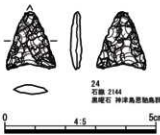


- 1 雑褐色土 粗粒小の赤褐色スコリアを含む。黒褐色土を含む。丸石子-ブロックを多数に含む。
- 2 1に類似するが、丸ブロックは少ない。
- 3 黒褐色土 珩玉珠。黒褐色土と丸石子-粒を少量含む。
- 4 黒褐色土 珩玉珠。黒褐色土と丸石子-粒を多数と丸ブロックを少量含む。
- 5 4に類似するが、丸石子の量が薄く、丸粒を少量含むようになる。
- 6 黒褐色土 珩玉珠。黒褐色土と丸石子-粒を含む。
- 7 雑褐色土 粗粒小の赤褐色スコリアを含む。黒褐色土と丸粒を多数に含む。
- 8 雑褐色土 黒褐色土を含む。丸石子と粗粒大の丸ブロックを少量含む。
- 9 雑褐色土 丸石子を多数と丸粒-ブロックを少量含む。
- 10 雑褐色土 粗粒小の赤褐色スコリアを含む。黒褐色土を少量。丸石子-粒を含む。
- 11 雑褐色土 珩玉珠。丸石子-ブロックをごく少量含む。
- 12 黒褐色土 粗粒小の赤褐色スコリアを含む。黒褐色土を少量。丸石子を多数に含む。

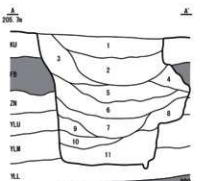
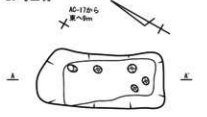
25号土坑



- 1 雑褐色土 珩玉珠。雑褐色土ブロックを含む。
- 2 雑褐色土 粗粒大の丸ブロックを少量含む。
- 3 黒褐色土 珩玉珠。粗粒大の丸ブロックを多数に含む。
- 4 黒褐色土 珩玉珠。丸粒を少量含む。
- 5 雑褐色土 珩玉珠。珩と丸の混土。

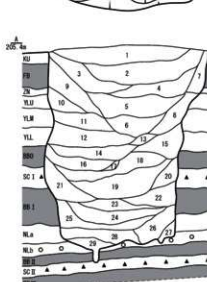
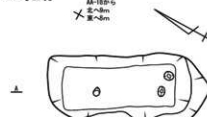


26号土坑

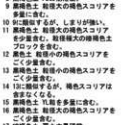
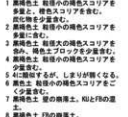


- 1 黒褐色土 粗粒大の褐色スコリアを多数に含む。
- 2 1に類似するが、中の黒味が強くなる。
- 3 黒褐色土 粗粒小の褐色スコリアを含む。
- 4 2に類似するが、しまりが強くなる。
- 5 黒土 粗粒小の褐色スコリアを含む。上部に比べ、しまりが強い。
- 6 黒褐色土 粗粒小の褐色スコリアを少量含む。
- 7 6に類似するが、強い褐色土ブロックを多数に含み、しまりが強くなる。
- 8 黒褐色土 粗粒小の褐色スコリアを少量含む。
- 9 黒褐色土 丸ブロックを少量含む。
- 10 黒土 丸石子を少量含む。
- 11 黒褐色土 丸ブロックを少量含む。

27号土坑

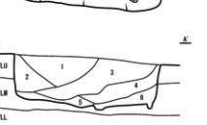
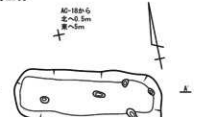


28号土坑

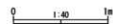


- 1 黒褐色土 粗粒小の褐色スコリアを多数と、褐色スコリアを含む。珩玉珠を少量含む。
- 2 黒褐色土 粗粒小の褐色スコリアを多数に含む。
- 3 黒褐色土 粗粒大の褐色スコリアを多く、褐色土ブロックを少量含む。
- 4 黒褐色土 粗粒小の褐色スコリアを少量含む。
- 5 4に類似するが、しまりが強くなる。
- 6 黒土 粗粒小の褐色スコリアをごく少量含む。
- 7 黒褐色土 珩の珩玉土。珩と珩玉の混土。
- 8 雑褐色土 珩玉珠を含む。
- 9 黒褐色土 粗粒大の褐色スコリアを多数に含む。
- 10 9に類似するが、しまりが強い。
- 11 黒褐色土 粗粒大の褐色スコリアを少量含む。粗粒大の雑褐色土ブロックを含む。
- 12 黒土 粗粒小の褐色スコリアをごく少量含む。
- 13 黒褐色土 粗粒小の褐色スコリアを少量含む。
- 14 13に類似するが、褐色スコリアは非常に少ない。
- 15 黒褐色土 丸粒を多数に含む。
- 16 黒褐色土 粗粒大の褐色スコリアをごく少量含む。
- 17 雑褐色土 珩土中層珩玉。
- 18 雑褐色土 丸ブロックを少量含む。
- 19 黒褐色土 粗粒大の丸ブロックを少量含む。
- 20 黒土 丸粒を少量含む。
- 21 雑褐色土 粗粒大の褐色スコリアを少量含む。
- 22 雑褐色土 粗粒大の褐色スコリアを多数に含む。
- 23 22に類似するが、褐色スコリアは非常に少ない。
- 24 23に類似。褐色味が強くなる。
- 25 黒褐色土 丸ブロックを少量含む。
- 26 25に類似するが、黒味が強くなる。
- 27 雑褐色土 丸粒を少量含む。
- 28 黒褐色土 粗粒大の丸ブロックを多数に含む。
- 29 28に類似するが、丸ブロックの量は更に増える。

28号土坑



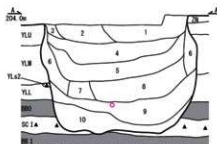
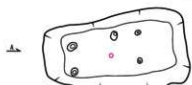
- 1 黒褐色土 珩玉珠。褐色スコリアをごく少量含む。
- 2 黒褐色土 丸ブロックを少量含む。
- 3 1に類似するが、褐色味が強い。
- 4 黒褐色土 珩玉珠。褐色スコリアを少量含む。
- 5 黒褐色土 珩玉珠。粗粒大の丸ブロックを多数に含む。
- 6 黒褐色土 丸ブロックを多数に含む。



第27図 縄文時代 土坑 (10)

29号土坑

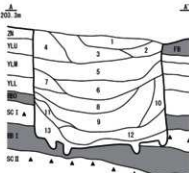
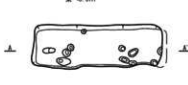
AA-18中-C
北へ2.3m
東へ4m



- 1 黒褐色土 カワゴ甲ハリスを少量、粘厚中の褐色スコリアを少量含む。褐色土胎を含む。
- 2 1に類似するが、黒味がなく、褐色土胎を含まない。
- 3 黒褐色土 粘厚中の褐色スコリアを少量含む。
- 4 黒褐色土 粘厚中の褐色スコリアを少量含む。褐色土ブロックを含む。
- 5 1に類似するが、褐色土ブロックを含まない。
- 6 黒褐色土 壁の粘厚土。褐色土ブロックを少量含む。
- 7 黒褐色土 粘厚中の褐色スコリアを少量含む。
- 8 黒褐色土 粘厚中の褐色スコリアをごく少量含む。
- 9 黒褐色土 11に比べ、粘厚が薄い。丸ブロックを少量含む。
- 10 黒褐色土 粘厚中の褐色スコリアをごく少量含む。

30号土坑

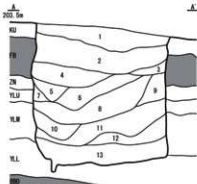
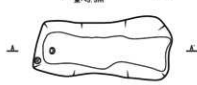
AC-20中-C
北へ0.5m
東へ3.5m



- 1 黒褐色土 粘厚中の褐色スコリアを含む。
- 2 黒褐色土 粘厚中の褐色スコリアを少量含む。
- 3 黒褐色土 粘厚中の褐色スコリアを少量含む。
- 4 黒褐色土 粘厚中の褐色スコリアを少量含む。
- 5 黒褐色土 粘厚中の褐色スコリアを少量含む。上部に比べ、しまりが弱くなる。
- 6 黒褐色土 粘厚中の褐色スコリアを少量含む。
- 7 黒褐色土 粘厚中の褐色スコリアをごく少量含む。
- 8 黒褐色土 粘厚中の褐色スコリアを少量含む。
- 9 黒褐色土 粘厚中の褐色スコリアを少量含む。
- 10 黒褐色土 丸胎を多く含む。
- 11 黒褐色土 壁の粘厚土。丸胎を含む。
- 12 黒褐色土 粘厚中の丸ブロックを少量含む。
- 13 12に類似するが、粘厚が弱くなる。

31号土坑

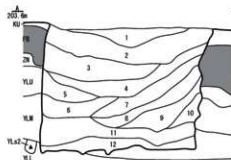
AC-21中-C
北へ4m
東へ5.5m



- 1 黒褐色土 褐色スコリアを少量含む。
- 2 1に類似。褐色スコリア量が若干減る。
- 3 黒褐色土 褐色スコリアを少量含む。
- 4 1に比べ、しまりがやや強い。
- 5 黒褐色土 褐色スコリアを少量含む。
- 6 黒褐色土 褐色スコリアを少量含む。
- 7 黒褐色土 壁の粘厚土。丸胎を少量含む。
- 8 黒褐色土 褐色スコリアをごく少量含む。
- 9 1に類似するが、粘厚が弱くなる。
- 10 黒褐色土 褐色スコリアをごく少量含む。
- 11 黒褐色土 壁土中、黒い黒味が強い。丸ブロックをごく少量含む。
- 12 11に類似するが、褐色土胎が弱くなる。
- 13 黒褐色土 丸ブロックを少量含む。12に比べ、粘厚が弱くなる。

32号土坑

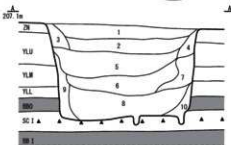
AC-20中-C
北へ2.3m
東へ4m



- 1 黒褐色土 粘厚中の褐色スコリアを少量含む。
- 2 1に類似するが、粘厚中の褐色スコリアを含まないようになる。
- 3 黒褐色土 粘厚中の褐色スコリアを少量。粘厚中の褐色土ブロックを含む。
- 4 黒褐色土 粘厚中の褐色スコリアをごく少量。粘厚土を少量含む。
- 5 1に類似するが、褐色スコリアの量が増え、丸ブロックを少量含むようになる。
- 6 黒褐色土 丸ブロックと丸胎を少量含む。
- 7 黒褐色土 粘厚中の褐色スコリアを少量含む。丸胎を少量含む。
- 8 黒褐色土 壁の粘厚土。丸ブロックを含む。
- 9 黒褐色土 丸ブロックを少量。丸ブロックを含む。
- 10 黒褐色土 丸ブロックを少量。丸胎・丸ブロックをごく少量含む。
- 11 黒褐色土 丸ブロックを少量。丸胎・丸ブロックを少量含む。
- 12 黒褐色土 丸ブロックを少量。丸胎・丸ブロックを少量含む。

33号土坑

AA-18中-C
北へ2.5m
東へ8m

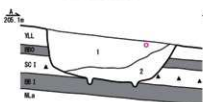
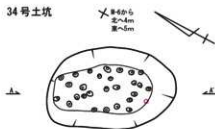


- 1 黒褐色土 粘厚中の褐色スコリアを含む。カワゴ甲ハリスを少量含む。褐色土胎・ブロックを含む。
- 11に類似する。褐色土胎・ブロックを含まない。
- 2 黒褐色土 丸の粘厚土。カワゴ甲ハリスを含む。
- 3 黒褐色土 壁の粘厚土。
- 4 黒褐色土 丸の粘厚土。
- 5 黒褐色土 粘厚中の褐色スコリアを含む。カワゴ甲ハリスを少量含む。
- 6 5に類似するが、カワゴ甲ハリスを含まない。丸胎を少量含む。
- 7 黒褐色土 丸の粘厚土。粘厚中の褐色スコリアを少量含む。
- 8 黒褐色土 粘厚中の褐色スコリアを多く。丸ブロックを少量含む。
- 9 黒褐色土 丸の粘厚土。粘厚中の褐色スコリアを含む。
- 10 黒褐色土 褐色スコリアを少量。丸胎を少量含む。

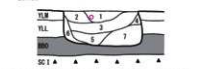
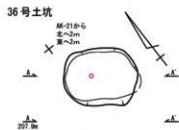


第28図 縄文時代土坑(11)

34号土坑

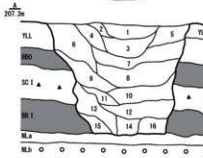
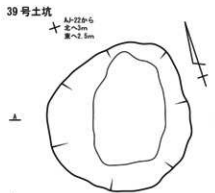


36号土坑



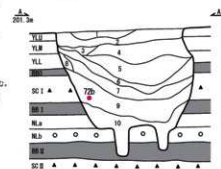
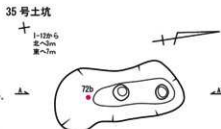
- 1 黒褐色土 円主体。赤褐色スコリア・明褐色スコリア、丸粒を少量含む。
- 2 黒褐色土 円主体。赤褐色スコリアを少量、明褐色スコリアをごく少量含む。丸粒を少量含む。
- 3 褐色土 丸主体。赤褐色スコリアを少量含む。丸粒を少量、丸ブロックを少量含む。
- 4 褐色土 円主体。赤褐色スコリアを少量、丸粒を少量含む。
- 5 黒褐色土 円主体。赤褐色スコリアを少量、丸粒を少量含む。
- 6 褐色土 丸主体。
- 7 黒褐色土 円主体。赤褐色スコリアを少量、褐色スコリアをごく少量含む。丸ブロックを少量含む。

39号土坑



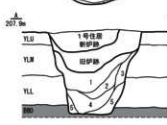
- 1 黒褐色土 円主体。丸粒を少量含む。
- 2 黒褐色土 円主体。赤褐色スコリアを少量含む。丸粒を少量含む。
- 3 1)に類似するが、丸粒をパッチ状に少量含む。
- 4 褐色土 円主体。丸粒を少量含む。
- 5 2)に類似するが、丸ブロックの量が増える。他に比べてしまりがやや少ない。
- 6 黒褐色土 円主体。丸粒を少量含む。
- 7 褐色土 円主体。赤褐色スコリアを少量含む。丸粒を少量含む。
- 8 6)に類似するが、丸ブロックを少量含むようになる。
- 9 褐色土 丸主体。赤褐色・暗褐色スコリアを少量含む。暗褐色スコリアを少量含む。
- 10 褐色土 丸主体。暗褐色スコリアを少量含む。丸粒子をパッチ状に少量含む。
- 11 8)に類似するが、全体のスコリアの量が増える。
- 12 11)に類似するが、しまりが少くなる。
- 13 褐色土 丸主体。赤褐色・暗褐色スコリアを少量含む。丸粒子をパッチ状に少量含む。
- 14 褐色土 丸主体。赤褐色スコリアを少量含む。
- 15 黒褐色土 円主体。赤褐色スコリアをごく少量含む。
- 16 黒褐色土 円主体。暗褐色スコリアを少量含む。

35号土坑



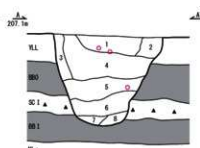
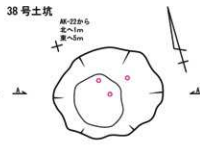
- 1 黒褐色土 円主体。丸ブロックを少量含む。
- 2 黒褐色土 円主体。丸粒を少量含む。
- 3 2)に類似するが、丸粒をパッチ状に少量含む。
- 4 黒褐色土 円主体。暗褐色・暗褐色スコリアを少量含む。丸粒子を少量含む。
- 5 黒褐色土 円主体。丸粒子を少量含む。
- 6 黒褐色土 円主体。丸粒子を少量含む。
- 7 黒褐色土 円主体。丸粒子を少量含む。
- 8 黒褐色土 暗褐色土。丸粒子を少量含む。
- 9 褐色土 円主体。暗褐色・暗褐色スコリアを少量含む。丸粒子を少量含む。しまりが少ない。
- 10 黒褐色土 円主体。暗褐色・暗褐色スコリアを少量含む。丸粒子を少量含む。

37号土坑



- 1 黒褐色土 円主体。丸粒を少量含む。
- 2 褐色土 円主体。丸粒を少量含む。

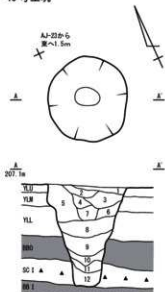
38号土坑



- 1 黒褐色土 円主体。赤褐色スコリアと丸粒を少量含む。
- 2 黒褐色土 円主体。赤褐色スコリアを少量含む。丸粒を少量含む。
- 3 1)に類似するが、丸粒をパッチ状に少量含む。
- 4 黒褐色土 円主体。赤褐色スコリアを少量含む。丸粒を少量含む。
- 5 褐色土 丸主体。赤褐色・暗褐色スコリアと黒褐色土粒を少量含む。
- 6 5)に類似するが、しまりがやや少ない。
- 7 黒褐色土 丸主体。赤褐色スコリアを少量含む。丸粒を少量含む。
- 8 褐色土 丸主体。赤褐色スコリアを少量含む。暗褐色スコリアを少量含む。

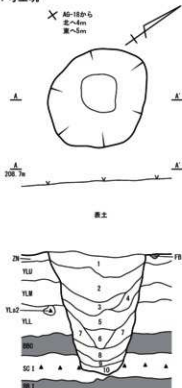
第29図 縄文時代 土坑 (12)

40号土坑



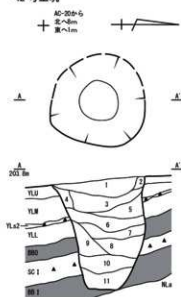
- 1 黒褐色土 F砂状。炭化物と丸胎子-粒を少量含む。
- 2 に類似するが、丸胎子-粒の量が増える。
- 3 黒褐色土 F砂状。炭化物をごく少量、丸胎子-粒を含む。
- 4 黒褐色土 F砂状。炭化物を少量、丸胎子が多量を含む。
- 5 黒褐色土 F土の礫層土。炭化物を少量含む。
- 6 3に類似するが、丸胎子-粒の量が増える。
- 7 黒褐色土 F砂状。炭化物をごく少量、丸胎子が多量を含む。
- 8 黒褐色土 F砂状。炭化物と丸胎子-粒を少量含む。礫層のハツタ状を含む。
- 9 黒褐色土。炭化物をごく少量、丸胎子を少量含む。
- 10 黒褐色土。丸胎子-粒を多量を含む。
- 11 2に類似するが、丸胎子の量が少くなる。
- 12 11に類似するが、丸胎子をごく少量含むようになる。

41号土坑



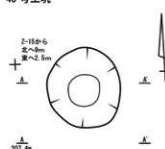
- 1 黒褐色土 F砂状。炭化物をごく少量含む。丸胎子を含む。
- 2 黒褐色土 F砂状。褐色スコリアを黒褐色土胎子-丸胎子を含む。
- 3 黒褐色土 F土状。黒褐色土胎子を含む。
- 4 3に類似するが、黒褐色土胎子の量が増える。
- 5 黒褐色土 F砂状。褐色スコリアをごく少量含む。黒褐色土胎子-丸胎子を含む。
- 6 黒褐色土 F砂状。褐色スコリアを少量含む。黒褐色土胎子-丸胎子を含む。
- 7 黒褐色土 F土の礫層土。
- 8 黒褐色土 F砂状。褐色スコリアをごく少量含む。黒褐色土胎子を含む。
- 9 2に類似するが、丸胎子の量が増える。
- 10 3に類似するが、取得した褐色スコリアを含む。

42号土坑



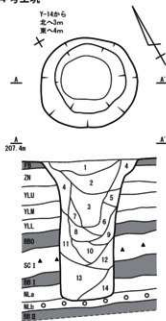
- 1 黒褐色土 F砂状。丸胎子を少量含む。
- 2 黒褐色土 F土の礫層土。
- 3 黒褐色土 F砂状。丸ブロックを含む。
- 4 黒褐色土 F砂状。丸ブロックを多量を含む。
- 5 に類似する。
- 6 黒褐色土 F砂状。上部より黒褐色土胎子-丸胎子を含む。
- 7 黒褐色土 F砂状。丸胎子が多量を含む。
- 8 黒褐色土 F砂状。丸胎子をごく少量含む。
- 9 黒褐色土。丸胎子を少量含む。黒褐色土ブロックを含む。
- 10 黒褐色土 F砂状。スコリアをほとんど含まない。丸胎子をごく少量含む。
- 11 黒褐色土 F土の礫層土。

43号土坑



- 1 黒褐色土 F土状。黒褐色土胎子を多量を含む。
- 2 黒褐色土 F土状。黒褐色土胎子を少量含む。
- 3 黒褐色土 F土の礫層土。黒褐色土胎子を多量を含む。
- 4 3に類似するが、丸の含有率がより増える。

44号土坑

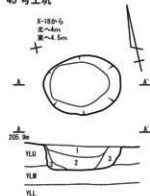


- 1 黒褐色土 F砂状。褐色スコリアを少量含む。黒褐色土胎子を含む。
- 2 に類似するが、褐色スコリアを含む。
- 3 黒褐色土 F砂状。丸ブロックを少量含む。
- 4 黒褐色土 F土状。黒褐色土胎子を少量含む。
- 5 4に類似するが、結核構造が粗くなる。
- 6 黒褐色土 F砂状。赤褐色スコリアを少量含む。褐色スコリアを含む。
- 7 黒褐色土 F砂状。褐色スコリアを含む。
- 8 黒褐色土 F砂状。褐色スコリアと丸胎子を含む。
- 9 黒褐色土 F土状。赤褐色スコリアを少量含む。
- 10 黒褐色土 F砂状。褐色スコリアを少量含む。丸胎子を含む。
- 11 2に類似。
- 12 黒褐色土 F砂状。褐色スコリアを少量含む。丸胎子-ブロックを含む。
- 13 黒褐色土 F砂状。褐色スコリアを少量含む。
- 14 黒褐色土 F砂状。丸、ブロックを多量を含む。

0 1:40 1m

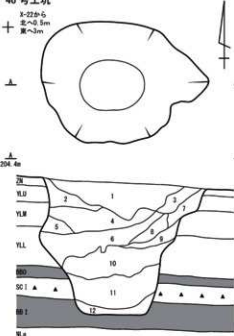
第30図 縄文時代 土坑 (13)

45号土坑



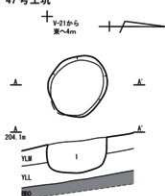
- 1 黒褐色土 砂主体、黒褐色土粒と丸胎子を喰む。
- 2 にごり層なるが、丸胎子の量が減る。
- 3 黒褐色土 丸の顆落土、黒褐色土粒を多量に喰む。

46号土坑



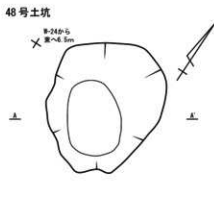
- 1 黒褐色土 砂主体、黒褐色土粒と丸胎子を喰む。
- 2 にごり層なるが、丸胎子の量が減る。
- 3 黒褐色土 丸の顆落土、黒褐色土粒を多量に喰む。
- 4 黒褐色土 丸主体、黒褐色土粒を多量に喰む。
- 5 黒褐色土 砂主体、黒褐色土粒を多量に喰む。
- 6 黒褐色土 砂主体、丸胎子を少量喰む。
- 7 黒褐色土 砂と丸の混土。
- 8 黒褐色土 砂主体、丸胎子を少量喰む。
- 9 黒褐色土 砂主体、丸胎子を少量喰む。
- 10 褐色土 丸の顆落土、黒褐色土粒を多量に喰む。
- 11 褐色土 丸の顆落土、上層に比べ丸胎子が少くなる。
- 12 黒褐色土 砂主体、丸胎子を少量喰む。

47号土坑



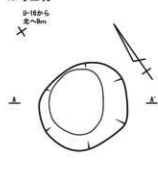
- 1 褐色土 砂主体、赤褐色スコリアをごく少量、丸胎子を少量に喰む。

48号土坑



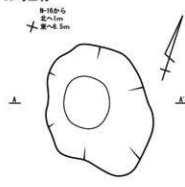
- 1 黒褐色土 砂主体、赤褐色スコリアをごく少量、丸胎子を少量喰む。
- 2 黒褐色土 砂主体、丸胎子を多量に喰む。
- 3 にごり層なるが、丸胎子の量が減る。
- 4 にごり層。
- 5 黒褐色土 砂主体、赤褐色スコリアをごく少量、丸胎子を少量喰む。
- 6 にごり層。
- 7 褐色土 にごり層なるが、丸胎子の量が減る。
- 8 黒褐色土 砂主体、丸胎子を少量喰む。
- 9 にごり層。
- 10 黒褐色土 砂主体、丸胎子を少量喰む。
- 11 褐色土 丸の顆落土、黒褐色土粒を多量に喰む。
- 12 黒褐色土 砂主体、赤褐色スコリアをごく少量、丸胎子を多量に喰む。
- 13 にごり層。
- 14 黒褐色土 砂主体、丸胎子を少量喰む。

49号土坑



- 1 黒褐色土 砂主体、丸胎子を少量喰む。
- 2 黒褐色土 砂主体、丸胎子を少量喰む。
- 3 黒褐色土 砂主体、丸胎子を少量喰む。
- 4 黒褐色土 丸主体、赤褐色スコリアをごく少量、黒褐色土粒を少量喰む。
- 5 黒褐色土 丸主体、赤褐色スコリアを喰み、黒褐色土粒を少量喰む。
- 6 黒褐色土 砂主体、丸胎子を少量喰む。
- 7 黒褐色土 丸主体、粒径大の赤褐色スコリアと黒褐色土粒を喰む。
- 8 黒褐色土 砂と丸の混土、赤褐色スコリアを少量喰み、黒褐色土粒を喰む。
- 9 黒褐色土 丸主体、赤褐色スコリアと黒褐色土を少量喰む。
- 10 黒褐色土 丸主体、赤褐色スコリアを少量喰む。

50号土坑



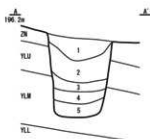
- 1 黒褐色土 砂主体、褐色スコリアを喰み、褐色土ブロックを多量に喰む。
- 2 黒褐色土 砂主体、褐色スコリアを多量に喰む、褐色土粒子をバツ状に少量喰む。
- 3 黒褐色土 丸の顆落土、赤褐色スコリアを少量喰む。
- 4 黒褐色土 砂主体、丸胎子をバツ状にごく少量喰む。
- 5 黒褐色土 丸の顆落土、赤褐色スコリアをごく少量喰む、丸胎子を少量喰む。
- 6 にごり層。
- 7 黒褐色土 砂主体、赤褐色スコリアをごく少量喰む、黒褐色土粒と丸胎子を少量喰む。
- 8 黒褐色土 砂主体、丸胎子を少量喰む。
- 9 黒褐色土 砂主体、赤褐色スコリアを少量喰む、丸胎子を少量喰む。
- 10 黒褐色土 砂主体、粒性土、丸胎子-粒をごく少量喰む。

第31図 縄文時代 土坑 (14)



51号土坑

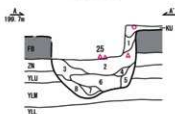
W-18から
北へ0.5m
東へ2m



- 1 黄褐色土 砂主体、炭化物と乳殻をごく少量含む。
- 2 黄褐色土 砂主体、乳殻を少量含む。
- 3 黄褐色土 砂主体、乳殻・ブロックを多量に含む。
- 4 黄褐色土 乳主体、赤褐色スコリアをごく少量含む。
- 5 黄褐色土 乳主体、赤褐色スコリアを含む。

52号土坑

X-110から
北へ3m
東へ5m



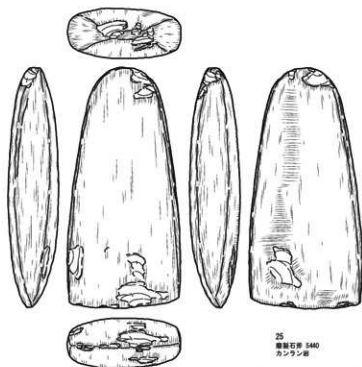
- 1 に広い黄褐色土 砂主体、炭化物をごく少量含む。乳殻を多量に含む。
- 2 黄褐色土 砂主体、乳殻を少量含む。
- 3 黄褐色土 砂主体、乳殻を少量含む。
- 4 黄褐色土 砂主体、乳殻を少量含む。
- 5 黄褐色土 乳主体、赤褐色土殻を含む。
- 6 に広い黄褐色土 砂主体、乳殻を多量に含む。

53号土坑

6-6から
北へ7.5m
東へ2m



- 1 黄褐色土 砂主体、赤褐色・褐色スコリアをごく少量含む。黒色土殻を少量、乳殻子をパツ状に含む。
- 2 黄褐色土 砂主体、黒色土殻をごく少量、乳殻子を多量に含む。
- 3 黄褐色土 砂主体、乳殻子を多量に含む。



25

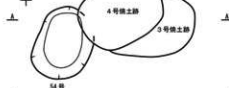
複製石斧 540

カンラン岩



54号土坑

F-8から
北へ1.5m
東へ3m



- 1 黄褐色土 砂主体、炭化物をごく少量、乳ブロックを多量に含む。

55号土坑

W-7から
北へ4m

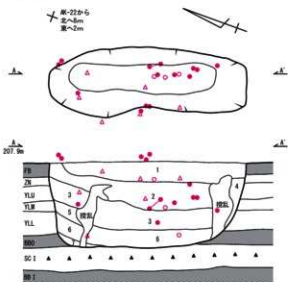


- 1 黄褐色土 砂主体、赤褐色スコリアを含む。炭化物をごく少量含む。乳殻子をパツ状に含む。
- 2 黄褐色土 赤褐色スコリアを含み、黒色土殻をごく少量、乳ブロックを多量に含む。



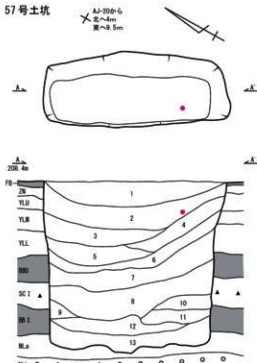
第32図 縄文時代 土坑 (15)

56号土坑



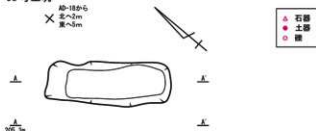
- 1 黒褐色土 珪石土、カワゴ甲ハリスをごく少量、炭化物を少量含む。
- 2 1に類似するが、カワゴ甲ハリスの量が増える。
- 3 2に類似するが、炭化物が多くなる。
- 4 褐色土 珪の締結土。
- 5 褐色土 炭の締結土。
- 6 黒褐色土 珪石土を少量含む。
- 7 黒褐色土 珪石土、珪ブロックを含む。

57号土坑



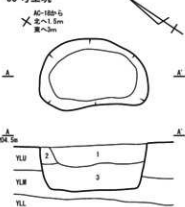
- 1 黒色土 珪石土を少量、カワゴ甲ハリスを少量含む。
- 2 1に類似するが、褐色土ブロックを含む。
- 3 黒色土 珪石土をごく少量含む。カワゴ甲ハリスを含む。
- 4 褐色土 珪石土をごく少量含む。カワゴ甲ハリスを含む。
- 5 4に類似するが、褐色土ブロックを含む。
- 6 4に類似するが、珪石土カワゴ甲ハリスの量が異なる。
- 7 黒褐色土 珪石土、褐色土ブロックを少量、珪ブロックを少量含む。
- 8 黒色土 カワゴ甲ハリス珪ブロックをごく少量含む。
- 9 8に類似、カワゴ甲ハリスの量が異なる。しまりがややゆるくなる。
- 10 黒色土 珪石土をごく少量、カワゴ甲ハリスを含む。
- 11 10に類似、珪石土を少量含む。
- 12 褐色土 カワゴ甲ハリスを少量含む。珪石土、ブロックを含む。
- 13 12に類似、珪石土の量が異なる。しまりがゆるくなる。

58号土坑



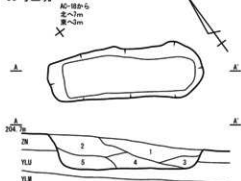
- 1 黒褐色土 珪石土の珪石土を少量含む。
 - 2 1に類似するが、炭化物が多くなる。
 - 3 黒褐色土 珪石土を少量含む。
 - 4 黒色土 珪石土の珪石土を少量含む。
 - 5 黒褐色土 珪石土を少量含む。
 - 6 黒褐色土 珪石土を少量含む。
 - 7 黒褐色土 珪石土を少量含む。
 - 8 黒褐色土 珪石土を少量含む。
 - 9 黒褐色土 珪石土を少量含む。
 - 10 黒褐色土 珪石土の珪石土を少量含む。
- 上層より珪石土が多くなる。

60号土坑



- 1 黒褐色土 珪石土、珪石土を少量含む。
- 2 珪石土を少量含む。
- 3 黒褐色土 珪石土、珪石土を少量含む。

59号土坑



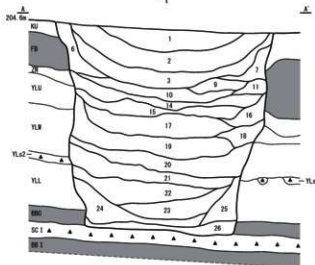
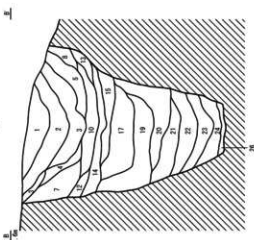
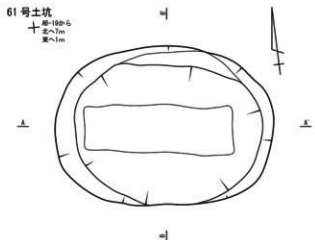
- 1 黒褐色土 珪石土、珪石土を少量含む。
- 2 黒褐色土 珪石土、珪石土を少量含む。
- 3 黒褐色土 珪石土、珪石土を少量含む。
- 4 黒褐色土 珪石土、珪石土を少量含む。
- 5 4に類似するが、珪石土の量が異なる。



第33図 縄文時代 土坑 (16)

61号土坑

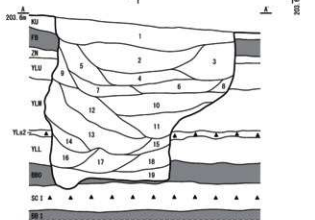
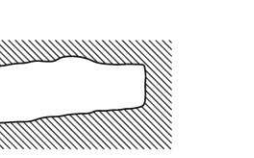
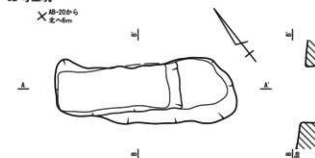
48-19中6
北へ7m
東へ1m



- 1 黒褐色土 粘石スコリアを多量に含む。カワゴ甲ハリスを含む。炭化物を量に含む。
- 2 1に類似するが、カワゴ甲ハリスの量は増え、炭化物は少量になる。
- 3 黒褐色土 粘石スコリアを少量。カワゴ甲ハリスを含む。褐色-褐色スコリアを多量に含む。
- 4 黒色土 粘石スコリアを少量含む。カワゴ甲ハリスを含む。
- 5 黒色土 粘石スコリアを含む。カワゴ甲ハリスを多量に含む。褐色-褐色スコリアを含む。
- 6 黒褐色土 粘石スコリアを少量。カワゴ甲ハリスを少量。褐色-褐色スコリアを少量含む。乳ブロックを多量に含む。
- 7 黒褐色土 粘石スコリアを少量含む。カワゴ甲ハリスを少量含む。
- 8 黒褐色土 粘石スコリアを少量。褐色-褐色スコリアを少量含む。
- 9 黒褐色土 粘石スコリアを少量。カワゴ甲ハリスを多量に含む。乳ブロックを少量含む。
- 10 黒褐色土 粘石スコリアを含む。カワゴ甲ハリスを少量。粘ブロックを少量含む。
- 11 黒褐色土 粘石スコリアを少量。乳ブロックを少量。黒色土ブロックを少量含む。
- 12 黒褐色土 粘石スコリアを少量含む。
- 13 黒褐色土 粘石スコリアを少量含む。
- 14 黒褐色土 粘石スコリアを少量含む。粘石スコリアを少量含む。黒色土ブロックを少量含む。
- 15 14に類似するが、褐色層が薄く、褐色スコリアと乳ブロックを少量含む。粘ブロックの量は減少する。
- 16 黒褐色土 粘石スコリアを少量含む。粘石スコリアを少量含む。
- 17 黒褐色土 粘石スコリアを少量。粘石スコリアを少量含む。
- 18 14に類似するが、乳ブロックを少量含む。
- 19 黒褐色土 粘石スコリアを少量含む。
- 20 黒褐色土 粘石スコリアを少量含む。乳の比率が多くなり、しまりがやや強い。
- 21 黒褐色土 粘石スコリアを少量含む。黒色土ブロックを少量含む。
- 22 21に類似するが、しまりがやや弱くなる。
- 23 黒褐色土 粘石スコリアを少量。粘石スコリアを少量含む。
- 24 23に類似。粘石スコリアを少量含む。粘石スコリアを少量含む。
- 25 23に類似するが、しまりが弱くなる。
- 26 黒褐色土 粘石スコリアを少量含む。粘石スコリアを少量含む。

62号土坑

48-20中6
北へ6m

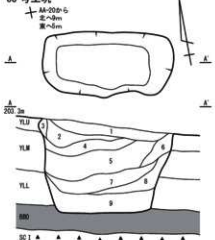


- 1 黒褐色土 粘石スコリアを多量に含む。
- 2 1に類似するが、粘石層が弱くなる。
- 3 黒褐色土 粘石スコリアを少量含む。
- 4 黒褐色土 粘石スコリアを少量含む。
- 5 黒褐色土 粘石スコリアを多量に含む。
- 6 黒色土 粘石スコリアを少量含む。
- 7 黒褐色土 粘石スコリアを少量含む。
- 8 黒褐色土 粘石スコリアを少量含む。
- 9 黒褐色土 粘石スコリアを少量含む。
- 10 黒褐色土 粘石スコリアを少量含む。
- 11 黒褐色土 粘石スコリアを少量含む。
- 12 黒褐色土 粘石スコリアを少量含む。
- 13 黒褐色土 粘石スコリアを少量含む。
- 14 黒褐色土 粘石スコリアを少量含む。
- 15 黒褐色土 粘石スコリアを少量含む。
- 16 黒褐色土 粘石スコリアを少量含む。
- 17 粘石スコリアを少量含む。
- 18 粘石スコリアを少量含む。
- 19 粘石スコリアを少量含む。

0 1:40 1m

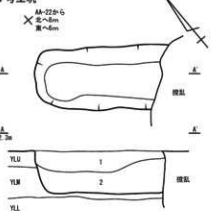
第34図 縄文時代土坑(17)

63号土坑



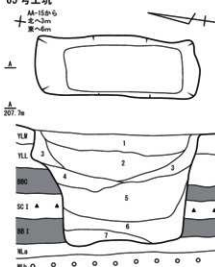
- 63号土坑
- 1 褐色土 砂主体。褐色スコリアをごく少量含む。
 - 2 褐色土 砂主体。褐色土ブロックを少量含む。
 - 3 褐色土 丸の礫層土。
 - 4 褐色土 砂主体。丸ブロックを少量含む。
 - 5 褐色土 砂主体。丸ブロックをごく少量含む。
 - 6 褐色土 砂主体。丸粒を少量含む。
 - 7 褐色土 砂主体。丸ブロックを少量含む。
 - 8 褐色土 丸ブロックをごく少量含む。
 - 9 砂に類似するが、褐色味が強くなる。

64号土坑



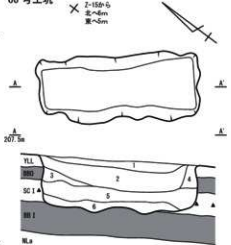
- 64号土坑
- 1 褐色土 砂主体。褐色スコリアと丸ブロックをごく少量含む。
 - 2 黒褐色土 砂主体。丸ブロックを多量に含む。

65号土坑



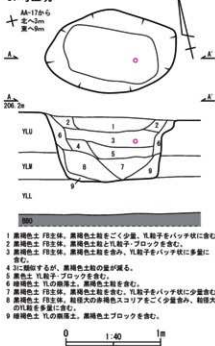
- 65号土坑
- 1 黒色土 褐色スコリア、砕石スコリアを含み、カワゴ甲パリスを多量に含む。丸粒・ブロックを含む。
 - 2 砂に類似するが、SC1ブロックを少量含む。
 - 3 黒褐色土 丸の礫層土。
 - 4 黒褐色土 丸粒を多量に含む。
 - 5 褐色土 褐色スコリア、丸ブロックとSC1ブロックを少量含む。
 - 6 黒褐色土 丸粒と丸ブロックを含む。SC1ブロックを少量含む。
 - 7 黒褐色土 砂の礫層土。丸ブロックとSC1ブロックを多量に含む。

66号土坑



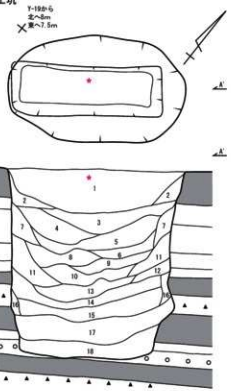
- 66号土坑
- 1 黒褐色土 砕石スコリアを含み、カワゴ甲パリスを多量に含む。丸粒とSC1ブロックを含む。
 - 2 砂に類似するが、カワゴ甲パリスの量がやや減り、SC1ブロックを含まなくなる。
 - 3 黒褐色土 丸の礫層土。砕石スコリアをごく少量含み、カワゴ甲パリスを含む。
 - 4 砂に類似。丸ブロックを多量に含む。
 - 5 黒褐色土 砂主体。褐色味が中強くなる。カワゴ甲パリスをごく少量含む。丸粒とSC1ブロックを含む。
 - 6 砂に類似するが、丸粒を多量に含み、粒径最大60cmのブロックを含む。

67号土坑



- 67号土坑
- 1 黒褐色土 砂主体。黒褐色土粒をごく少量。丸粒子をバット状に含む。
 - 2 黒褐色土 砂主体。黒褐色土粒と丸粒子・ブロックを含む。
 - 3 黒褐色土 砂主体。黒褐色土粒を含み、丸粒子をバット状に多量に含む。
 - 4 砂に類似するが、黒褐色土粒の量が減る。
 - 5 黒褐色土 丸粒子・ブロックを含む。
 - 6 褐色土 丸の礫層土。黒褐色土粒を含む。
 - 7 黒褐色土 砂主体。黒褐色土粒を含む。丸粒子をバット状に少量含む。
 - 8 黒褐色土 砂主体。粒径最大の非褐色スコリアをごく少量含み、粒径最大の丸粒を多量に含む。
 - 9 褐色土 丸の礫層土。黒褐色土ブロックを含む。

68号土坑



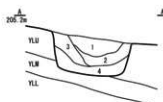
- 68号土坑
- 1 黒色土 網主体。砕石スコリアを多量。カワゴ甲パリスを含む。
 - 2 黒色土 砕石スコリア、カワゴ甲パリスを含み、珪砂を少量含む。
 - 3 砂に類似するが、カワゴ甲パリスを多量に含む。
 - 4 黒褐色土 カワゴ甲パリスを、丸ブロックを多量に含む。
 - 5 砂に類似するが、カワゴ甲パリスの量が減る。
 - 6 黒褐色土 砕石スコリアを少量含む。丸粒子を含む。
 - 7 黒色土 砂の礫層土。丸粒子を含む。
 - 8 黒褐色土 砕石スコリアを少量含む。丸ブロックを含む。
 - 9 黒褐色土 砂主体。丸ブロックを多量に含む。
 - 10 黒褐色土 砂主体。丸ブロックを少量含む。
 - 11 黒褐色土 丸の礫層土。砕石スコリアを少量含む。
 - 12 黒褐色土 丸の礫層土。黒褐色土ブロックを多量に含む。
 - 13 褐色土 砂主体。黒褐色土のブロックを含む。
 - 14 黒褐色土 砂を多量に含み、丸ブロックを多量に含む。
 - 15 黒色土 丸ブロックを少量。黒褐色土ブロックを多量に含む。
 - 16 黒褐色土 砂の礫層土。丸粒を多量。黒色土ブロックを含む。
 - 17 褐色土 砂と混ざった褐色スコリアブロックを含む。
 - 18 黒色土 珪砂土。SC1のブロックを多量。800のブロックを含む。

○ 礫
● 炭化物

第35図 縄文時代 土坑 (18)

69号土坑

9-17から
北へ1m
東へ4m



- 69号土坑
1 黒褐色土 砂主体、丸粒を少量含む。
2 に類似するが、黒色土粒を少量含む。丸粒の量が増え、丸ブロックを少量含むようになる。
3 黒褐色土 丸の脱落。黒色土粒を少量含む。
4 暗褐色土 丸主体、黒褐色土粒・ブロックを少量含む。

70号土坑

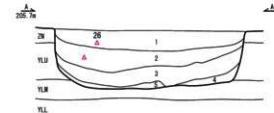
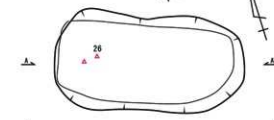
9-21から
北へ4m
東へ4m



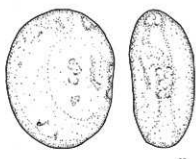
- 70号土坑
1 黒褐色土 砂主体、暗褐色土粒を多量、丸粒・粒を少量含む。
2 暗褐色土 砂主体、暗褐色土粒を含む。丸粒・ブロックを多量に含む。
3 黒褐色土 砂主体、暗褐色土粒と丸粒・ブロックを多量に含む。

71号土坑

9-12から
北へ8m



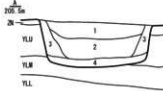
- 1 暗褐色土 砂主体、暗色スコリアを少量含む。
2 黒褐色土 砂主体、黒褐色土粒、丸粒・丸ブロックを少量含む。
3 2に類似するが、粒径大の丸ブロックを含むようになる。
4 黒褐色土 暗褐色土粒を少量、丸粒・丸ブロックを多量に含む。
5 暗褐色土 丸ブロックを含む。



26
第1218
多孔質瓦片

72号土坑

9-12から
北へ5m
東へ1m

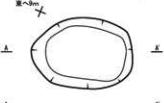


- 1 黒褐色土 砂主体、暗色スコリアを少量含む。黒褐色土粒を含む。
2 に類似するが、丸粒を少量含む。
3 黒褐色土 丸の脱落。黒褐色土粒を少量含む。
4 黒褐色土 粒径大の暗褐色スコリアを少量含む。丸ブロックを多量に含む。



73号土坑

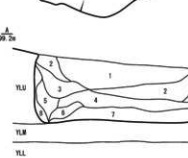
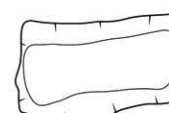
9-16から
北へ1m
東へ3m



- 1 黒褐色土 砂主体、黒色土粒を含む。丸粒子をパンチ痕に少量含む。
2 暗褐色土 砂主体、黒色土粒、丸粒・粒を含む。
3 暗褐色土 丸の脱落。
4 2に類似。丸粒・粒の量が増え、丸ブロックを含むようになる。

74号土坑

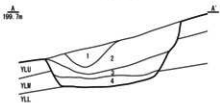
9-17から
北へ4m
東へ2m



- 1 黒褐色土 砂主体、丸粒・粒を含む。
2 黒色土 砂主体、丸粒・ブロックを少量含む。
3 黒褐色土 丸の脱落。黒褐色土粒を少量含む。
4 黒色土 砂主体、黒褐色土粒を含む。丸ブロックを多量に含む。
5 暗褐色土 丸の脱落。黒褐色土粒を多量に含む。
6 黒褐色土 暗褐色土粒と丸粒・ブロックを含む。
7 暗褐色土 粒径大の暗褐色の黒褐色スコリアを少量含む。
8 暗褐色土 丸ブロックを含む。丸粒・ブロックを多量に含む。
9 暗褐色土 丸の脱落。黒褐色土粒を含む。

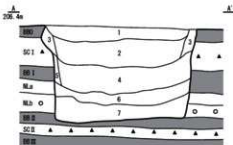
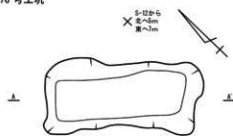
第36図 縄文時代 土坑 (19)

75号土坑



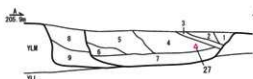
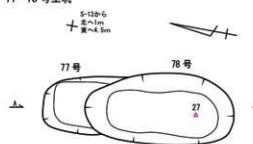
- 1 黒褐色土 砂土層、丸胎子を少量含む。
- 2 黒褐色土 砂土層、丸胎子をバツ状に含む。
- 3 2に相当するが、炭化物をごく少量含む。丸ブロックを含むようになる。
- 4 黒褐色土 丸ブロックを多量に含む。

76号土坑



- 76号土坑
- 1 黒色土 磁石スコリア。カワゴロ等ハイスをごく少量含む。赤褐色スコリアを多量に含む。褐色スコリアを含む。丸胎子を多量に含む。
 - 2 黒褐色土 砂土層。磁石スコリアを少量含む。磁石を含む。
 - 3 黒褐色土 磁石層。磁石層の上部。
 - 4 黒褐色土 砂土層。磁石スコリアと磁石ブロックをごく少量含む。
 - 5 黒褐色土 炭の堆積層。褐色層がやや多い。磁石スコリアをごく少量含む。
 - 6 黒褐色土 粘土層。磁石スコリアを少量含む。
 - 7 黒色土 磁石スコリアを少量含む。磁石ブロックをごく少量含む。

77・78号土坑



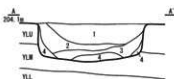
- 1 黒褐色土 丸の磁石層。黒色土層を含む。
- 2 黒褐色土 砂土層。炭化物をごく少量含む。黒色土層を少量含む。丸胎子を含む。
- 3 黒褐色土 丸の磁石層。赤褐色の赤褐色スコリアを少量含む。
- 4 黒褐色土 砂土層。黒色土層を含む。丸胎子をバツ状に少量含む。
- 5 黒褐色土 砂土層。磁石層の炭化性の赤褐色スコリアをごく少量含む。丸胎子をバツ状に多量に含む。
- 6 5に相当するが、丸胎子を含むようになる。
- 7 黒褐色土 上部より褐色層が厚くなる。黒色土層を少量。丸胎子をバツ状に含む。下部に丸ブロックを少量含む。
- 8 黒褐色土 砂土層。丸胎子をバツ状に含む。
- 9 黒褐色土 砂土層。磁石層の炭化性の赤褐色スコリアを少量含む。丸胎子をバツ状に多量。丸ブロックを少量含む。



27
石罫 3711
黒曜石 押洋島鳥居跡

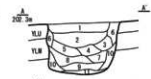
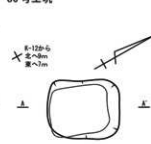


79号土坑



- 1 黒褐色土 砂土層。炭化物をごく少量。丸胎子をバツ状に少量含む。
- 2 黒褐色土 砂土層。丸胎子をごく少量含む。
- 3 黒褐色土 炭化物と丸胎子を含む。
- 4 黒褐色土 丸の磁石層。

80号土坑



- 1 黒褐色土 砂土層。丸胎子をごく少量含む。
- 2 1に相当するが、丸胎子をバツ状に含むようになる。
- 3 黒褐色土 砂土層。丸胎子を含む。
- 4 黒褐色土 砂土層。丸胎子を少量含む。
- 5 3に相当するが、磁石丸の丸胎子を含む。
- 6 黒褐色土 炭の堆積層。黒褐色土層を含む。
- 7 黒褐色土 砂土層。丸胎子を少量含む。
- 8 7に相当するが、磁石丸の丸胎子の量が増える。
- 9 黒褐色土 砂土層。丸胎子を含む。
- 10 黒褐色土 丸の磁石層。黒褐色土層を含む。
- 11 黒褐色土 磁石丸の赤褐色スコリアを少量。丸ブロックを多量に含む。

石罫



第37図 縄文時代 土坑 (20)

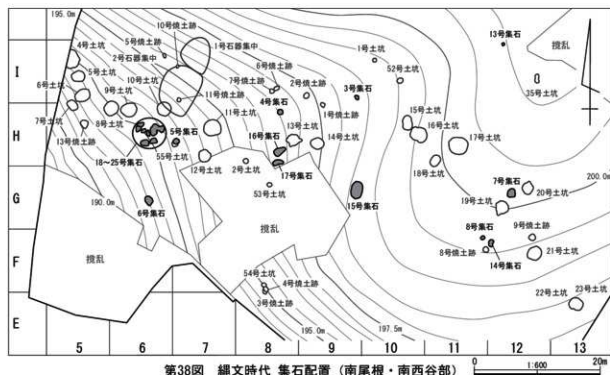
3 集石(第38~41図)

25基の集石が検出された。南尾根、南西谷部で多く確認されている。中でも南西谷部の密集度は高く、遺構の検出面が栗色土層付近であることから、4・6・15~25号集石は一括性を持った遺構として捉えることも可能である。

明確に掘り込みを持つと考えられるのは、1~8号集石である。また、確認された集石の大半は検出面が栗色土層付近であるが、3・5・8・14号集石は検出面が漸移層以下であり、複数の時期の遺構が存在していると推測される。

集石構成は明確に赤化しており、被熱していると考えられる。比較的重量のある、大型の礫が多くなっている。

また、覆土や範囲内から土器や石器、礫、炭化物などの遺物が出土しているが、遺構と直接関係するかどうかは不明である。集石出土遺物については、一括して記載を行った。



第38図 縄文時代 集石配置(南尾根・南西谷部)

集石出土遺物(第39・41図28~30)

28は、7号集石から出土した口縁部片である。第II群f類(茅山上層式)に分類される。口縁に沿って爪形文が施されている。波頂部は血状突起となっており、突起の周縁にも爪形文が施されている。

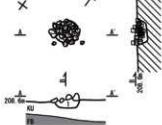
29は、18号集石から出土した小型の石鏃である。形状はやや面長で、全体的に精緻に加工されている。脚部は短く、基部はへ字に近い。被熱は確認できなかった。石材は黒曜石諏訪屋ヶ台群である。

30は、20号集石から出土した小型の石鏃である。脚部と右側縁を折損しており、裏面の一部は大きく抉れてしまっていることから、製作途中の失敗品とも考えられる。折断面から微細な加工を行っており、再利用を試みた意図は感じられるが、形状が整っておらず、石鏃の完成品とは考えにくい。被熱は確認できなかった。石材は黒曜石箱根畑宿群である。

23・25号集石からは、第II群b類(清水柳E類)の土器片が出土したが、いずれも同一個体と考えられる破片の分布の中心は、集石よりも南西部にあるため、包含層出土土器で報告している。23号集石のものは包含層掲載の68、25号集石のものは70である。

1号集石

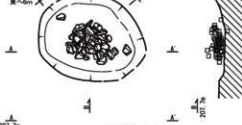
0-8から
北へ4.5m
東へ7.5m



1 褐色土 和土状、褐色スコリア、炭化物、黒褐色土粒を少量含む。

2号集石

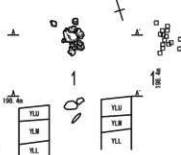
0-7から
北へ5m
東へ4m



1 褐色土 和土状、赤褐色土粒とスコリア、炭化物を少量含む。

3号集石

1-8から
北へ1.5m
東へ3m



4号集石

0-8から
北へ4m
東へ4.5m



1 黒褐色土 炭化物と和土をごく少量含む。

5号集石

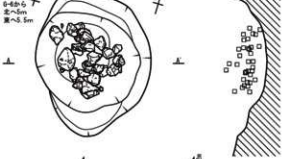
0-7から
北へ4m



1 黒褐色土 砂主体、炭化物、乳粘子を多く含む。
2 黒褐色土 2%の砂質土、炭化物をごく少量、乳粘子を少量含む。
3 黒褐色土 砂主体、焼土粒を多く含む、炭化物を多量に含む。
4 黒褐色土 砂主体、径10-50μmの炭化物を多量に含む。
5 黒褐色土 砂主体、炭化物をごく少量、乳粘子を少量含む。
6 黒褐色土 乳の粘質土、炭化物を少量含む。

6号集石

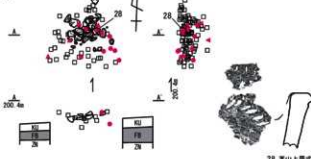
0-6から
北へ4m
東へ5.5m



1 褐色土 砂主体、焼土粒をごく少量含む、炭化物を多く、和のブロックを少量含む。
2 に近い褐色土 和土状、焼土粒と炭化物をごく少量、砂粒を少量含む。

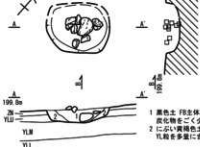
7号集石

0-12から
北へ6m
東へ3m



8号集石

F-110から
北へ3m
東へ3m

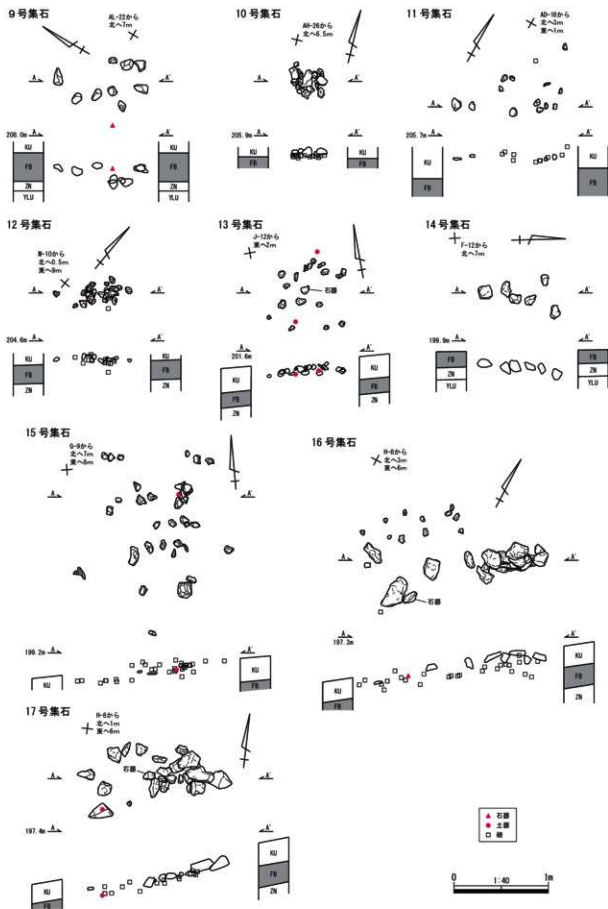


1 黒色土 砂主体、焼土粒と炭化物をごく少量含む。
2 に近い黒褐色土 砂主体、乳粘子を多量に含む。

▲ 石器
● 土器
● 炭化物
□ 焼

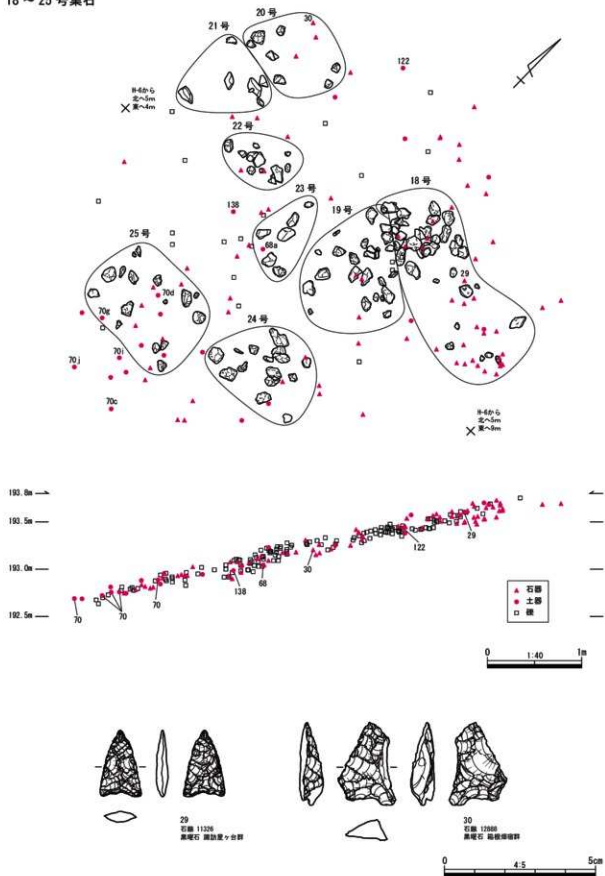
0 1:40 1m

第39図 縄文時代 集石(1)



第40図 縄文時代 集石(2)

18～25号集石



第41図 縄文時代 集石(3)

4 焼土跡 (第42~45図)

22基の焼土跡が検出された。南西谷部に比較的集中している。2、3基が隣接して配置されている例が多く、単独のものはあまり確認できない。これらが全て人為的な痕跡であるのかについては判然としない。しかし、焼土の範囲は狭いため、例えば山火事等の大規模な事例ではなく、焼けの範囲は限定的であったと考えられる。

覆土は、明確に赤化した土がブロック状に入り込む層と、スス状に黒化した層が確認できるが、両者はマーブル状に混ざっている例も多く、明確な区分は困難である。また、検出面は、1~9・18・19号焼土跡は漸移層以下、10~17・20~22号焼土跡は、富士黒土層から栗色土層であり、集石同様、複数の時期の遺構が存在していると推測される。

また、16号焼土跡は周辺からも炭化物が出土している。11号焼土跡は2号石器集中内に位置しているが、関係は不明である。8号焼土跡は8・14号集石と隣接しているが、関係は不明である。

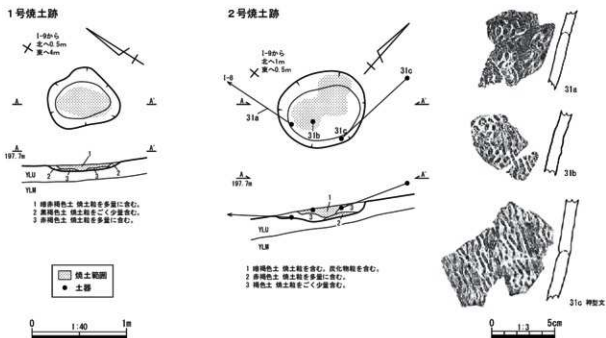
覆土や範囲内から土器や石器などの遺物が出土しているが、遺構と直接関係するかどうかは不明である。また、どの資料にも明確な被熱は確認できなかった。出土物については、一括して記載を行った。

焼土跡出土遺物 (第42・45図31・32)

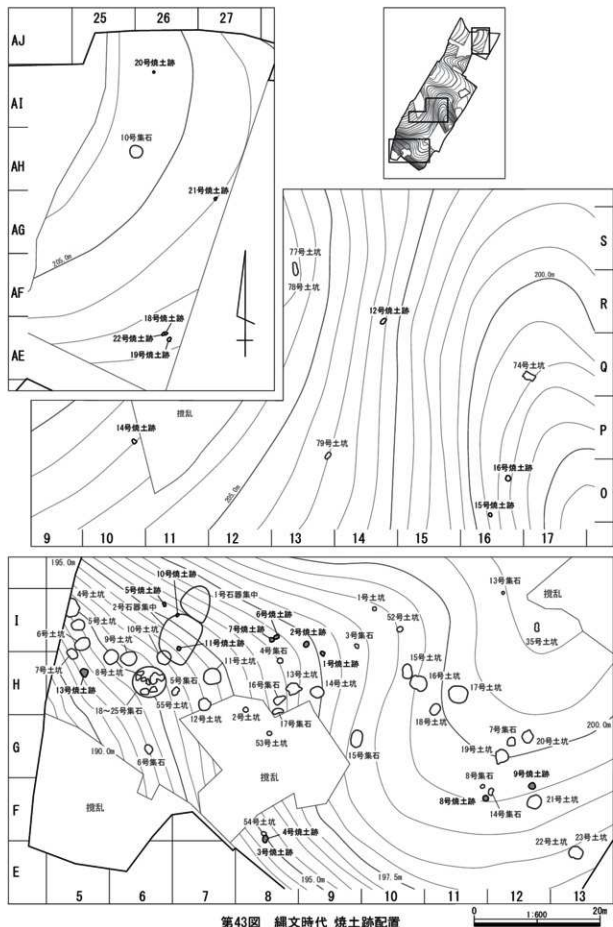
31a~cは、2号焼土跡から出土した、同一個体と考えられる胴部片である。第I群a類(押型文2種(複合文))に分類される。31aは、大半を楕円文が占めているが、施文には乱れが見られる。31bでは山形文と楕円文が左右半々となり、31cでは山形文のみの施文である。いずれも原体を縦位に施文している。胎土に多量の石英、白色粒子(デイスイト)、黒色粒子を含んでいる。

32は、13号焼土跡から出土した小型の石鏃である。脚部を作出しようとする加工は、顕著には確認できず、平基に近い。先端部が折損しているが、急激に突出していた可能性もある。裏面には未加工な面を残している。被熱は確認できなかった。石材は黒曜石諏訪星ヶ台群である。

なお8号からは第V群b類(勝坂式)、14号からは第III群(早期無文土器)の破片が出土している。

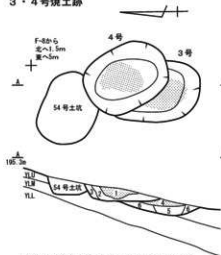


第42図 縄文時代 焼土跡 (1)



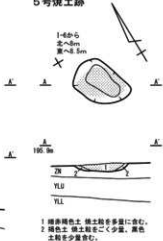
第43図 縄文時代 焼土跡配置

3・4号焼土跡



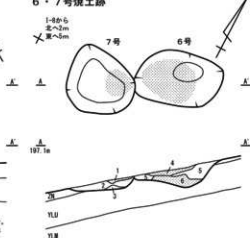
- 1 赤褐色土 焼土跡を占め、炭化物をごく少量含む。
- 2 暗褐色土 焼土跡を少量、炭化物をごく少量含む。
- 3 暗褐色土 円主体、Fブロックを多量に含む。
- 4 暗褐色土 焼土跡を占め、炭化物をごく少量含む。
- 5 暗褐色土 F円主体、焼土跡、炭化物をごく少量、丸粒を少量含む。
- 6 暗褐色土 円主体、焼土跡を少量含む。

5号焼土跡



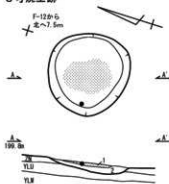
- 1 暗赤褐色土 焼土跡を多量に含む。
- 2 暗褐色土 焼土跡をごく少量、黒色土粒を少量含む。

6・7号焼土跡



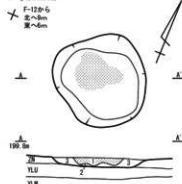
- 1 暗褐色土 焼土跡を多量、炭化物をごく少量含む。
- 2 暗褐色土 焼土跡を少量、炭化物をごく少量、黒色土ブロックを少量含む。
- 3 暗褐色土 焼土跡をごく少量、黒色土粒を少量含む。
- 4 暗褐色土 焼土跡を多量、炭化物をごく少量含む。
- 5 暗褐色土 焼土跡をごく少量、丸粒を少量含む、炭化物をごく少量含む。
- 6 暗褐色土 焼土ブロックを占め、炭化物をごく少量含む。

8号焼土跡



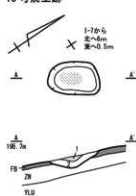
- 1 赤褐色土 焼土跡を占む、炭化物をごく少量含む。
- 2 暗褐色土 焼土跡、炭化物をごく少量含む。

9号焼土跡



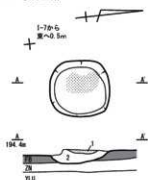
- 1 暗赤褐色土 焼土跡を占む、炭化物をごく少量含む。
- 2 赤褐色土 焼土ブロック。
- 3 灰黄褐色土 炭化物をごく少量、黒色土粒を多量に含む。

10号焼土跡



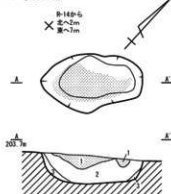
- 1 暗赤褐色土 焼土跡を多量に含む。
- 2 暗褐色土 焼土跡をごく少量含む。

11号焼土跡



- 1 赤褐色土 焼土跡を多量、炭化物をごく少量含む。
- 2 暗褐色土 焼土跡をごく少量含む。

12号焼土跡

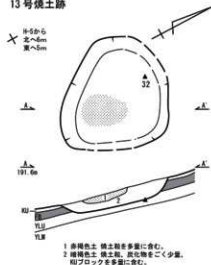


- 1 赤褐色土 焼土跡、炭化物を占む。
- 2 赤褐色土 F円主体、焼土跡を少量、炭化物をごく少量含む。
- 3 暗褐色土 F円主体、焼土跡をごく少量含む。

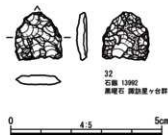


第44図 縄文時代 焼土跡 (2)

13号焼土跡



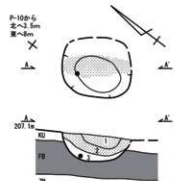
- 1 赤褐色土 焼土跡を多量に含む。
- 2 緑褐色土 焼土跡、炭化物をごく少量、
矽ブロックを多量に含む。



32
石器 13902
黒曜石 諏訪産γ台群

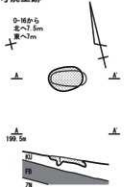
■ 焼土範囲
▲ 石器
● 土器

14号焼土跡



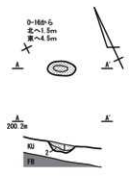
- 1 赤褐色土 焼土跡を多量、炭化物をごく少量含む。
- 2 緑褐色土 焼土跡を少量、炭化物を多量に含む。
カワゴウハリスをごく少量含む。
- 3 黒褐色土 焼土跡をごく少量含む。

16号焼土跡



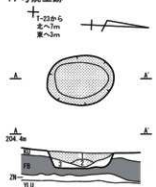
- 1 濃い赤褐色土 焼土跡、炭化物を少量含む。

15号焼土跡



- 1 緑赤褐色土 焼土跡、黒色土ブロックを少量含む。
- 2 緑赤褐色土 焼土跡を多量に含む。

17号焼土跡



- 1 緑赤褐色土 焼土跡を多量、炭化物を少量含む。
- 2 緑赤褐色土 焼土跡、焼土土を少量に含む。
- 3 黒褐色土 焼土跡をごく少量含む。

0 1:40 1m

第45図 縄文時代 焼土跡(3)

5 石器集中 (第46~49図)

(1) 1号石器集中

I-7グリッドから、漸移層～栗色土層にかけて検出された。上下に大きな幅を持って分布しているが、出土のピークは富士黒土層の中部である。南北方向5.5m、東西方向3.7mの範囲に、429点の石器、2点の炭化物、7点の土器、2点の礫が密集して分布している。付近は、北東から南西にかけて急激に下る谷部の傾斜地である。

石器群は、石鏃2点、微細な剥離痕を有する剥片1点、石核2点、剥片類423点、原石1点である。石材は全て黒曜石であり、天城柏峠群5点、神津島恩馳島群1点、諏訪屋ヶ台群49点、和田小深沢群1点、和田鷹山群59点、分析不可等82点、未分析232点である。出土した石器の大半は微細な碎片で、両極剥離によって出たブランクである。よって、1号石器集中は剥片剥離を行った作業場跡であると考えられる。しかし、両極剥離を行った石核は1点(2点が接合)しか確認できず、楔形石器は出土していない。石鏃が2点見つかり、いずれも未製品の要素を含んでいるが、絶対数が少ないことから、石鏃の製作場跡とも考えにくい。そのため、1号石器集中でどのような作業が行われていたかは不明である。炭化物が数点出土しているが、石器に被熱の痕跡はほとんど確認できなかった。また、微細な剥片が大半であったため、出土した黒曜石の半数以上が産地分析を行えなかった。しかし、分析を行った5割弱を見ると、和田鷹山群、諏訪屋ヶ台群が多くなっている。未分析の資料も、同様の傾向にあることが、肉眼鑑定から推測される。

7点の土器は、全て早期前半～後半の資料であり、そのうち第I群c類(判ノ木山西式)が3点、第II群b類(清水柳E類)が2点である。

(2) 2号石器集中

1号石器集中の南西部に隣接して、H-6～I-7グリッドから検出された。1号石器集中同様、漸移層～栗色土層にかけて、上下に大きな幅を持って分布しているが、出土のピークは富士黒土層の中部である。南北方向7.4m、東西方向6.2mの範囲に、1,429点の石器、44点の土器、29点の礫が、遺構範囲の特に南側に密集して分布している。付近は、北東から南西にかけて急激に下る谷部の傾斜地である。

石器群は、尖頭器2点、石鏃8点、石鏃未製品2点、スクレイパー類4点、楔形石器1点、微細な剥離痕を有する剥片3点、剥片類1,403点、原石1点、礫器1点、敲石1点、磨敲石2点、台石1点である。石材は、黒曜石1,418点(天城柏峠群16点、神津島恩馳島群13点、箱根黒岩橋群2点、諏訪屋ヶ台群244点、蓼科冷山群3点、和田鷹山群29点、分析不可等262点、未分析849点)、ホルンフェルス1点、ガラス質黒色安山岩3点、細粒安山岩1点、流紋岩1点、輝石安山岩5点である。出土した石器の大半は、黒曜石製の微細な碎片である。これらには、両極剥離によって出たブランクが多く含まれている。よって、2号石器集中も剥片剥離を行った作業場跡であると考えられる。しかし、両極剥離を行った石核は出土していない。製品がいくつか確認されているが、絶対数が少なく、2号石器集中でどのような作業が行われていたかも不明である。

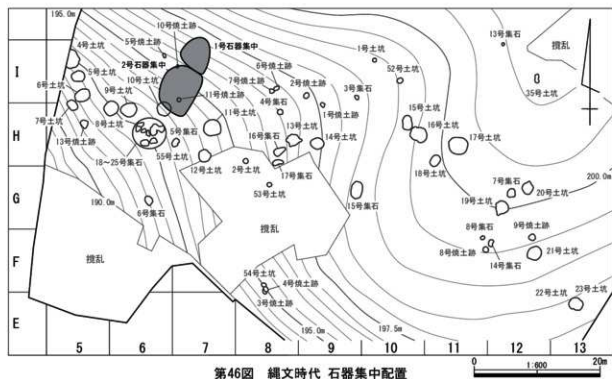
微細な剥片が大半であったため、出土した黒曜石の8割近くが産地分析を行えなかった。しかし、分析を行った2割を見ると、諏訪屋ヶ台群が突出して多くなっている。未分析の資料も、同様の傾向にあることが、肉眼鑑定から推測される。

また、44点の土器は、大半が早期前半～後半の資料であり、第I群c類(判ノ木山西式)が21点、第III群(早期条痕文・無文土器)が22点を占めている。

第2表 縄文時代 1・2号石器集中石器組成表

1号石器集中	(未製品含む) 石版	微細な剥離痕を 有する剥片	石核	剥片類	原石	計
天城柏峠群				5		5
神津島恩馳島群				1		1
諏訪屋ヶ台群			2	46	1	49
和田小沢沢群				1		1
和田鷹山群	2	1		56		59
分析不可等				82		82
未分析				232		232
計	2	1	2	423	1	429

2号石器集中	尖頭器	(未製品含む) 石版	スクレイパー	エンド・ スクレイパー	スクレイパー	ノックド・ スクレイパー	楔形石器	微細な剥離痕を 有する剥片	剥片類	原石	礮器	敲石	磨盤石	台石	計
天城柏峠群									16						16
神津島恩馳島群		1			2				10						13
箱根黒岩橋群		1							1						2
諏訪屋ヶ台群	2	7	1				1	1	232						244
夢科冷山群									3						3
和田鷹山群		1				1		2	25						29
分析不可等									262						262
未分析									849						849
ホルンフェルス										1					1
ガラス質黒色安山岩									3						3
縞縞安山岩									1						1
流紋岩									1						1
輝石安山岩											1	1	2	1	5
計	2	10	1	2	1	1	1	3	1403	1	1	1	2	1	1429



第46図 縄文時代 石器集中配置

(3) 1号石器集中出土遺物 (33~35)

33は、第I群c類(判ノ木山西式)の口縁部片である。外面は、横位の条痕を地文とし、細沈線を格子状に施文している。口縁上半はやや反しており、段を作り出しているようにも見える。内面にも横位の条痕調整を施している。

34は平基の石鏃である。全体的に加工は縁辺のみとなっており、表裏両面とも、器体中央には未加工な面を残している。左側面や基部には、片側からのみの加工の箇所も見られ、また器体に厚みを残していることから、未製品である可能性も考えられる。基部の一部を折損している。石材は黒曜石和田鷹山群である。

35は、涙滴形に近い小型の石鏃である。小型の幅広剥片の末端部に加工を施して、尖端部を作出している。縁辺部以外は、大部分が未加工のまま残されており、素材剥片の打点部も残存している。そのため、未製品である可能性も考えられる。石材は黒曜石和田鷹山群である。

(4) 2号石器集中出土遺物 (36~43)

36a・bは、同一個体と考えられる口縁~副部片である。第I群c類(判ノ木山西式)に分類される。外面は、横位の条痕を地文とし、先割竹管状工具による平行沈線を、格子状に施文している。36bの下方、沈線の終端には、先割状工具による刺突が列状に施されている。内面にも横位の条痕調整を施している。

37は口縁部片である。第III群1種(早期条痕文土器)に分類される。内外面に縦位の条痕が施されている。外面の条痕は明瞭で、調整というよりも文様として施文されたと考えられる。口唇部には棒状工具による刻みが施されている。

38は尖頭器である。小型の縦長剥片を使った周縁加工尖頭器で、素材剥片の縁辺に、両面から急斜度で剥離を入れている。石材は黒曜石諏訪星ヶ台群である。

39は尖頭器の一部である。器体の大半を折損しているため、全体形状を窺うことはできない。表裏両面に加工が施されているが、縁辺に潰れが確認できることから、両極剥離が行われていたと考えられる。そのため尖頭器ではなく、石鏃の一部の可能性も考えられる。石材は黒曜石諏訪星ヶ台群である。

40は小型のエンド・スクレイパーである。横長剥片の末端部に連続した加工を施して、刃部としている。加工は高さをもっている。裏面にも加工が確認できるため、刃部は石匙に近い形状を呈している。石材は黒曜石諏訪星ヶ台群である。

41は小型のサイド・スクレイパーである。素材剥片の側縁に微細な加工を連続して施し、刃部としている。上部を折損している。石材は黒曜石神津島恩馳鳥群である。

42は、小型の縦長剥片を素材としたノッチド・スクレイパーである。素材剥片の両側縁に微細な加工を施して、ノッチ状の刃部を作出している。加工の大半は腹面側からであるが、一部に背面側からの加工も確認できる。石材は黒曜石和田鷹山群である。

43は、脚部を有した小型の石鏃である。全体的に加工は縁辺のみとなっており、表裏両面とも器体中央には未加工な面を残している。基部の凹みは顕著ではなく、脚部は平基に近くなっている。石材は黒曜石諏訪星ヶ台群である。

44は、扁平な円礫を素材とした大型の台石である。表裏両面に平坦な面を持つが、表面には敲打痕のような弱い凹みが存在する。石材は輝石安山岩である。



33 刺/木山石



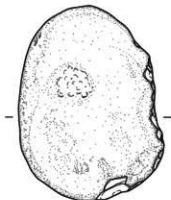
36a 刺/木山石



36b 刺/木山石



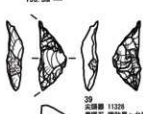
37 条線文



44
台石 11857
黒石山前



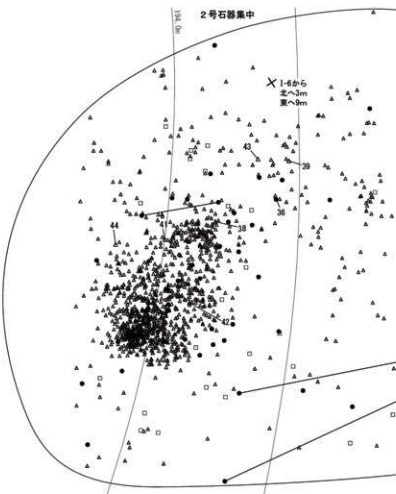
38
尖頭器 11275
黒曜石 燧石層+台群



39
尖頭器 11326
黒曜石 燧石層+台群



40
エンド・スクレイパー 8670
黒曜石 燧石層+台群



197.2m —
197.0m —

196.5m —

196.0m —

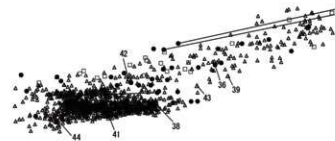
195.5m —

195.0m —

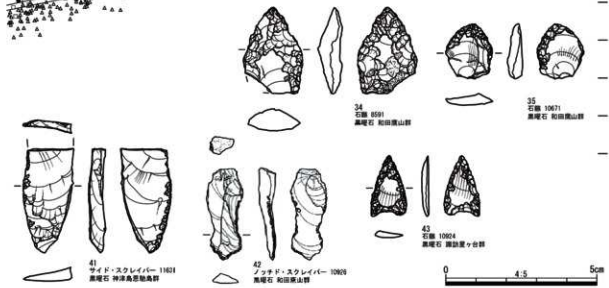
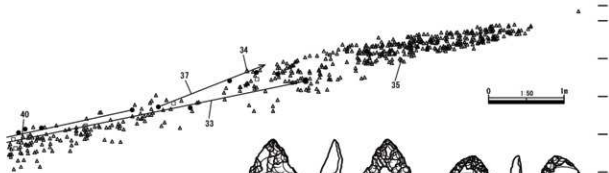
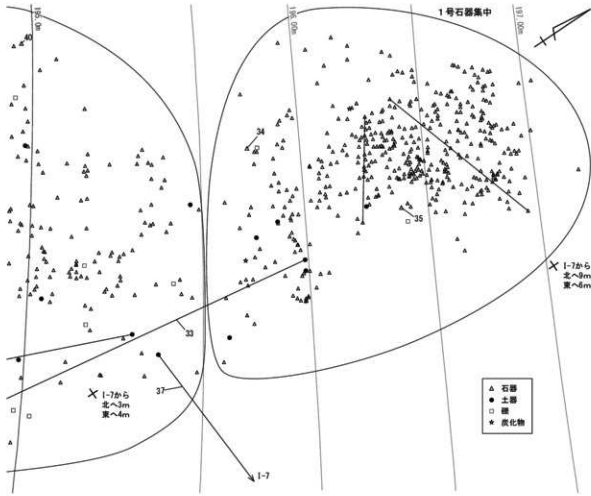
194.5m —

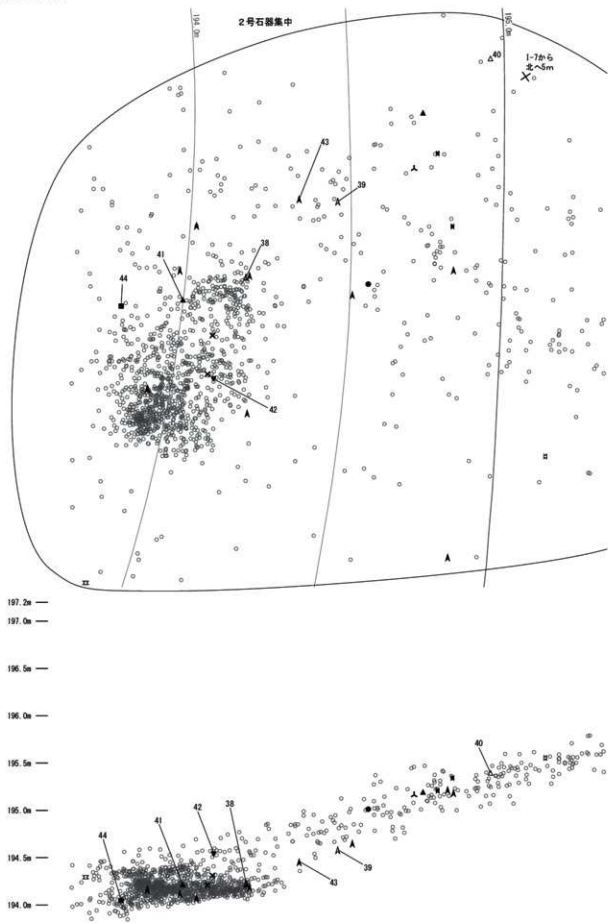
194.0m —

193.5m —

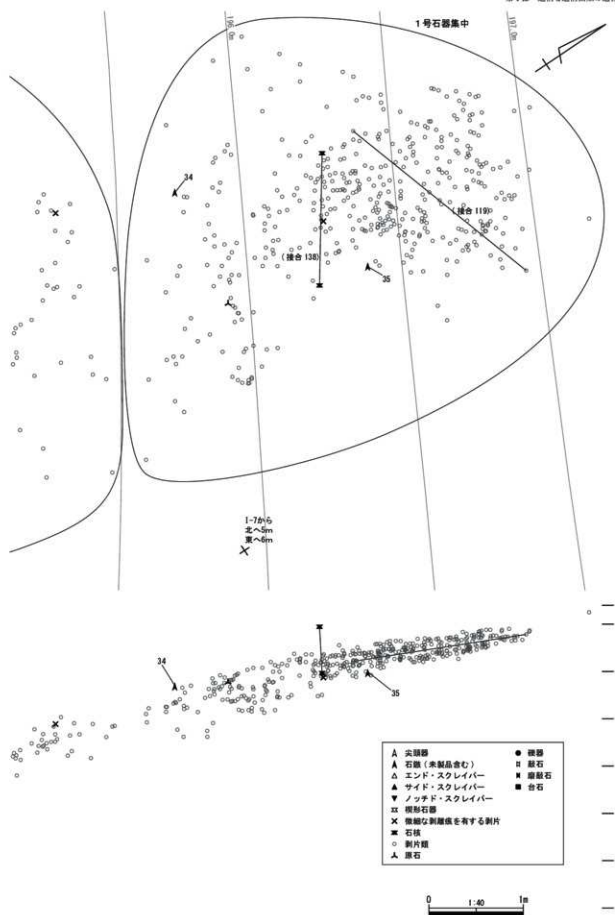


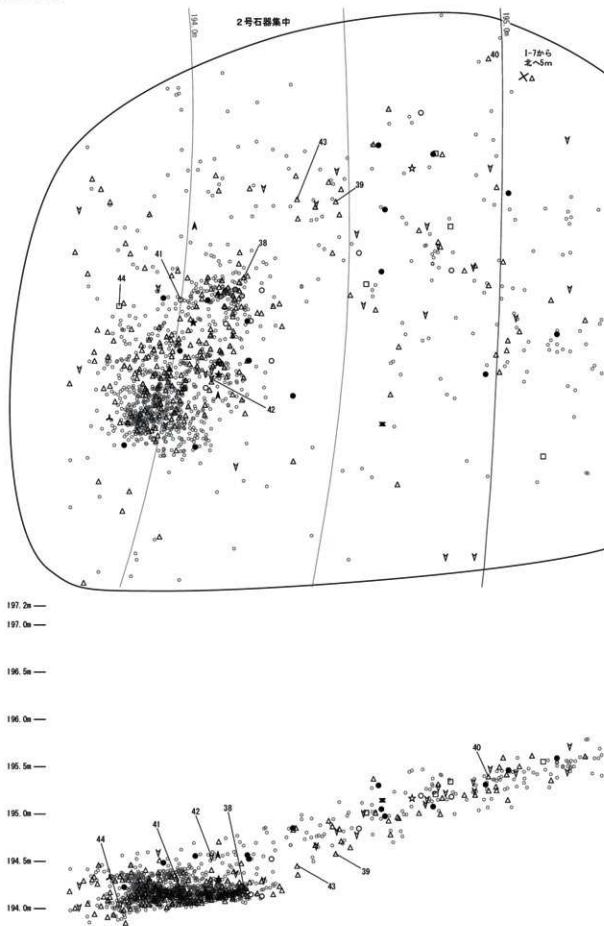
第47図 縄文時代 1・2号石器集中



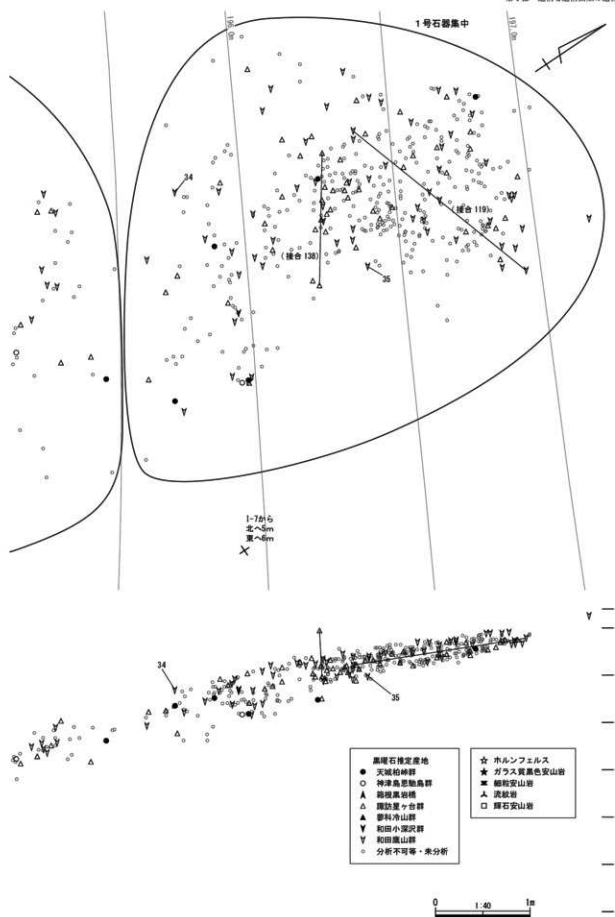


第48図 縄文時代 1・2号石器集中器種別分布





第49図 縄文時代 1・2号石器集中石材別分布



第3表 縄文時代 土坑計測表

遺構番号	グッド	検出面	検出面長径(m)	底部長径(m)	深さ(m)	土器	石器	礎	分類
1号	I-10	YLU	0.60	0.50	0.62				1類
2号	H-9	YLM	0.80	0.56	0.64				
3号	L-11	YLU	1.72	0.56	0.76				
4号	I-5	UK~KGP	3.29	0.63	1.98			5	
5号	I-5	FB	2.01	0.60	1.44			7	
6号	I-5	FB	2.57	0.66	1.74			3	
7号	H, I-5	FB	1.83	0.60	1.50		1	1	
8号	H-5~I-6	UK~KGP	2.69	0.83	2.34	2		8	
9号	H-6	KU	2.40	0.57	1.74	2	1	8	
10号	H-6	KU	2.22	0.51	2.22		1	2	
11号	H-7	KU	2.75	0.60	1.80	5	1	14	
12号	H-7	KU	1.92	0.48	1.41	2			
13号	H-8	YLU	2.57	0.78	0.96	5	2	1	
14号	H-9	KU	2.34	0.69	1.53	7		2	
15号	H-10	FB	2.25	0.42	1.32	11		6	
16号	H-10, 11	KU	2.99	0.66	1.69	4	2	5	
17号	H-11	FB	2.99	0.84	1.92	25	1	21	
18号	H-11	YLU	1.92	0.72	1.20	7	1	15	
19号	G-12	YLU	2.16	0.48	1.50	29	3	26	
20号	G-12	YLU	1.74	0.39	1.38	15	2	21	
21号	F-12	FB	2.28	0.90	1.29	7		13	
22号	E-13	YLU	1.98	0.66	0.96	6		5	
23号	E-13	YLU	1.74	0.63	1.02	8	2	10	
24号	AJ-20	ZN	1.04	0.72	0.76		1		
25号	AC, AD-18	ZN	1.54	1.44	0.20			1	
26号	AB-17	KU	1.36	0.96	1.36				
27号	AA-18	KU	1.52	1.20	2.08				
28号	AB, AC-18	YLU	1.56	1.44	0.52				
29号	AB-19	YLU	1.56	1.16	1.50			1	
30号	AC-22	ZN	1.42	1.34	1.16				
31号	AC-21	KU	1.40	1.30	1.44				
32号	AC-20	KU	1.80	1.56	1.28				
33号	AA-16	ZN	1.64	1.32	0.96				
34号	M-6	YLL	1.36	1.04	0.44			1	
35号	I-12	YLU	1.38	0.88	1.00	1			
36号	AK-21	YLM	0.80	0.80	0.36			1	
37号	AJ-22	1号住居跡検出面	0.70	0.42	0.90				
38号	AK-22	YLL	1.16	0.50	0.96			3	
39号	AJ-22	YLL	1.56	1.20	1.16				
40号	A1-23	YLU	0.84	0.28	1.08				
41号	AG-18	ZN	1.04	0.38	1.24				
42号	AC-20	YLU	1.00	0.42	1.16				
43号	Z-15	BBO	0.80	0.34	0.64				
44号	Y-14	FB	1.02	0.54	1.48				
45号	X-18	YLU	0.82	0.64	0.24				
46号	W, X-22	ZN	1.76	0.68	1.40				
47号	V-21	YLM	0.64	0.56	0.32				
48号	V, W-24	ZN	1.36	0.80	1.00				
49号	U-15, 16	ZN	0.94	0.68	0.70				
50号	M, N-16	YLU	1.04	0.50	0.48				
51号	M-18	ZN	0.70	0.48	0.84				
52号	I-10	KU	0.92	0.54	0.40		3		
53号	G-8	YLU	0.70	0.52	0.36		1		
54号	F-8	-	0.78	0.58	0.16				
55号	H-7	ZN	(0.90)	0.48	0.24				

遺構番号	グリッド	検出面	検出面長径(m)	底部長径(m)	深さ(m)	土器	石器	礎	分類
56号	AK-22	FB	2.10	1.56	0.92	9	4	3	5類
57号	AJ-20	FB	1.98	1.92	1.74	1			
58号	AD-18	ZN	1.32	1.04	1.08				
59号	AC-18	ZN	1.64	1.40	0.32				
60号	AC-18	YLU	1.14	0.92	0.48				
61号	AB-19	KU	2.32	1.56	2.08				
62号	AB-20	KU	1.92	1.20	1.68				
63号	AA-20	YLU	1.40	0.98	0.92				
64号	AA-21	YLU	(1.36)	(1.24)	0.44				
65号	AA-15	YLM	1.76	1.24	1.12				
66号	Z-15	YLL	1.68	1.62	0.48				
67号	AA-17.18	YLU	1.40	1.00	0.48			1	
68号	Y-19	FB	1.88	1.40	2.00				
69号	V.W-17	YLU	0.84	0.70	0.40				
70号	W-21	YLU	1.58	1.40	0.16				
71号	W-13	ZN	2.02	1.86	0.62		2		
72号	W-13	ZN	1.40	1.04	0.48				
73号	U-16	ZN	1.08	0.84	0.40				
74号	Q-17	ZN	1.76	1.64	0.60				
75号	O-19	YLU	1.44	1.02	0.46				
76号	S-12	BBO	1.60	1.36	1.00				
77号	S-13	YLM	(0.44)	(0.72)	0.40				
78号	S-13	YLM	1.60	1.20	0.36		1		
79号	P-13	YLM	1.16	1.04	0.40				
80号	K-12	YLU	0.78	0.62	0.54				

() は残存値

第4表 縄文時代 集石計測表

遺構番号	グリッド	検出面	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	土器	石器	礎	分類
1号	Q-9	KU	0.28	0.36	0.10			32	掘り込みあり
2号	Q-7	KU	0.52	0.80	0.16			52	
3号	I-9	YLU	0.46	0.40	0.28			15	
4号	H-8	KU	0.72	0.80	0.18	1		33	
5号	I-9	ZN	0.64	0.64	0.28			93	
6号	G-6	KU	1.36	0.48	0.48			35	
7号	G-12	KU	0.60	0.56	0.12	10	4	87	
8号	F-11	ZN	0.36	0.40	0.16			9	
9号	AL-21	FB	1.44	0.60	—		1	9	掘り込みなし
10号	AH-25.26	KU	0.48	0.32	—			19	
11号	AD-18	KU	0.64	1.20	—			14	
12号	M-10	KU	0.36	0.88	—			22	
13号	I-12	KU	0.90	0.92	—	2	1	17	
14号	F-12	ZN	0.68	0.88	—			6	
15号	G-9	KU	1.72	1.92	—	1		37	
16号	H-8	KU	1.12	2.28	—		1	32	
17号	H-8	KU	1.08	1.44	—	1	1	25	
18号	H-6	KU	1.76	1.54	—	2	17	39	
19号	H-6	KU	0.60	0.60	—		4	23	
20号	H-6	KU	0.68	1.00	—		4	7	
21号	H-6	KU	0.76	1.00	—		1	7	
22号	H-6	KU	0.50	0.76	—		2	12	
23号	H-6	KU	0.80	0.46	—			6	
24号	H-6	KU	1.00	1.08	—	1	2	15	
25号	H-6	KU	0.88	0.72	—	4	3	16	

第5表 縄文時代 焼土跡計測表

遺構番号	グリッド	検出面	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	土器	石器	礎
1号	H-1~9	YLU	0.78	0.61	0.06			
2号	I-9	YLU	0.92	0.80	0.14	6		
3号	E-F-8	YLU	(0.96)	(0.66)	0.16			
4号	F-8	YLU	0.92	0.66	0.14			
5号	I-6	ZN	0.59	0.40	0.09			
6号	I-8	ZN	(0.96)	0.58	0.20			
7号	I-8	ZN	0.74	0.72	0.10			
8号	F-11, 12	ZN	0.88	0.84	0.10	1		
9号	F-12	ZN	1.00	0.96	0.10			
10号	I-7	FB	0.56	0.34	0.13			
11号	I-7	FB	0.64	0.60	0.15			
12号	R-14	FB	1.08	0.62	0.30			
13号	H-5	KU	1.20	(1.16)	0.16		1	
14号	P-10	KU	0.76	(0.64)	0.28	1		
15号	O-16	KU	0.30	0.28	0.08			
16号	O-16	KU	0.36	0.24	0.04			
17号	T-23	KU	0.72	0.52	0.14			
18号	AE-25	ZN	0.49	0.48	—			
19号	AE-26	ZN	0.70	0.41	—			
20号	A1-26	KU	0.34	0.32	—			
21号	AG-27	KU	0.55	0.26	—			
22号	AE-26	KU	0.61	0.34	0.11			

()は残存値

第6表 縄文時代 石器集中計測表

遺構番号	グリッド	検出面	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	土器	石器	礎
1号	I-7	ZN~FB	5.50	3.69	—	7	429	2
2号	H-6~I-7	ZN~FB	7.42	5.75	—	44	1429	29

第7表 縄文時代 遺構出土土器観察表

採回番号	採回層	遺構名	群	種	型式	文様調整等	産地	色調(R/G)	胎土	
1	a	10	住居	V	b	磨板式	耳状把手。三角押文を施文。	無	7.5YR6/6	石英、輝石、赤色粒子、長石、黒雲母、白色岩片
1	b	10	住居(旧伊)	V	b	磨板式	口縁部は無文等。その下部に隆帯で三角・四角・円形で区画。三角形の区画内には三叉文を施文。隆帯部に角押文・三角押文を施文。その下部に波状沈線。	無	7.5YR5/4	石英、輝石、赤色粒子、白色粒子
2	a	10	住居(旧伊)	V	b	磨板式	口縁部は無文等。胴部に隆帯で半円状・三角形状のモチーフを区画。隆帯に沿って区画内に三角押文を施文。ヘラ状工具による刻削と穿孔のある耳状小把手を貼付。内外面ともにナズ。	無	7.5YR6/6	石英多、輝石多、白色粒子
2	b	-	住居(旧伊)	V	b	磨板式	底部。無文。	無	7.5YR5/4	石英、輝石、白色粒子
3	a	10	住居(旧伊)	V	b	磨板式	口縁部。口縁部は無文等。その下に隆帯の連続した形式で区画。胴部に棒状工具による斜位の押引きが施文された板状の隆帯や斜めが施文された短隆帯を貼付。隆帯とその周囲に角押文。内外面にナズ。	無	5YR6/4	石英多、輝石多、白色岩片多
3	b	10	住居(旧伊)	V	b	磨板式	胴部に棒状工具による斜位の押引きが施文された板状の隆帯や斜めが施文された短隆帯を貼付。隆帯とその周囲に角押文。内外面にナズ。	無	5YR6/6	石英多、輝石多、白色岩片多
3	c	-	住居(旧伊)	V	b	磨板式	底部。無文。内外面にナズ。	無	7.5YR5/4	石英多、輝石多、赤色粒子多、白色粒子多、黒色粒子多
4	a	10	住居(旧伊)	V	b	磨板式	口縁部。器形はキャリバー形。4.単位突起状口縁。突起部頂上に貫通した環状把手。把手に爪形の削み。把手より2本の隆帯が垂下し爪形の削みを施文。	無	5YR4/4	石英、長石、黒雲母、黒色岩片少
4	b	10	住居(旧伊)	V	b	磨板式	胴部器形もキャリバー形。斜方向に施したように把手を取り付け。把手上部両側に円形の裝飾が施される。	無	5YR4/4	石英多、黒色粒子、金雲母、白色岩片
4	c	10	住居(旧伊)	V	b	磨板式	底部(平底)。残存する外面全体に施文。	無	5YR4/4	石英多、黒色粒子、金雲母、白色岩片
5	10	住居(旧伊)	V	b	磨板式	隆帯の連続した形式に平行し波状に角押文を施文。	無	5YR4/6	石英、輝石、赤色粒子、白色粒子、金雲母	
6	10	住居(旧伊)	V	b	磨板式	キャタビラ文。	無	7.5YR6/6	石英、白色粒子	
7	10	住居(旧伊)	V	b	磨板式	縦やかな波状口縁。口唇部直下に隆帯を貼付し、ヘラ状工具による斜突刺を施文。外面胴部に隆帯の連続した形式の縦文。内面は丁字調整。	無	7.5YR6/4	石英、輝石、赤色岩片、白色岩片、黒色岩片	
8	10	住居(旧伊)	V	b	磨板式	隆帯を三叉に貼付けヘラ状工具による斜突刺を施文。	無	5YR5/6	石英、輝石、赤色粒子、白色粒子、黒雲母	

探出 番号	探出 層位	遺構名	群	種	型式	文様調整等	織種	色調(1/2a)	胎土		
9	11	9号土坑	VI	c	1	型式不明	無	7.5YR6/6	輝石、白色粒子、黒色粒子		
11	11	16号土坑	IV	c	踏蹴c式	縦位の集合状線により円形貼付文を貼付。	無	7.5YR4/3	石英、輝石多、赤色薄片、白色薄片		
12	11	17号土坑	IV	a	北白川下層式	羽状線文の縦目と先割状工具による横位の刺突列を貼付。	無	10YR6/3	石英、白色粒子		
13	11	17号土坑	IV	c	踏蹴c式	口縁部直下に半截竹管による横位の連続爪形文と円形貼付文を貼付。集合状線を交差するように施す半截竹管による横位の連続爪形文を施す。	無	5YR4/3	石英、輝石、金象母多		
14	11	17号土坑	IV	c	踏蹴c式	集合状線をX字状に施す。その交点に円形貼付文を貼付。	無	7.5YR5/3	石英、輝石、白色粒子、黒象母		
15	11	18号土坑	IV	c	踏蹴c式	口縁部直下に2条の結節浮線文を横位に貼付。その下に縦状線を斜位に施す。縦位に2条の結節浮線文と円形貼付文を貼付。	有	7.5YR3/1	石英、輝石多、白色粒子、長石、黒象母、赤色薄片		
16	11	19号土坑	VI	c	3	型式不明	無	10YR5/4	石英、白色粒子、灰色粒子、長石、黒象母		
17	a	11	20号土坑	II	f	八つ崎式	口縁部直下には遺存穴状突起をナデにより平坦に調整。口縁に沿って棒状工具による刺突。	有	10YR5/2	石英、白色粒子、長石、白象母	
17	b	11	20号土坑	II	f	八つ崎式	深状口縁。口唇部に斜め、外面に棒状工具による刺突列を縦直状に施す。内面に磨痕。	有	10YR6/4	石英、白色粒子、白象母	
17	c	11	20号土坑	II	f	八つ崎式	胴部屈曲部より上に棒状工具による刺突列を縦直状に施す。屈曲部に1条の横位の刺突列、屈曲部直下に1条の刺突列。	有	10YR4/1	石英、白色粒子、長石、白象母	
18	11	20号土坑	II	h	胎形式	内外面を磨痕調整後、へう状工具による刺突列を施す。	有	10YR6/3	石英、長石、黒象母		
19	11	20号土坑	VI	c	3	型式不明	無	7.5YR5/4	石英、白色粒子多、黒色粒子、長石、砂粒多		
21	11	21号土坑	II	h	胎形式	へう状工具による横位の刺突列。内外面に染色調整。	有	10YR5/2	石英、赤色粒子、長石、黒象母		
22	11	21号土坑	VI	b	冠之内式	文様による染色文。	無	7.5YR5/4	石英、白色粒子、長石、黒象母		
23	11	22号土坑	II	k	行越式	口縁部、条帯を地文。口縁縁部と外面に横位、斜位の長粒磨線による刺突。	有	5YR6/6	石英、白色粒子、黒色粒子、長石、白象母		
28	12	7号集石	II	f	茅山上升式	口縁に沿って爪形文を施す。口縁直縁部は爪形文が施された直状突起。	有	7.5YR4/2	石英、白色粒子、長石、黒象母		
31	a	12	12号集石跡	I	a	2	押突文 複合文	無	7.5YR6/4	石英、白色粒子、黒色粒子、赤色薄片、角閃石	
31	b	12	12号集石跡	I	a	2	押突文 複合文	有	7.5YR6/4	石英、白色粒子、黒色粒子、白色薄片	
31	c	12	12号集石跡	I	a	2	押突文 複合文	無	7.5YR5/3	石英多、白色粒子多、黒色粒子多、赤色薄片、角閃石	
33	12	1号石器集中	I	c	2	判ノ木山西式	縦やかな深状口縁。口縁部に斜め、外面は横位の条帯を地文とし斜位の結節状線を施す。内面に横位の条帯。	有	10YR6/6	石英、白色粒子、黒色粒子、長石	
36	a	12	2号石器集中	I	c	3	判ノ木山西式	口縁部、外面は横位の条帯を地文とし、先割状工具による格子状の文様文を施す。内面に横位の条帯を施す。	有	7.5YR4/3	石英、白色粒子、長石
36	b	12	2号石器集中	I	c	3	判ノ木山西式	格子状の文様線の終端に先割状工具により横位に刺突列を施す。	有	7.5YR5/2	石英、赤色粒子、白色粒子、長石
37	12	2号石器集中	III	1	型式不明	口縁部、口唇部に棒状工具による斜め、内外面に縦位の条帯。	有	10YR5/3	石英、輝石、白色粒子、黒色薄片		

第8表 縄文時代 遺構出土石器一覽表

遺構名	探出 番号	探出 層位	探出 番号	技術 番号	器種	石材	推定 産地	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	接合	X線検	Y線検	Z線検
11号土坑	10	12	6619		環石	VAn		116.0	97.3	64.7	1026		-92653.812	34926.736	194.237
20号土坑	20	12	6054		環石	VBa		90.5	87.5	41.0	383		-92663.428	34976.417	199.645
24号土坑	24	12	2144		環石	Ob	K208	19.1	16.1	3.5	0.77		-92774.400	35058.947	208.079
52号土坑	25	12	5440		環石	Pe		127.3	59.6	26.3	345.09		-92646.391	34956.157	199.260
71号土坑	26	12	3218		環石	VBa		100.8	84.3	49.2	626		-92500.390	34987.105	205.369
78号土坑	27	12	3711		環石	Ob	K209	13.6	16.0	3.0	0.37		-92550.457	34983.811	205.713
18号集石	39	12	11326	KU	石鏡	Ob	SHD	21.8	13.6	3.8	0.88		-92653.883	34917.867	193.805
20号集石	20	12	12888	KU	石鏡	Ob	HNUJ	27.1	18.9	7.7	3.31		-92652.965	34914.835	193.204
13号集石跡	32	12	13992		環石	Ob	SHD	15.8	15.3	3.2	0.84		-92652.962	34906.012	191.257
1号石器集中	34	12	8591	KU	石鏡	Ob	NDTY	28.4	19.6	7.3	3.30		-92643.501	34922.449	196.340
1号石器集中	35	12	10671	ZN	石鏡	Ob	NDTY	17.9	15.3	(4.8)	(0.90)		-92642.243	34924.237	196.463
2号石器集中	38	12	11275	FB	尖頭器	Ob	SHD	25.8	10.3	3.9	0.91		-92648.641	34920.109	194.227
2号石器集中	39	12	11328	ZN	尖頭器	Ob	SHD	22.7	(9.1)	(4.7)	(0.73)		-92647.387	34919.967	194.580
2号石器集中	40	12	8670	KU	エンド・スクレイパー	Ob	SHD	17.8	23.6	7.5	2.92		-92645.202	34919.634	196.397
2号石器集中	41	12	11631	FB	サイド・スクレイパー	Ob	K208	34.4	16.6	5.3	2.46		-92649.327	34919.933	194.217
2号石器集中	42	12	10926	FB	ノッチド・スクレイパー	Ob	NDTY	29.9	11.6	5.8	1.28		-92649.524	34920.800	194.539
2号石器集中	43	12	10924	ZN	石鏡	Ob	SHD	19.7	11.8	2.1	0.42		-92647.713	34919.730	194.451
2号石器集中	44	12	11857	FB	台石	AnPyi		256	189	67	4200		-92649.905	34919.624	194.047

()は欠損